

CA ARCserve D2D

ユーザ ガイド

r15



本書及び関連するソフトウェア ヘルプ プログラム(以下「本書」と総称)は、ユーザへの情報提供のみを目的とし、CA はその内容を予告なく変更、撤回することがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、複製、開示、修正、複製することはできません。本書は、CA または CA Inc. が権利を有する秘密情報であり、かつ財産的価値のある情報です。ユーザは本書を開示したり、CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に使用することはできません。

上記にかかわらず、本書に記載されているソフトウェア製品に関連して社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、該当するソフトウェアのライセンスを受けたユーザは、合理的な範囲内の部数の本書の複製を作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を各複製に添付することを条件とします。

本書のコピーを作成する上記の権利は、ソフトウェアの該当するライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは CA に本書の全部または一部を複製したコピーをすべて CA に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本書の使用に起因し、逸失利益、投資の喪失、業務の中断、営業権の損失、データの損失を含むがそれに限らない、直接または間接のいかなる損害が発生しても、CA はユーザまたは第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、該当するライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2010 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての商標、商号、サービスマークおよびロゴは、それぞれ各社に帰属します。

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

CA ARCserve D2D のサポート リンク

CA サポート オンラインは、技術的な問題を解決する際に役立つリソースの豊富なセットを提供し、重要な製品情報にも容易にアクセスできます。CA サポートでは、信頼できるアドバイスをいつでも簡単に利用できます。以下のリンクを使用すると、問題を解決する際に役立つさまざまな CA サポート サイトにアクセスできます。

サポートの紹介

このリンクでは、契約条件、請求、サービス レベル目標 (SLO)、サービス時間など、保守プログラムおよびサポート サービスに関する情報を提供します。

<http://www.ca.com/jp/support/>

サポートの登録

CA Support Online 登録フォームへのリンクで、これにより製品サポートを有効にします。

<http://www.casupport.jp/support/supportonline/>

テクニカル サポートへのアクセス

CA ARCserve D2D のワン ストップ サポート ページへのリンクです。

<http://www.casupport.jp/resources/storagesupp/>

目次

第 1 章: CA ARCserve D2D について	7
概要.....	7
CA ARCserve D2D ユーザ ガイド.....	7
機能.....	8
CA ARCserve D2D の仕組み.....	12
ブロック レベルの増分バックアップの仕組み.....	13
継続的な増分バックアップの仕組み.....	14
検証バックアップの仕組み.....	15
ファイル レベルのリストアの仕組み.....	16
ベア メタル復旧の仕組み.....	17
第 2 章: CA ARCserve D2D のインストール	19
インストールに関する考慮事項.....	19
インストール処理のオペレーティング システムに対する影響.....	20
CA ARCserve D2D のインストール.....	27
サイレント インストール.....	29
第 3 章: CA ARCserve D2D の紹介	31
使用方法.....	31
CA ARCserve D2D ユーザ インターフェース.....	32
サーバ選択リスト.....	34
ジョブ モニタ パネル.....	34
バックアップ ステータスの概要.....	35
データ保護のサマリ.....	36
バックアップ履歴のサマリ.....	37
機能タスク バー.....	38
サポートおよびコミュニティへのアクセス タスク バー.....	39
CA ARCserve D2D モニタ.....	41
すべてのフィード.....	42
バックアップ設定の管理.....	43
保護設定の指定.....	44
バックアップ スケジュールの指定.....	53
バックアップ設定の指定.....	56
バックアップ拡張設定の指定.....	59

第 4 章: CA ARCserve D2D の使用法	65
バックアップの考慮事項.....	65
今すぐバックアップを実行.....	69
Microsoft Hyper-V 環境での CA ARCserve D2D.....	72
リストアの考慮事項.....	74
リストア方式.....	75
リストア ボックス.....	76
復旧ポイントによるリストア.....	78
ファイル/フォルダの検索によるリストア.....	83
アプリケーションのリストア.....	89
アプリケーションのリストア - MS Exchange Server.....	90
アプリケーションのリストア - MS SQL Server.....	96
復旧ポイントのエクスポート.....	100
CA ARCserve D2D バックアップからの VHD ファイルの作成.....	103
ログの表示.....	106
CA ARCserve D2D のリモート展開.....	107
サーバ選択リストの管理.....	110
ブートキットの作成.....	112
ベア メタル復旧の実行.....	115
CA ARCserve D2D ライセンスの追加.....	129
サーバの通信プロトコルの変更.....	131
第 5 章: CA ARCserve D2D のトラブルシューティング	133
トラブルシューティングの概要.....	133
CA ARCserve D2D に関する問題.....	133
索引	139

第 1 章: CA ARCserve D2D について

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[概要](#) (7 ページ)

[CA ARCserve D2D ユーザ ガイド](#) (7 ページ)

[機能](#) (8 ページ)

[CA ARCserve D2D の仕組み](#) (12 ページ)

概要

CA ARCserve D2D は、ディスク ベースのバックアップ製品であり、ビジネス上の重要な情報を保護および復旧する際に、高速で簡単に使用できる、信頼性の高い方法を提供するように設計されています。CA ARCserve D2D は、マシン上の変更をブロック レベルでトラッキングし、変更されたブロックのみを増分方式でバックアップする軽量なソリューションを提供します。そのため、CA ARCserve D2D を使用すると、バックアップの実行頻度を増やすことができ(最小間隔 - 15 分)、各増分バックアップのサイズ(およびバックアップ ウィンドウ)が削減されるため、これまでよりも最新のバックアップを利用できるようになります。また、CA ARCserve D2D では、ファイル/フォルダ、ボリューム、アプリケーションをリストアしたり、1 つのバックアップからベア メタル復旧を実行することもできます。

CA ARCserve D2D ユーザ ガイド

CA ARCserve D2D ヘルプ システムに含まれている同じトピックは、PDF 形式の「ユーザ ガイド」でも参照できます。この PDF 版ユーザ ガイドの最新バージョンには、次のリンクからいつでもアクセスできます: 「[CA ARCserve D2D ユーザ ガイド](#)」

機能

バックアップ

CA ARCserve D2D には、以下のバックアップ機能があります。

- フル、増分、検証などの異なる種類のバックアップを実行できます。
- 選択されたボリュームのみをバックアップするように指定するボリューム フィルタリング機能を提供します。
 - 指定されたバックアップ先がローカル ボリュームにある場合、そのボリュームがバックアップされないことを通知する警告メッセージが表示されます。
 - システム/ブート ボリュームがバックアップ用に選択されていない場合、バックアップをベア メタル復旧(BMR)に使用できないことを通知する警告メッセージが表示されます。
- マシンのすべての指定されたボリュームを保護します(ボリュームにバックアップ先が含まれている場合を除く)。
- バックアップ スケジュールを設定/変更できます(カスタマイズしたバックアップをすぐに開始することもできます)。
- 複数のマシンをリモートで管理できます(一度に 1 つずつ)。
- CA ARCserve D2D と CA ARCserve Backup の両方から同時にバックアップを実行できます。
- ステータス/通知情報を表示し、すぐにアクションを実行できるトレイ アイコンを提供します。

ブロック レベルの増分バックアップ

- 前回正常に完了したバックアップの後に変更された、ソース ボリューム上のブロックのみをバックアップします。
- バックアップ データの量が大幅に減ります。

ファイルが大きく、その一部のみが変更された場合、CA ARCserve D2D では、変更された部分のみを増分バックアップとしてバックアップします。ファイル全体のバックアップは実行しません。
- 消費されるディスク容量と時間も削減されます。
- これまでより頻繁にバックアップを実行できるため、リカバリ用のバックアップ イメージを最新に保つことができます(15 分間隔)。

継続的な増分 (I²) スナップショット

- 最初に 1 つのフル バックアップを作成し、(最初のフル バックアップ以降は) 継続的に増分バックアップを作成します。
- 使用するストレージ容量を削減し、バックアップをこれまでより高速で実行します。また、実稼働サーバへの負荷を軽減します。
- 使用するディスク ストレージを最適化しながら、増分の変更を自動的に分割 (マージ) します。

アプリケーションの整合性を保つバックアップ

- Windows ボリューム シャドウ コピー サービス (VSS) を利用して、VSS に対応したアプリケーションのデータ整合性を保ちます。
- Microsoft SQL Server および Microsoft Exchange Server の両方を (フル惨事復旧を実行せずに) 回復できます。

アドホック バックアップ

注: アドホック バックアップとは、事前に準備したり計画に組み込んだりするのではなく、必要となった場合に作成するバックアップです。

- スケジュールされたバックアップ以外に、「アドホック」でバックアップを実行できる柔軟性があります。

たとえば、フル、増分、検証バックアップを繰り返し実行するスケジュールが設定されている状況でマシンに大幅な変更を加える場合、次にスケジュールされたバックアップを待つかわりに、すぐにバックアップを実行することができます。

- カスタマイズされた (スケジュールされていない) 復旧ポイントを追加できるため、必要な場合には以前の Point-in-Time までロールバックすることができます。

たとえば、パッチまたはサービス パックをインストールした後、マシンのパフォーマンスに悪影響を及ぼすことが判明した場合、そのパッチやサービス パックが含まれていないアドホックのバックアップ セッションまでロールバックすることができます。

バックアップ先の変更

- バックアップ先を変更する機能を使用できます。バックアップ先のボリュームの使用サイズが最大容量に達した場合、CA ARCserve D2D では、バックアップ先を変更した後にフルまたは増分バックアップを続けて実行できます。

注: デスティネーションのしきい値に電子メール通知を設定することもできます。設定すると、指定したしきい値に達した場合に通知されます。

復旧ポイントのエクスポート

- 復旧ポイント情報をエクスポートし、致命的な惨事の場合にはオフサイトに安全に格納する機能を提供します。復旧ポイントを複数の場所に保存することもできます。また、デスティネーションに空き容量がない場合、その時点の正確な状態を示す 1 つの復旧ポイントにバックアップを統合することを検討してください。エクスポートする復旧ポイントを選択すると、指定した時点に作成されたバックアップ ブロックだけでなく、最新のフル バックアップ イメージを再作成するのに必要な以前のバックアップ ブロックすべてがキャプチャされます。

バックアップ ステータス モニタ

CA ARCserve D2D では以下をモニタできます。

- 前回のバックアップ ステータス
- 復旧ポイント
- バックアップ先の容量
- 保護サマリ
- 最新のバックアップ
- 全バックアップの成功率
- ライセンス通知

ジョブ ステータス モニタ

CA ARCserve D2D では以下をモニタできます。

- 次にスケジュールされたジョブに関する詳細
- 現在実行されているジョブに関する詳細

リストア

CA ARCserve D2D には、以下のリストア機能があります。

- 特定の復旧ポイントからのデータのリストア
- リストアするファイル/フォルダの検索/参照
- リストア先を別のサーバに設定

リストアの種類

CA ARCserve D2D のリストアには 3 種類あります。

- **ファイル レベルのリストア**
バックアップされたファイル/フォルダをリストアします。

■ アプリケーションのリストア

バックアップされた Microsoft SQL Server/Microsoft Exchange データをアプリケーション レベルでリストアします。

■ ベア メタル復旧 (BMR)

- 「ベア メタル」からコンピュータ システムを復旧します。オペレーティング システム、アプリケーション、および(惨事復旧やサーバ間のマイグレーションなどのために)バックアップされたシステム全体を再構築するまたはリストアするのに必要なデータ コンポーネントが対象となります。
- 異なるハードウェアにリストアし、ハードウェアの差違を解決します。
- 必要な場合には、サイズの拡張および容量の大きいディスクへのリストアが可能です。

ディスク サイズの変更

- ベア メタル復旧の実行中、別のディスクにイメージをリストアし、必要な場合には(ドライブ上に保存されたデータを損なうことなく)ディスク パーティションのサイズを変更することができます。
- 別のディスクにリストアする場合、新しいディスクの容量は元のディスクと同じサイズか、元のディスクより大きいサイズにする必要があります。

注: ディスク サイズの変更は、ベーシック ディスクの場合にのみ使用できません。ダイナミック ディスクには対応していません。

リモート展開

CA ARCserve D2D をサーバにインストールした後、さらに他のサーバにリモートで展開することができます。

CA ARCserve D2D の仕組み

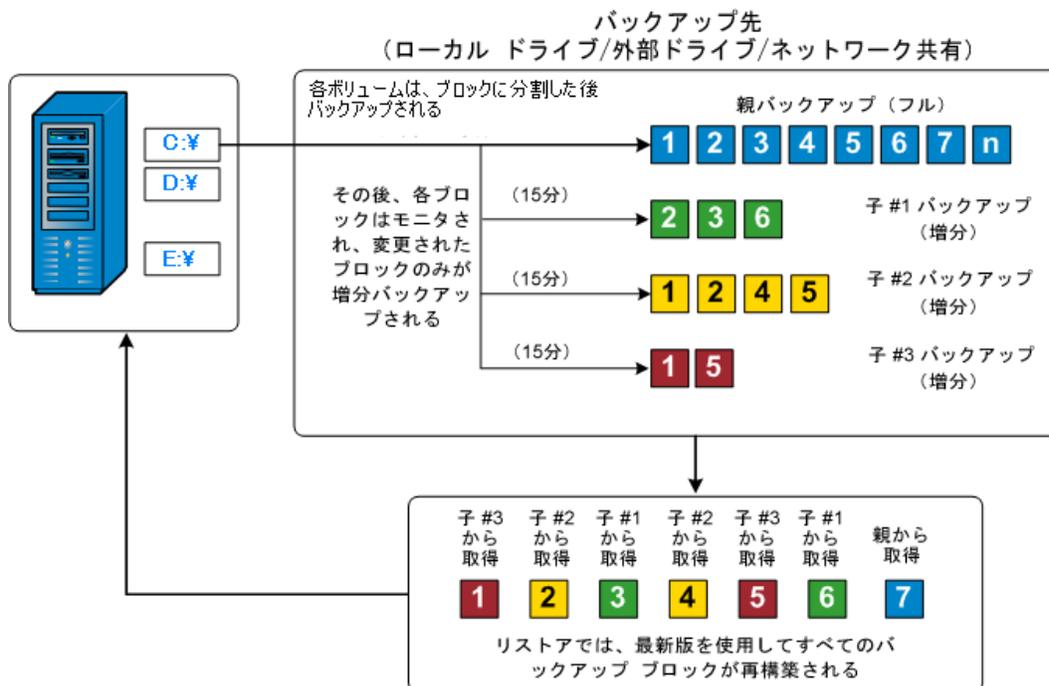
CA ARCserve D2D を使用すると、マシン全体のブロック レベルのバックアップを高い頻度で定期的に行うことができます。これらのバックアップは、内部ドライブ、外付けドライブ、リモート ネットワーク共有のいずれかに保存できます。バックアップ サイクルが永久に継続されることを避けるため、バックアップされているボリュームをバックアップ先として指定しないでください。CA ARCserve D2D では、フル、増分、または検証の各種類のバックアップを実行できます。

CA ARCserve D2D の仕組みに関する基本的なプロセスはシンプルです。(スケジュールによって、または手動で)バックアップが開始されると、CA ARCserve D2D によって、VSS スナップショットがキャプチャされ、最後に正常に完了したバックアップから変更されたブロックのみがバックアップされます。このブロック レベルのバックアップ処理中、CA ARCserve D2D はデータをキャプチャするだけでなく、オペレーティングシステム、インストールされているアプリケーション (Microsoft SQL および Microsoft Exchange のみ)、環境設定、必要なドライバなどに関連するすべての情報を記載したカタログを作成します。必要な場合には、このバックアップされたイメージをリストアして、データまたはマシン全体を回復できます。

ブロック レベルの増分バックアップの仕組み

(スケジュールによって、または手動で開始されて) 起動したとき、CA ARCserve D2D によって、指定されたボリュームが、後でバックアップされる多数の下位データ ブロックに分割されます。初回のバックアップは「親バックアップ」と見なされ、モニタ対象のベースライン ブロックを確立するためにボリュームのフル バックアップが実行されます。バックアップを実行する前に、VSS スナップショットが作成され、内部モニタリング ドライバによって各ブロックがチェックされ、すべての変更が検出されます。スケジュールされたとおりに、前回のバックアップ以降に変更されたブロックのみの増分バックアップが CA ARCserve D2D によって実行されます。CA ARCserve D2D では、これ以降のブロック レベル増分バックアップ(「子バックアップ」)を 15 分ごとにスケジュールして、最新のバックアップ イメージを利用可能にできます。

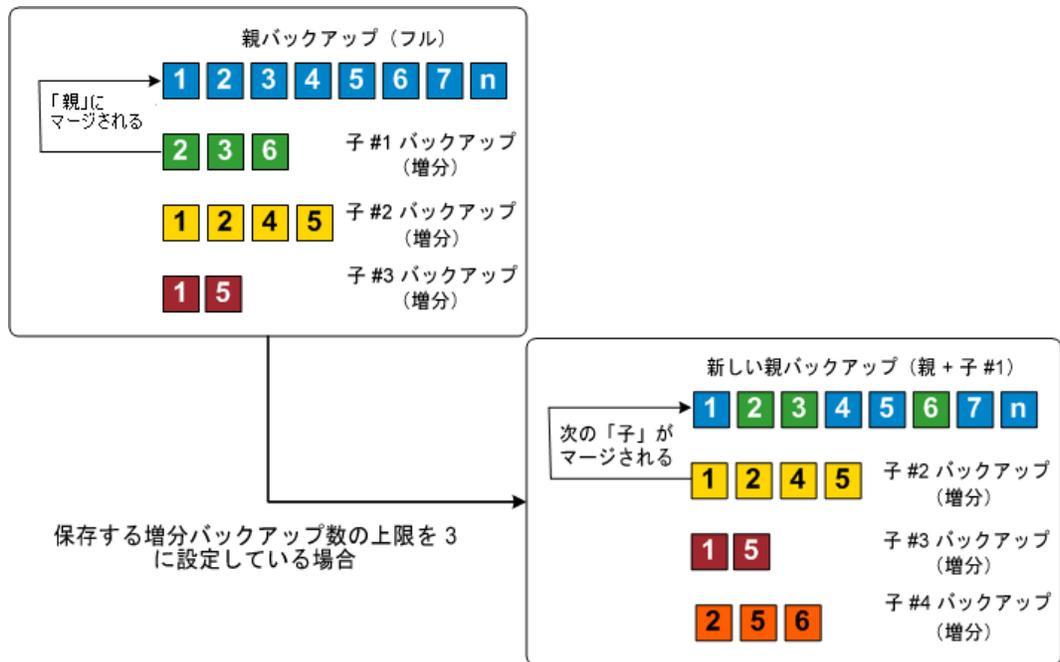
ボリューム情報をリストアする必要がある場合、CA ARCserve D2D によって、各ブロックの最も最近バックアップされたバージョンが特定され、この最新のブロックを使用して、全ボリュームが再構築されます。



継続的な増分バックアップの仕組み

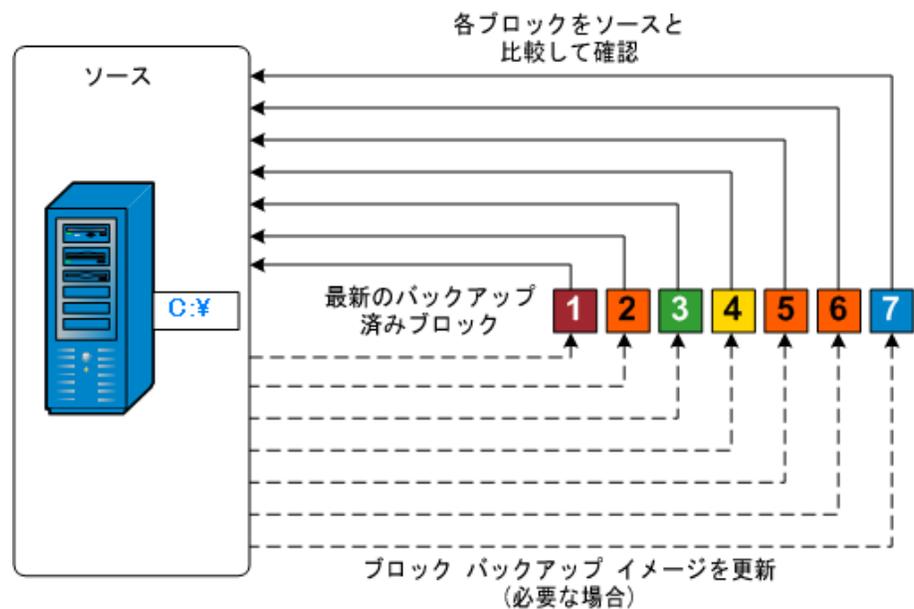
変更を加えなければ、増分スナップショット(バックアップ)は、毎日 96 回継続的に実行されます(15 分間隔)。この定期的なスナップショットでは、新しいバックアップを実行するたびにモニタ対象のバックアップされたブロックが大量に蓄積されるため、増え続けるバックアップ イメージを保存するために容量を追加する必要があります。この潜在的な問題を最小限に抑えるために、CA ARCserve D2D では、保存する増分 - 子バックアップの数を制限することができます。これは[バックアップ設定]ダイアログ ボックスの[保護設定]タブの[復旧ポイント]オプションを設定することにより実行できます。

指定した制限数を超えると、CA ARCserve D2D によって、最も早い(最も古い)増分 - 子バックアップが親バックアップにマージされ、「親と最も古い子」のブロックで構成される新しいベースライン イメージが作成されます(変更されていないブロックは、そのまま残ります)。最も古い子バックアップを親バックアップにマージするサイクルが、これ以降のバックアップごとに繰り返されます。そのため、保存対象(および監視対象)とするバックアップ イメージの数を維持しながら、継続的に増分(I²)スナップショット バックアップを実行することができます。



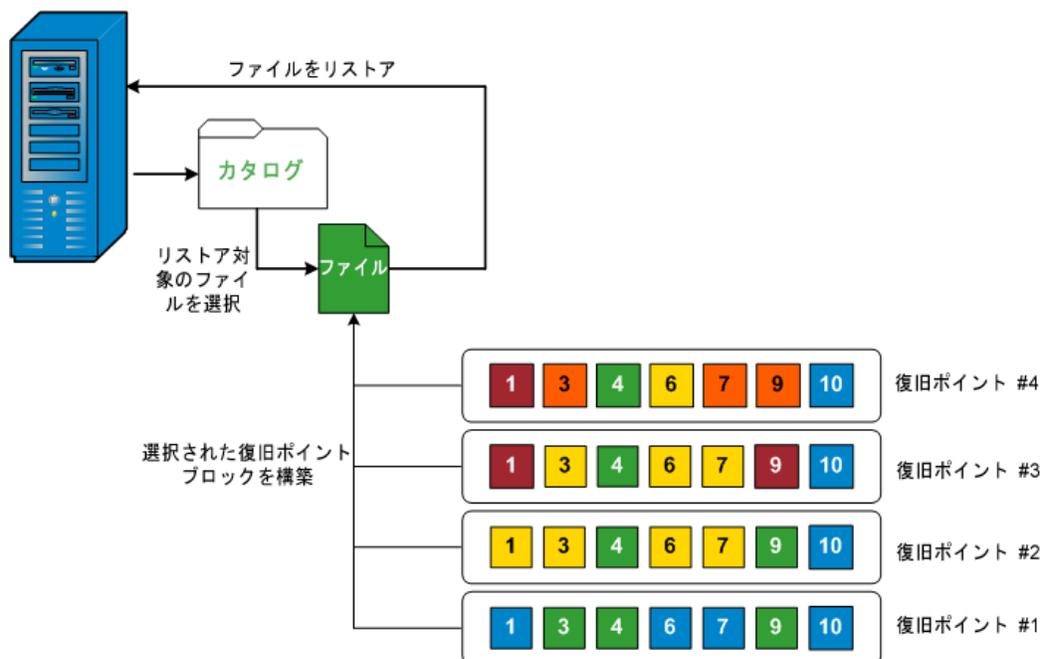
検証バックアップの仕組み

CA ARCserve D2D では、状況に応じて(スケジュールによって、または手動で開始して)、検証(再同期)タイプのバックアップを実行して、保存されたバックアップ イメージの信頼性をチェックし、必要に応じてイメージを再同期できます。検証タイプのバックアップは、個別のブロックの最新バックアップを参照し、そのコンテンツおよび情報をソースと比較します。この比較によって、最も最近バックアップされたブロックが、ソースの対応する情報を持っているかどうかを検証します。ブロックのバックアップ イメージがソースと一致しない場合(多くは、最後のバックアップ以降にシステムに変更が加えられていることが原因)、CA ARCserve D2D によって、一致していないブロックのバックアップが更新(再同期)されます。また、検証バックアップは、フル バックアップほどの容量を使用せずに、フル バックアップの信頼性を確認するためにも使用できます。検証バックアップのメリットは、変更されたブロック(前回のバックアップと一致しないブロック)のみをバックアップするため、フル バックアップと比較するとサイズが小さくなることです。しかし、検証バックアップでは CA ARCserve D2D がソース ディスク のすべてのブロックを前回バックアップしたブロックと比較する必要があるため、増分バックアップより遅くなります。



ファイル レベルのリストアの仕組み

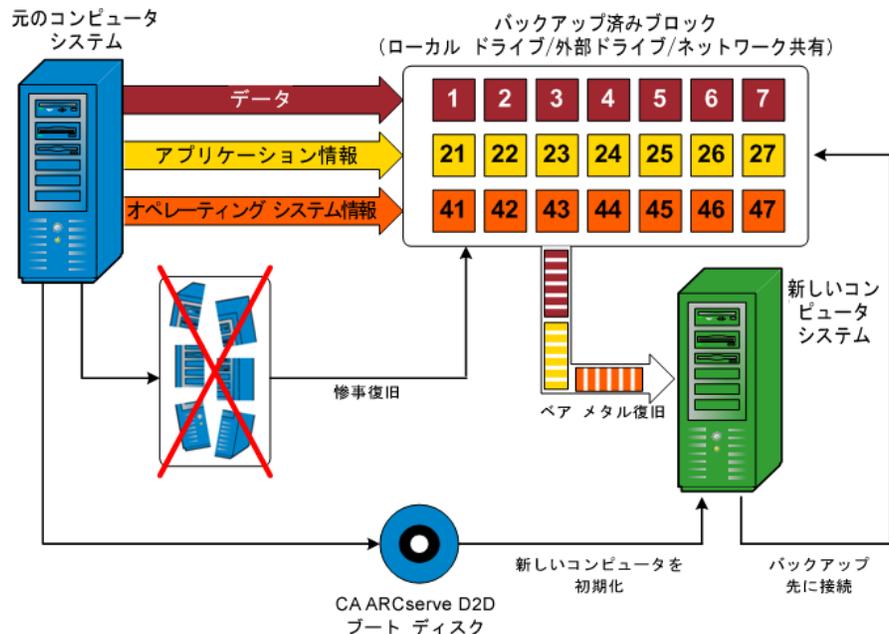
ブロック レベルのバックアップの際、バックアップされる各ファイルは、そのファイルを定義するブロックの集合体で構成されます。カタログ ファイルが作成され、そこにはバックアップされるファイルのリストと共に、各ファイルに使用されている個々のブロックおよびこれらのファイルに利用可能な復旧ポイントが含まれます。特定のファイルのリストアする必要がある場合、バックアップを検索して、リストアするファイルおよびリストア元の復旧ポイントを選択できます。その後、CA ARCserve D2D によって、指定したファイルの復旧ポイントに使用されたブロックのバージョンを収集し、ファイルを再構築してリストアします。



ベア メタル復旧の仕組み

ベア メタル復旧とは、オペレーティング システムとソフトウェア アプリケーションの再インストール、およびその後のデータや設定のリストアといった、「ベア メタル」からコンピュータ システムをリストアするプロセスです。ベア メタル復旧を実行する最も一般的な理由は、ハード ドライブに障害が発生するか空き容量がなくなったために、より大きなドライブにアップグレード(マイグレート)する必要が生じることです。ベア メタル復旧が可能なのは、CA ARCserve D2D によってブロック レベルのバックアップ処理中にデータだけでなく、オペレーティング システム、インストールされているアプリケーション、環境設定の設定、必要なドライバなどに関連するすべての情報がキャプチャされているためです。ベア メタルからコンピュータ システムを再構築するのに必要なすべての関連情報は、連続するブロックにバックアップされ、バックアップ場所に格納されます。

注: ダイナミック ディスクのリストアはディスク レベルのみで実行できます。ダイナミック ディスク上のボリュームにデータがバックアップされた場合、このダイナミック ディスクをBMR 実行中にリストアすることはできません。



ベア メタル復旧を実行する必要がある場合、CA ARCserve D2D ブート ディスクを使用して新しいコンピュータ システムを初期化し、ベア メタル復旧プロセスを開始できるようにします。ベア メタル復旧を開始すると、CA ARCserve D2D にバックアップされたブロックの有効な取得先と、リストア用の復旧ポイントの選択または入力を促すメッセージが表示されます。また、必要に応じて、新しいコンピュータ システム用の有効なドライバを指定するよう要求される場合もあります。この接続と環境設定情報が入力されると、指定されたバックアップ イメージが CA ARCserve D2D によってバックアップ場所から取得され、バックアップされているすべてのブロックの新しいコンピュータ システムへのリストアが開始されます(空のブロックはリストアされません)。ベア メタル復旧イメージが新しいコンピュータ システムに完全にリストアされると、問題が発生する前の時点から再開され、CA ARCserve D2D によるバックアップがスケジュールされたとおりに継続されます。(BMR の完了後、最初のバックアップは検証バックアップになります)。

第 2 章: CA ARCserve D2D のインストール

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[インストールに関する考慮事項 \(19 ページ\)](#)

[CA ARCserve D2D のインストール \(27 ページ\)](#)

[サイレント インストール \(29 ページ\)](#)

インストールに関する考慮事項

CA ARCserve D2D をインストールする前に、以下のインストールに関する考慮事項を確認してください。

- CA ARCserve D2D インストール パッケージは、Web ダウンロードおよび製品インストール CD/DVD から入手できます。
- CA ARCserve D2D をインストールするサーバ上で、ソフトウェアのインストールに必要な管理者権限(または管理者に相当する権限)を有していることを確認します。
- CA ARCserve D2D をあるビルドから新しいビルドへアップグレードする場合、アップグレード完了後の最初のバックアップは検証バックアップとして実行されます。
- 古い CA ARCserve D2D ビルドをアンインストールして新しい CA ARCserve D2D ビルドをインストールし、前のビルドと同じバックアップ先を指定する場合、インストール後の最初のバックアップは検証バックアップとして実行されます。
- サーバに CA ARCserve D2D をインストールした後、CA ARCserve D2D をリモートで展開できる展開リンクがホーム ページ上に表示されます。このリンクを使用して、他のサーバに CA ARCserve D2D をリモートで展開できます。
- x64 Windows Core オペレーティング システム (Windows Server 2008/R2 Core エディション) に CA ARCserve D2D をインストールしている場合、CA ARCserve D2D のセットアップを正常に動作させるためには Server Core 上に WOW64 (Windows-on-Windows 64-bit) をインストールする必要があります。
- デフォルトでは、CA ARCserve D2D は、すべてのコンポーネント間の通信に Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を使用します。コンポーネント間でやり取りされるパスワードのセキュリティが心配な場合は、使用するプロトコルを Hypertext Transfer Protocol Secure (HTTPS) に変更することもできます。詳細については、「[サーバの通信プロトコルの変更 \(131 ページ\)](#)」を参照してください。

インストール処理のオペレーティング システムに対する影響

CA ARCserve D2D インストール処理は、Microsoft Installer Package (MSI) というインストール エンジンを使用して、さまざまな Windows オペレーティング システムのコンポーネントを更新します。MSI に含まれるコンポーネントにより、CA ARCserve D2D のインストール、更新、アンインストールを行うカスタム アクションを実行できます。

以下の表では、カスタム アクションと影響を受けるコンポーネントについて説明します。

注：CA ARCserve D2D のインストールおよびアンインストールを行う場合、この表にリストされたコンポーネントがすべての CA ARCserve D2D MSI パッケージで呼び出されます。

コンポーネント	詳細
CallAllowInstall	インストール処理で現在の CA ARCserve D2D のインストールに関する状態を確認できます。
CallPreInstall	インストール処理で MSI プロパティの読み取りと書き込みが可能になります。たとえば、MSI から CA ARCserve D2D のインストール パスを読み取ります。
CallPostInstall	インストール処理でインストールに関するさまざまなタスクを実行できます。たとえば、CA ARCserve D2D を Windows レジストリに登録します。
CallAllowUninstall	アンインストール処理で現在の CA ARCserve D2D のインストールに関する状態を確認できます。
CallPreUninstall	アンインストール処理でアンインストールに関するさまざまなタスクを実行できます。たとえば、Windows レジストリから CA ARCserve D2D の登録を削除します。
CallPostUninstall	アンインストール処理で、インストール済みファイルがアンインストールされた後、さまざまなタスクを実行できます。たとえば、残ったファイルを削除することができます。
ImageCopy	インストール処理で CA ARCserve D2D 展開用のイメージ コピーを実行できます。
ShowMsiLog	[SetupCompleteSuccess]、[SetupCompleteError]、または [SetupInterrupted] ダイアログ ボックスの [Windows Installer のログを表示] チェック ボックスがオンの場合に [完了] をクリックすると、Windows Installer ログ ファイルをメモ帳で表示することができます。 これは Windows Installer 4.0 でのみ機能します。

コンポーネント	詳細
CheckForProductUpdates	<p>FLEXnet Connect を使用して製品アップデートを確認します。</p> <p>このカスタム アクションは、Agent.exe という名前の実行可能ファイルを起動し、以下に移動します。</p> <p>/au[ProductCode] /EndOfInstall</p>
CheckForProductUpdatesOnReboot	<p>再起動の際に FLEXnet Connect を使用して製品アップデートを確認します。</p> <p>このカスタム アクションは、Agent.exe という名前の実行可能ファイルを起動し、以下に移動します。</p> <p>/au[ProductCode] /EndOfInstall /Reboot</p>

更新されるディレクトリ

インストール処理では、デフォルトで以下のディレクトリにある CA ARCserve D2D ファイルのインストールおよび更新を行います (x86 および x64 オペレーティング システム)。

C:\Program Files\CA\ARCserve D2D

CA ARCserve D2D をデフォルトのインストール ディレクトリ、または別のディレクトリにインストールすることができます。インストール処理では、さまざまなシステム ファイルが以下のディレクトリにコピーされます。

C:\WINDOWS\SYSTEM32

更新される Windows レジストリ キー

インストール処理では以下の Windows レジストリ キーが更新されます。

- デフォルトのレジストリ キー

HKLM\SOFTWARE\CA\CA ARCserve D2D

- インストール処理では、システムの現在の設定に基づき、新しいレジストリ キーが作成され、その他のさまざまなレジストリ キーが変更されます。

インストールされるアプリケーション

インストール処理ではコンピュータに以下のアプリケーションがインストールされます。

- CA ライセンス
- Microsoft Visual C++ 2005 SP1 Redistributable
- Microsoft Windows Installer 3.1 Redistributable (v2)
- Java Runtime Environment (JRE) 1.6.0_16
- Tomcat 6.0.20

CA ARCserve D2D のインストールで必要なシステムの再起動

CA ARCserve D2D インストールでは、システムを再起動する必要があります。1 つのドライバ「ARCFlashVolDrv.sys」をターゲット マシン上にインストールする必要があります。このドライバは、システムの再起動後のみロード、有効化が実行されます。このドライバがない場合、CA ARCserve D2D の基本機能は動作しません。

CA ARCserve D2D のアンインストールで必要なシステムの再起動

CA ARCserve D2D アンインストールでは、システムを再起動する必要があります。CA ARCserve D2D のインストール中に、1 つのドライバ「ARCFlashVolDrv.sys」がターゲット マシン上にインストールされます。このドライバはシステムの起動時にロードされます。マシンからこのドライバを完全に削除するには、アンインストール後にシステムを 1 度再起動する必要があります。

未署名のバイナリ ファイル

CA ARCserve D2D ではサードパーティ、他の CA 製品、CA ARCserve D2D によって開発された未署名のバイナリ ファイルをインストールします。以下の表は、これらのバイナリ ファイルについての説明です。

バイナリ名	ソース
CALicense.msi	CA ライセンス
zlib1.dll	Zlib 圧縮ライブラリ
tomcat6.exe	Tomcat
tomcat6w.exe	Tomcat
awt.dll	Java Runtime Environment
cmm.dll	Java Runtime Environment
dcpr.dll	Java Runtime Environment
deploy.dll	Java Runtime Environment

deploytk.dll	Java Runtime Environment
dt_shmem.dll	Java Runtime Environment
dt_socket.dll	Java Runtime Environment
eula.dll	Java Runtime Environment
fontmanager.dll	Java Runtime Environment
hpi.dll	Java Runtime Environment
hprof.dll	Java Runtime Environment
instrument.dll	Java Runtime Environment
ioser12.dll	Java Runtime Environment
j2pesc.dll	Java Runtime Environment
jaas_nt.dll	Java Runtime Environment
java.dll	Java Runtime Environment
java.exe	Java Runtime Environment
java_crw_demo.dll	Java Runtime Environment
javacpl.exe	Java Runtime Environment
Java-rmi.exe	Java Runtime Environment
javaw.exe	Java Runtime Environment
javaws.exe	Java Runtime Environment
jawt.dll	Java Runtime Environment
jbroke.exe	Java Runtime Environment
JdbcOdbc.dll	Java Runtime Environment
jdwp.dll	Java Runtime Environment
jli.dll	Java Runtime Environment
jp2iexp.dll	Java Runtime Environment
jp2launcher.exe	Java Runtime Environment
jp2native.dll	Java Runtime Environment
jp2ssv.dll	Java Runtime Environment
jpeg.dll	Java Runtime Environment
jsound.dll	Java Runtime Environment
jucheck.exe	Java Runtime Environment
jureg.exe	Java Runtime Environment
jusched.exe	Java Runtime Environment
keytool.exe	Java Runtime Environment

kinit.exe	Java Runtime Environment
klist.exe	Java Runtime Environment
ktab.exe	Java Runtime Environment
management.dll	Java Runtime Environment
mllib_image.dll	Java Runtime Environment
msvcrt.dll	Java Runtime Environment
net.dll	Java Runtime Environment
npj2.dll	Java Runtime Environment
nio.dll	Java Runtime Environment
npdeploytk.dll	Java Runtime Environment
npt.dll	Java Runtime Environment
orbd.exe	Java Runtime Environment
pack200.exe	Java Runtime Environment
policytool.exe	Java Runtime Environment
regutils.dll	Java Runtime Environment
rmi.dll	Java Runtime Environment
rmiregistry.exe	Java Runtime Environment
jvm.dll	Java Runtime Environment
servertool.exe	Java Runtime Environment
splashscreen.dll	Java Runtime Environment
ssv.dll	Java Runtime Environment
ssvagent.exe	Java Runtime Environment
tnameserv.exe	Java Runtime Environment
unpack.dll	Java Runtime Environment
unpack200.exe	Java Runtime Environment
verify.dll	Java Runtime Environment
w2k_lsa_auth.dll	Java Runtime Environment
wsdetect.dll	Java Runtime Environment
zip.dll	Java Runtime Environment
vcredist_x64.exe	Microsoft
vcredist_x86.exe	Microsoft

無効なファイル バージョン情報が含まれるバイナリ ファイル

CA ARCserve D2D は、サード パーティ、他の CA 製品、CA ARCserve D2D によって開発された無効なバージョン情報を含むバイナリ ファイルをインストールします。以下の表は、これらのバイナリ ファイルについての説明です。

バイナリ名	ソース
UpdateData.exe	CA ライセンス
zlib1.dll	Zlib 圧縮ライブラリ

埋め込みマニフェストを含まないバイナリ ファイル

CA ARCserve D2D はサードパーティ、他の CA 製品、CA ARCserve D2D によって開発された埋め込みマニフェストおよびテキスト マニフェストを含まないバイナリ ファイルをインストールします。以下の表は、これらのバイナリ ファイルについての説明です。

バイナリ名	ソース
ARCFlashVolDrvINSTALL.exe	CA ARCserve D2D
BaseLicInst.exe	CA ライセンス
UpdateData.exe	CA ライセンス
WindowsInstaller-KB893803-v2-x86.exe	Microsoft
vcredist_x64.exe	Microsoft
vcredist_x86.exe	Microsoft
tomcat6.exe	Tomcat
tomcat6w.exe	Tomcat

マニフェストで管理者に必要な権限を持つバイナリ ファイル

CA ARCserve D2D はサードパーティ、他の CA 製品、CA ARCserve D2D によって開発された管理者レベルまたは利用可能な最上位レベルの権限を持つバイナリ ファイルをインストールします。さまざまな CA ARCserve D2D サービス、コンポーネントおよびアプリケーションを実行するには、管理者アカウントまたは最上位の権限を持つアカウントを使用してログインする必要があります。これらのサービス、コンポーネントおよびアプリケーションに関係しているバイナリは CA ARCserve D2D 固有の機能を含み、基本ユーザ アカウントには利用が許可されていません。このため、Windows はパスワードの指定または管理者権限を持つアカウントの使用を促し、権限を確認した後で作業を完了します。

- **管理者権限** - 管理者プロファイルまたは管理者権限を持つアカウントは、すべての Windows リソースおよびシステム リソースに対する読み取り権限、書き込み権限および実行権限を付与されています。管理者権限を持っていない場合、続行するには管理者ユーザのユーザ名/パスワードを入力するように促されます。
- **最上位の権限** - 最上位の権限を持つアカウントは、管理者としての実行権限を持つ基本ユーザ アカウントとパワーユーザ アカウントです。

以下の表は、これらのバイナリ ファイルについての説明です。

バイナリ	ソース
afbkw.exe	CA ARCserve D2D
afbkw.exe	CA ARCserve D2D
AFBackend.exe	CA ARCserve D2D
AgentDeployTool.exe	CA ARCserve D2D
Asremsvc.exe	CA ARCserve D2D
DeleteMe.exe	CA ARCserve D2D
MasterSetup.exe	CA ARCserve D2D
MasterSetup_Main.exe	CA ARCserve D2D
SetupFW.exe	CA ARCserve D2D
setup.exe	CA ARCserve D2D
silent.exe	CA ライセンス
jbroker.exe	Java Runtime Environment
jucheck.exe	Java Runtime Environment

CA ARCserve D2D のインストール

このセクションは、InstallShield ウィザードを使用して、ローカル システム上に CA ARCserve D2D をインストールする方法を説明します。InstallShield ウィザードは、インストール プロセスの手順を指示する対話型アプリケーションです。

CA ARCserve D2D をインストールには、以下の手順に従います。

1. CA Web サイトまたは製品 CD のいずれかから CA ARCserve D2D インストールパッケージにアクセスします。CA Web サイトからダウンロードされたインストールパッケージを使用している場合は、CA ARCserve D2D Setup.exe を選択します。製品 CD を使用している場合は、setup.exe を選択します。

注: Web サイトからダウンロードしたインストール パッケージを使用してインストールを実行する場合、パッケージのコンテンツはユーザのローカル システムに抽出されます。

[使用許諾契約]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [使用許諾契約]ダイアログ ボックスで、使用許諾契約の条件を読んで同意した後、[次へ]をクリックします。

[環境設定]ダイアログ ボックスが表示されます。

3. [環境設定]ダイアログ ボックスに、以下の情報を入力します。
 - a. ユーザ名およびパスワード。
 - b. CA ARCserve D2D をインストールする予定の場所を指定または参照します。デフォルトの場所は、C:\Program Files\CA\ARCserve D2D です。
 - c. ポート番号。このポート番号は、Web ベースの UI に接続する際に使用されます。

デフォルトのポート番号は 8014 です。

注: CA ARCserve D2D のインストールで利用可能なポート番号は 1024 ~ 65535 です。指定したポート番号が空いていて利用可能であることを確認してください。セットアップでは、利用可能でないポートでは CA ARCserve D2D をインストールできません。

- d. セットアップによって、CA ARCserve D2D のサービスおよびプログラムが Windows ファイアウォールの例外として登録されるように、チェック ボックスをオンにします。

注: CA ARCserve D2D の設定や管理をリモート マシンから実行する場合、ファイアウォールの例外に登録する必要があります。(ローカル ユーザの場合、ファイアウォールの例外に登録する必要はありません。)

4. [インストール]をクリックして、インストール プロセスを開始します。
[インストールの進捗状況]画面が開き、インストールのステータスが表示されます。

5. インストールが完了すると、[インストール レポート]のサマリ画面が表示され、自動的に製品の環境設定が実行されます。[完了]ボタンをクリックします。

システムの再起動が必要であることを伝え、再起動を今すぐ実行するか後で実行するかを尋ねるアラート メッセージが表示されます。

再起動が完了すると、CA ARCserve D2D はローカル システムにインストールされています。

6. インストールの後、CA ARCserve D2D は[スタート]メニューまたはシステム トレイ モニタからアクセスできます。

7. USB メモリを Windows 7/2008/2008 R2 インストール メディア (CD/DVD)と共に使用するのであれば、インストールが完了した後、CA ARCserve D2D ブート キット ユーティリティを使用して BMR アプリケーション USB メモリを作成することができます。

BMR を実行する際、Windows PE イメージ (CA ARCserve D2D 製品と共に提供)を使用するか、作成した USB メモリを Windows 7/2008/2008 R2 インストールメディアと共に使用するかを選択できます。また、ブート キット ユーティリティを使用すると、BMR アプリケーションとサードパーティの NIC/SCSI/FC ドライバを USB メモリに統合することもできます。

ブート キット ユーティリティの詳細については、「[ブート キットの作成](#) (112 ページ)」を参照してください。

サイレント インストール

サイレント インストールは自動インストールで、ユーザによる入力が必要としません。サイレント インストールは、複数のコンピュータ上で同様のインストールを実行するときに使用します。

CA ARCserve D2D サイレント インストールを起動するには 2 つの方法があります。CA ARCserve D2D をダウンロードした際にインストールされた自己解凍実行可能ファイルパッケージからの起動、および、CA ARCserve D2D セットアップおよび WinPE を含む CA ARCserve D2D CD (ISO)イメージからの起動です。

自己解凍実行可能ファイルからサイレント インストールを起動するには、以下のコマンドを実行します。

```
"CA ARCserve D2D Setup.exe" /s /a /i /AdminUser:<UserName>  
/AdminPwd:<Password>
```

CD イメージからサイレント インストールを起動するには、以下のコマンドを実行します。

```
<CDROOT>%Install%MasterSetup.exe /i /AdminUser:<UserName>  
/AdminPwd:<Password>
```

注: UserName は管理者権限があるアカウントであることが必要です。

サイレント インストールでは、CA ARCserve D2D は自動的にデフォルト バックアップ設定および以下の環境設定をすべて使用します。

- インストールの場所: C:%Program Files%CA%ARCserve D2D
- ポート: 8014

サイレント インストールが完了した後、ターゲット マシンを再起動する必要があります。

第 3 章: CA ARCserve D2D の紹介

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[使用方法](#) (31 ページ)

[CA ARCserve D2D ユーザ インターフェイス](#) (32 ページ)

[バックアップ設定の管理](#) (43 ページ)

使用方法

CA ARCserve D2D に初めてアクセスするとき、使用方法のダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスから、CA ARCserve D2D の詳細情報が掲載されたビデオおよびオンライン ヘルプにアクセスすることができます。さらに、バックアップソースおよびバックアップ先、パラメータ、スケジュール、アラート通知、その他の関連タスクなどの環境設定用のダイアログ ボックスにもアクセスできます。今後は使用方法のダイアログ ボックスを表示しないというオプションも選択できます。



CA ARCserve D2D ユーザ インターフェース

CA ARCserve D2D を使用する前に、関連するホーム ページ インターフェースを理解している必要があります。ホーム ページ インターフェースには、[スタート]メニューまたは CA ARCserve D2D モニタからアクセスできます。

CA ARCserve D2D ホーム ページには、現在のステータスをすばやく視覚的に伝える各種アイコン記号に加え、実施する必要のあるアクションの緊急度を示すガイダンスが表示されます。



成功
(アクションは必要はありません)



注意 - 潜在的な問題あり
(すぐにアクションが必要な場合があります)



危険/失敗 - 問題あり
(すぐにアクションが必要です)

CA ARCserve D2D ホーム ページは、以下のサブセクションで構成されます。

- サーバ選択リスト
- ジョブ モニタ パネル
- バックアップ ステータスの概要
- データ保護のサマリ
- バックアップ履歴のサマリ
- 機能タスク バー
- サポートおよびコミュニティへのアクセス タスク バー

The screenshot displays the CA ARCserve D2D user interface. At the top, there is a navigation bar with a server selection dropdown menu (highlighted in red) and a 'Server Selection List' label. Below the navigation bar, the main content area is divided into several sections:

- Job Monitor Panel:** Displays the next scheduled backup event: '2018/3/24 午後 3:29:00 増分バックアップ'.
- Backup Status Summary:** Shows a 'Summary' section with three green checkmarks indicating successful backup operations: '前回のバックアップ - 増分バックアップ', '復旧ポイント', and 'バックアップ先の容量'. A progress bar shows '1/52 アップ 1.71 GB'.
- Data Protection Summary:** A table listing backup jobs with columns for '種類' (Type), 'カウント' (Count), '合計サイズ' (Total Size), 'スケジュール' (Schedule), '前回の成功したバックアップ' (Last Successful Backup), and 'バックアップ' (Backup).
- Backup History Summary:** A table listing backup jobs with columns for 'ステータス' (Status), '種類' (Type), '日時' (Date/Time), 'サイズ' (Size), and '名前' (Name). A pie chart shows '完了' (Completed) and '失敗' (Failed) counts.
- Server Selection List:** A vertical menu on the right side containing options like '今すぐバックアップ', 'リストア', 'バックアップ設定', '復旧ポイントのエクスポート', 'ログの表示', '展開', 'ビデオ', 'CA サポート', and 'エキスパート アドバイス センター'.
- Function Task Bar:** A horizontal bar at the bottom right containing social media links for 'twitter' and 'facebook'.
- Support Panel:** A vertical menu on the right side containing options like 'ビデオ' and 'エキスパート アドバイス センター'.



ビデオ

[ユーザ インターフェースについて](#)

サーバ選択リスト

ホーム ページから、現在管理している CA ARCserve D2D サーバの名前を表示したり、[サーバ選択リスト]から、管理するサーバを選択することができます。[サーバ]ドロップダウン リストを使用して、これらのサーバのステータスをすばやく簡単に管理および表示できます。CA ARCserve D2D をサーバにインストールした後は、CA ARCserve D2D UI から、CA ARCserve D2D をさらにリモートのサーバに展開できます。

<サーバ名 1 >	▼	管理
<サーバ名 1 >		
<サーバ名 2 >		

CA ARCserve D2D が正常にリモート サーバに展開されると、そのサーバは[サーバ選択リスト]に自動的に追加されます。さらに、ホーム ページの[管理]リンクを使用して、手で[サーバ選択リスト]にサーバを追加したり、そこからサーバを削除したりすることができます。詳細については、「[サーバ選択リストの管理 \(110 ページ\)](#)」を参照してください。

ジョブ モニタ パネル

実行中のジョブがない場合、ジョブ モニタ パネルには、次にスケジュールされているバックアップの日時が、実行されるバックアップの種類(フル、増分、検証)と共に表示されます。



ジョブが実行されている場合は、パネルが展開されて、進行中のアクティビティに関する情報が表示されます。

実行中のジョブを停止するには、[キャンセル]ボタンをクリックします。



バックアップ ステータスの概要

ホーム ページの[バックアップ ステータスの概要]セクションでは、バックアップ状態のステータスの概要をすばやく簡単に確認できます。



前回のバックアップ

前回のバックアップのステータス、およびその日付と時刻を表示します。

- 前回のバックアップが正常に完了している場合、マシンが安全に保護されていることを示す緑色のチェック アイコンが表示されます。
- 前回のバックアップが正常に完了していない場合、最も最近のバックアップが失敗しているため、その復旧ポイントを使用してマシンのリストアができないことを示す赤い X アイコンが表示されます。
- マシンのバックアップが実行されていない場合、マシンが保護されていないことを示す黄色の注意アイコンが表示されます。

注：ライセンスが確認できなかったためにバックアップが失敗した場合、[前回のバックアップ]情報の右にライセンス エラー ステータスが表示されます。

復旧ポイント

モニタされているサーバの復旧ポイントの数を表示します。安全な復旧環境を維持するために復旧ポイントの最小数を指定できます。

- 保存された復旧ポイントがない場合、バックアップ環境が安全でないことを示す赤い X アイコンが表示されます。
- 1 つ以上の復旧ポイントがあっても、指定した復旧ポイント数に達していない場合、黄色いアイコンが表示されます。
- 指定した復旧ポイント数に達している場合、緑色のチェック アイコンが表示されます。

バックアップ先の容量

バックアップ先で利用可能な空き容量を表示します。[バックアップ先の容量]表示には、バックアップに使用されている容量、他によって使用されている容量、および利用可能な空き容量を追加的に表示できます。

- 利用可能な空き容量が減少し、バックアップ先の容量に対して事前に指定した安全な割合を下回った場合、バックアップ環境が安全でなくなり、ただちにバックアップ先の空き容量を増やすか、十分な空き容量がある別の場所にバックアップ先を変更する必要があることを示す赤い X アイコンが表示されます。
- 利用可能な空き容量が安全なレベルを超えている場合は、緑色のチェック アイコンが表示されます。

注：バックアップ先の未使用容量が指定した値を下回った場合の電子メール アラート通知を設定することができます。この電子メール アラート通知設定の詳細については、「[バックアップ拡張設定の指定](#) (59 ページ)」を参照してください。

データ保護のサマリ

ホーム ページの[データ保護のサマリ]セクションには、利用可能なバックアップのステータス情報が表示されます。

保護サマリ					
種類	カウント	合計サイズ	スケジュール	前回の成功したバックアップ	次のイベント
フル バックアップ	1	4.77 GB	実行しない	2010/3/23 午後 2:33:47	
増分バックアップ	8	413.76 MB	一定間隔 15 分	2010/3/23 午後 4:39:00	2010/3/23 午後 4:54:00
検証バックアップ	0	0 バイト	実行しない		

このサマリには、バックアップの種類(フル、増分、検証)ごとに以下が表示されます。

カウント

バックアップの種類別に、(スケジュールの有無にかかわらず)正常に実行されたバックアップの数を示します。

合計サイズ

バックアップの種類別に、バックアップされたデータのサイズ合計を示します。

スケジュール

バックアップの種類別に、自動バックアップの設定済みスケジュールを示します。

前回の成功したバックアップ

バックアップの種類別に、前回正常にバックアップが実行された日時が表示されます。

次のイベント

バックアップの種類別に、次にスケジュールされているイベントを表示します。この列が空の場合、この種類のバックアップのスケジュールがないか、繰り返しが設定されていないスケジュールが完了していることを示しています。

バックアップ履歴のサマリ

ホーム ページの[バックアップ履歴のサマリ]セクションには、最新のバックアップのステータス情報および全バックアップの成功率が表示されます。



最新のバックアップ

最新のバックアップが、該当するステータス、実行されたバックアップの種類、バックアップの日時、およびバックアップされたデータのサイズと共に表示されます。また、バックアップの名前(ユーザによって指定されている場合)も表示されます。

全バックアップの成功率

成功したバックアップの数と失敗したバックアップの数を比較する円グラフを表示します。

機能タスク バー

ホーム ページの[機能タスク バー]セクションから、さまざまな CA ARCserve D2D 機能を開始できます。



今すぐバックアップ

現在のバックアップ設定に基づいて、ただちに、フル、増分、または検証のアドホック バックアップを実行できます。バックアップ設定は、[バックアップ設定]から設定および定義します。詳細については、「[今すぐバックアップを実行](#) (69 ページ)」を参照してください。

リストア

ファイル レベルまたはアプリケーション レベルのリストアを元の場所または別の場所に実行できます。この機能を選択する際、[復旧ポイントの参照]または[リストアするファイル/フォルダの検索]のどちらかを指定して、リストアするバックアップ イメージを特定します。詳細については、「[リストア方式](#) (75 ページ)」を参照してください。

バックアップ設定

特定のニーズに合わせて、バックアップ パラメータ(バックアップ先、スケジュール、保存数、電子メール通知など)を設定/変更できます。詳細については、「[バックアップ設定の管理](#)」(43 ページ)を参照してください。

復旧ポイントのエクスポート

利用可能な復旧ポイント(成功したバックアップ)のリストを表示し、統合されたコピーを作成する際に使用する復旧ポイントを選択できます。コピーの統合によって、選択した復旧ポイントを構成する、最後のフル バックアップおよびすべての増分バックアップのブロックが結合されます。また、コピーの統合によって、未使用のブロックが削除され(イメージ サイズが縮小され)、バックアップ リソースをより効率的に使用することができます。

各復旧ポイントは、VSS スナップショット イメージがキャプチャされた時点を表しており、データだけでなくオペレーティング システム、インストールされているアプリケーション、環境設定の設定、必要なドライバなどに関するすべての情報も含まれています。詳細については、「[復旧ポイントの管理](#)(100 ページ)」を参照してください。

ログの表示

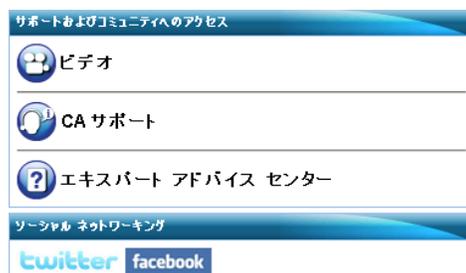
バックアップ、リストア、コピーなどの操作中に実行したアクティビティのログを表示できます。アクティビティ ログは、スループット、圧縮サイズ、経過時間などの詳細を含むジョブのステータスを表示します。詳細については、「[ログの表示](#)(106 ページ)」を参照してください。

展開

リモート マシンに CA ARCserve D2D を展開できます。詳細については、「[CA ARCserve D2D のリモート展開](#)(107 ページ)」を参照してください。

サポートおよびコミュニティへのアクセス タスク バー

ホーム ページの[サポートおよびコミュニティへのアクセス]タスク バー セクションでは、サポート関連のさまざまな機能を実行できます。



応答の遅延を回避し、通信が適切な宛先に送られるようにするには、これらのサイトのそれぞれがどの機能で使用されるかを理解することが重要です。

例:

- 製品のバグを検出した場合は、[CA サポート]リンクを選択し、問題を投稿します。これによって、CA サポート チームはユーザを直接サポートして、問題を生産的かつ 効率的な方法で解決できます。

- CA 製品管理チームから CA ARCserve D2D 製品に関する最新のニュースと情報を取得する場合は、[エキスパート アドバイス センター]リンクを選択します。

ビデオ

さまざまな CA ARCserve D2D 関連のビデオへのアクセスを提供します。これらのビデオは、CA ARCserve D2D の基本的な機能と手順に関するものです。表示される[ビデオ ソースの選択]ダイアログ ボックスでは、YouTube または CA サポートを選択してビデオにアクセスできます。

CA サポート

「ワン ストップ サポート」にアクセスして、問題を解決し、重要な製品情報入手できます。

開発へのフィードバックの送信

CA ARCserve D2D 開発チームに (GetSatisfaction Web サイトを通して) アクセスして、よくある質問を参照したり、自分自身の質問を投稿したり、アイデアを共有したり、問題を報告したりできます。

注：英語版のみで利用可能です。

ユーザ コミュニティ ディスカッション

CA ARCserve D2D オンライン コミュニティと対話し、CA ARCserve D2D ユーザグループに参加できます。このグループでは、CA ARCserve D2D に関する経験を他のユーザと共有できます。

注：英語版のみで利用可能です。

エキスパート アドバイス センター

ARCserve エクスパート アドバイス センターにアクセスできます。この便利なランディング ページでは、CA ARCserve D2D 開発チーム(ブログ)による使用上のヒント、製品情報、グループ ディスカッション、公式 CA サポートなど、役に立つ CA ARCserve D2D 関連情報にアクセスできます。

ソーシャル ネットワーキング

Twitter と Facebook にアクセスし、CA ARCserve D2D 関連のソーシャル ネットワーキングに参加できます。

CA ARCserve D2D モニタ

CA ARCserve D2D ホーム ページからアクセスするのと同じように、システム トレイ モニタからも多くのタスク機能にアクセスできます。トレイ モニタから起動できるタスクは、CA ARCserve D2D ホーム ページのオープン、今すぐバックアップ、バックアップ設定、リストア、および拡張設定です。拡張設定オプションからは、さらにブートキット ウィザード、ライセンス、サービスの停止、アラート通知の設定、ニュース フィードのオン/オフ、ソーシャル ネットワーキングのオン/オフなどのオプションを選択できます。



また、CA ARCserve D2D トレイ モニタのアイコン上にカーソルを合わせると、バックアップ ステータスの概要を示すメッセージが表示されます。

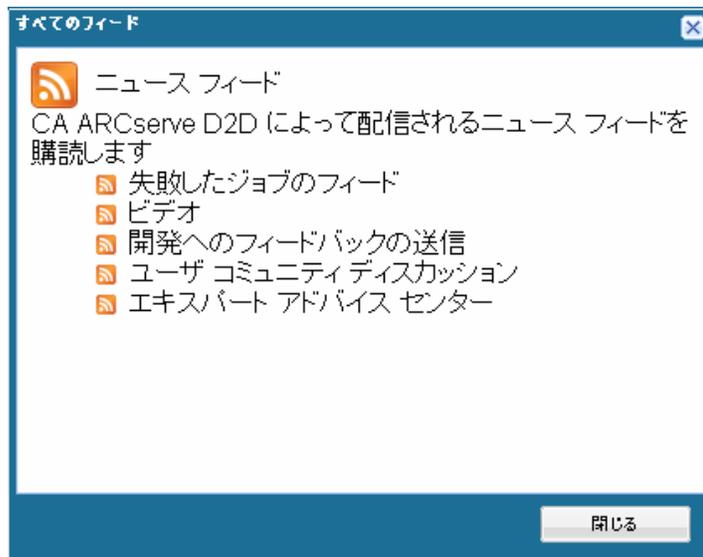


すべてのフィード

CA ARCserve D2D には、関連する Web サイトから RSS フィードを簡単に購読できる[すべてのフィード]リンクが用意されています。RSS (Really Simple Syndication) フィードを使用すると、興味がある Web サイトから発信される関連および最新情報を直接受信して参照できます。また、Web サイトにアクセスして、更新されたかどうかをいちいち確認する必要がありません。必要なのは、RSS フィードを購読することだけです。これは雑誌の購読とよく似ていますが、雑誌は発行されるたびに物理的な郵便受けに配達されるのに対して、RSS の情報は購読する Web サイトが更新されるたびに (RSS フィードを通じて) 送信されます。

RSS フィードを購読して読むには、RSS フィード リーダが必要です。RSS フィード リーダには、Outlook、インターネット ブラウザ (Internet Explorer、Firefox)、Web ベースのリーダ (My Yahoo!、Google Reader)、デスクトップベースのリーダなどがあります。フィードを購読すると、RSS フィード リーダは指定された間隔で新しいコンテンツをチェックし、更新を取得します。

[すべてのフィード]をクリックすると、[すべてのフィード]ダイアログ ボックスが表示されます。



失敗したジョブのフィード

この RSS フィードを購読すると、失敗したバックアップ、リストア、またはコピー ジョブがマシンで実行されるたびに、更新通知を受信します。失敗したジョブには、すべての失敗、未完了、キャンセル、およびクラッシュ ジョブが含まれます。

ビデオ

この RSS フィードを購読すると、CA ARCserve D2D ビデオが更新されるたびに通知を受信します。この RSS フィードは、YouTube ビデオにのみ適用されます。

開発へのフィードバックの送信

この RSS フィードを購読すると、GetSatisfaction Web サイトが更新されるたびに通知を受信します。このサイトでは、CA ARCserve D2D 開発チームにアクセスして、よくある質問を参照したり、自分自身の質問を投稿したり、アイデアを共有したり、問題を報告したりできます。

ユーザ コミュニティ ディスカッション

この RSS フィードを購読すると、CA ARCserve D2D オンライン コミュニティ Web サイト(Google グループ)が更新されるたびに通知を受信します。このサイトでは、CA ARCserve D2D オンライン コミュニティと対話し、CA ARCserve D2D に関する経験を他のユーザと共有できます。

エキスパート アドバイス センター

この RSS フィードを購読すると、ARCserve エクスパート アドバイス センター Web サイトが更新されるたびに通知を受信します。このサイトの便利なランディング ページからは、CA ARCserve D2D 開発チーム(ブログ)による使用上のヒント、製品情報、グループ ディスカッション、公式 CA サポートなど、役に立つ CA ARCserve D2D 関連情報にアクセスできます。

バックアップ設定の管理

最初のバックアップを実行する前に、バックアップ設定を指定する必要があります。これらの設定によって、バックアップ先、バックアップの種類別のスケジュール、バックアップ ジョブの設定や拡張設定などの動作を指定できます。これらの設定は、いつでも CA ARCserve D2D ホーム ページから変更できます。



ビデオ

[バックアップ設定の管理](#)

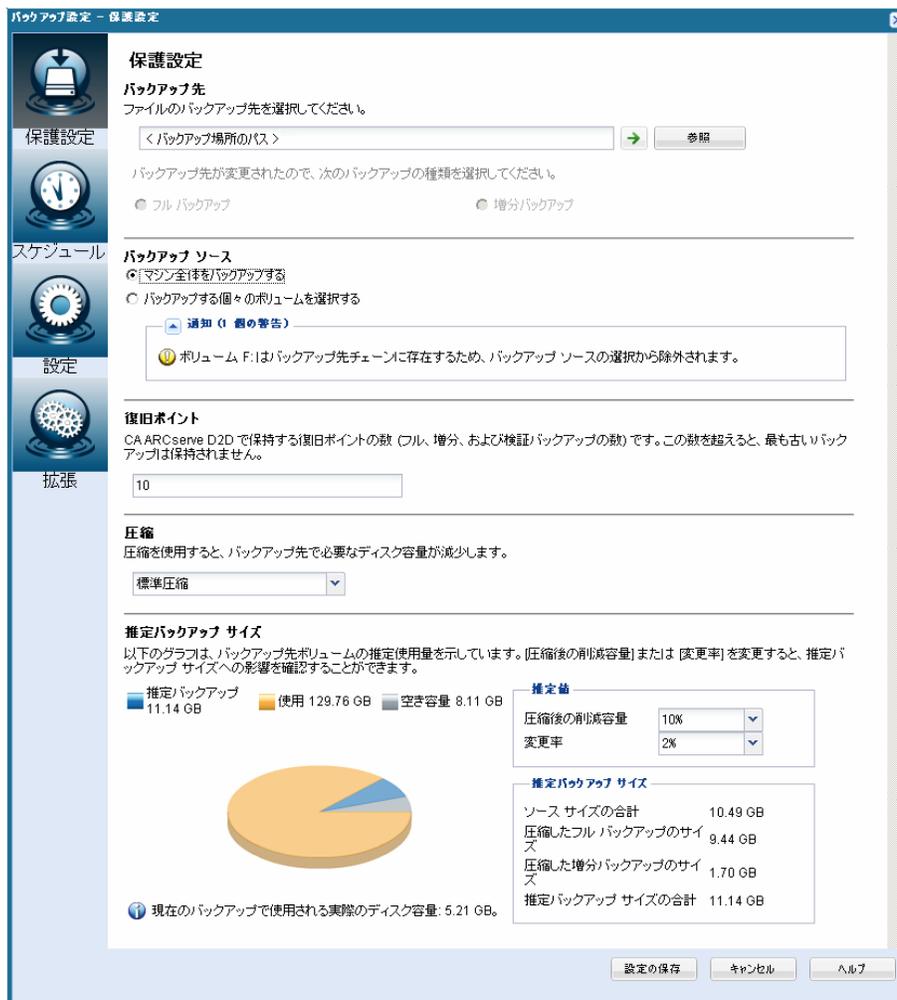
保護設定の指定

CA ARCserve D2D では、バックアップする情報に対する保護設定を指定できます。

保護設定の指定

1. CA ARCserve D2D ホーム ページ(または CA ARCserve D2D モニタ)から、[バックアップ設定]を選択します。

[バックアップ設定]ダイアログ ボックスが開き、保護設定のオプションが表示されます。



2. バックアップ先を指定します。

バックアップ場所としてローカル パス(ボリュームまたはフォルダ)、またはリモート共有フォルダ(またはマップされたドライブ) を指定できます。また、バックアップ先を参照して指定することもできます。

緑色の矢印アイコン ボタンをクリックすると、指定した場所への接続を検証できます。

- バックアップ先のローカル パスを入力した場合、このボタンは無効になります。
 - ネットワーク パスを入力してこのボタンをクリックした場合は、ユーザ名とパスワードの指定を求められます。
 - すでにこのパスに正常に接続されている場合は、このボタンをクリックすると、接続に使用するユーザ名とパスワードを変更できます。
 - このボタンをクリックしない場合、CA ARCserve D2D はバックアップ先のパスを確認し、必要であればユーザ名とパスワードの指定を要求します。
- a. ローカル パス(ボリュームまたはフォルダ)にバックアップするように指定する場合、バックアップ ソースと同じ場所をバックアップ先に指定することはできません。バックアップ先にソースが含まれている場合、バックアップ ジョブはソースのこの部分を無視するため、バックアップには含まれません。

たとえば、ローカル マシン全体(ボリューム C、D、および E で構成)をバックアップする際に、バックアップ先としてボリューム E を指定した場合は、ボリューム C および D のみがボリューム E にバックアップされます。ボリューム E のデータはバックアップに含まれません。ローカル ボリュームをすべてバックアップする場合は、バックアップ先としてリモート ロケーションを指定する必要があります。

重要: 指定したバックアップ先ボリュームにシステム情報が含まれていないことを確認してください。システム情報が含まれていると、そのボリュームは保護(バックアップ)されず、必要が生じてベア メタル復旧(BMR)を実施したときにシステムの復旧が失敗します。

注: ダイナミック ディスクのリストアはディスク レベルのみで実行できます。ダイナミック ディスク上のボリュームにデータがバックアップされた場合、このダイナミック ディスクをBMR 実行中にリストアすることはできません。

- b. バックアップ先としてリモートの共有場所を指定した場合は、その場所へのパスを入力するか、その場所を参照して選択する必要があります。また、リモートマシンにアクセスする際に、ユーザ認証情報(ユーザ名とパスワード)を入力する必要があります。

注: ダイナミック ディスクのリストアはディスク レベルのみで実行できます。ダイナミック ディスク上のボリュームにデータがバックアップされた場合、このダイナミック ディスクをBMR 実行中にリストアすることはできません。

- c. 最後のバックアップが実行された後、指定したバックアップ先が変更されている場合、バックアップの種類を選択する必要があります。このオプションは、バックアップ先を変更する場合にのみ有効になります。利用可能なオプションは、「フル バックアップ」と「増分バックアップ」です。

フル バックアップ

次に実行されるバックアップをフル バックアップに指定します。新しいバックアップ先には、古いバックアップ先との依存関係はありません。フルバックアップを続行する場合、バックアップを続行するために前の場所を指定する必要はありません。前回のバックアップ先からリストアを実行しない場合、リストア用に古いバックアップを保持するか、削除するかを選択できます。この選択は、今後のバックアップには影響を与えることはありません。

増分バックアップ

次に実行されるバックアップを増分バックアップに指定します。次の増分バックアップを新しいバックアップ先に実行する場合は、前回のバックアップ先にあるバックアップを一切コピーすることなく、実行されます。ただし、変更には増分データのみが含まれているため（フル バックアップ データではない）、新しいバックアップ先には前回のバックアップ先との依存関係があります。前回のバックアップ先からデータを削除しないでください。バックアップ先を別のフォルダに変更し、増分バックアップの実行時に前回のバックアップ先が存在しない場合、バックアップは失敗します。

3. バックアップ ソースを指定します。

マシン全体またはマシンの個々のボリュームをバックアップ対象として指定できます。

マシン全体をバックアップする

マシン全体をバックアップするように指定します。マシンのすべてのボリュームがバックアップされます。

注： マシン全体のバックアップが選択されている場合、CA ARCserve D2D は現在のマシンに接続されているすべてのディスク/ボリュームを自動的に検出し、それらをバックアップ対象に追加します。

たとえば、バックアップ設定の実行後に新しいディスクがマシンに接続された場合でもバックアップ設定を変更する必要はなく、新しいディスク上のデータは自動的に保護されます。

バックアップする個々のボリュームを選択する

このボリューム フィルタ機能を使用すると、選択したボリュームのみをバックアップできます。また、リスト内のすべてのボリュームを選択または選択解除することもできます。

注：一部のボリュームがバックアップ対象として明示的に選択されている場合は、選択されたボリュームのみがバックアップされます。新しいディスク/ボリュームがマシンに接続された場合、そのディスク/ボリューム上のデータを保護するにはボリューム選択リストを手動で変更する必要があります。

このオプションを選択すると、利用可能なすべてのボリュームが対応するボリューム情報および通知メッセージと共に表示されます。

名前	レイアウト	種類	ファイル シス...	コンテンツ	合計サイズ	使用容量
 ini C:	シングル	ベーシック	NTFS	ブート、ページ ファイル	29.20 GB	9.13 GB
 D:	シングル	ベーシック	NTFS		10.80 GB	82.91 MB
 システム で予約済 み	シングル	ベーシック	NTFS	システム	10 .00 MB	28.19 MB

選択したボリュームのサイズ: 28.19 MB

通知 (2 個の警告)

-  ボリューム D: はバックアップ先チェーンに存在するため、バックアップ ソースの選択から除外されます。
-  システム ボリューム C: がバックアップ ソース ボリューム リストに存在しません。このバックアップは BMR に使用できません。

- **名前** - ボリューム ドライブ 文字、マウント ポイント、ボリューム GUID (Globally Unique Identifier) 名
- **レイアウト** - シングル、スパン、ミラー、ストライプ、RAID5 (RAID 5 ボリュームのバックアップはサポートされていません)
- **種類** - ベーシック、ダイナミック
- **ファイル システム** - NTFS、FAT、FAT32 (FAT と FAT32 のバックアップはサポートされていません)
- **コンテンツ** - アプリケーション (SQL/Exchange)、システム、ブート、ページ ファイル、アクティブ、リムーバブル デバイス、VHD、2TB ディスク
- **合計サイズ** - ボリュームの容量
- **使用容量** - 使用したディスク容量

以下のいずれかの条件では、通知メッセージが表示されます。

- **ローカル ボリューム関連**

指定されたバックアップ先がローカル ボリュームにある場合、そのボリュームがバックアップされないことを通知する警告メッセージが表示されます。

- **BMR 関連**

システム/ブート ボリュームがバックアップ用には選択されない場合、バックアップが BMR に使用できないことを通知する警告メッセージが表示されます。

- **アプリケーション関連**

バックアップ対象として選択されていないボリュームにアプリケーション データ ファイルが存在する場合、そのアプリケーション名とデータベース名が参考用に表示されます。

4. **復旧ポイント**を指定します。

保存する復旧ポイント(バックアップ イメージ)の数を指定します。

指定した制限数を超えると、CA ARCserve D2D によって、最も早い(最も古い)増分 - 子バックアップが親バックアップにマージされ、「親と最も古い子」のブロックで構成される新しいベースライン イメージが作成されます。最も古い子バックアップを親バックアップにマージするサイクルは、これ以降のバックアップごとに繰り返されます。これによって、同じ保存数を維持しながら、継続的に増分バックアップを実行できます。

注: デスティネーションの空き容量が不足している場合、保存する復旧ポイントの数を減らすことを検討してください。

デフォルトでは、復旧ポイント保存数は 31 個に設定されます。

注: 復旧ポイントの最大数は 1344 です。

5. **圧縮の種類**を指定します。

バックアップに使用される圧縮の種類を指定します。

圧縮は、通常、ディスク容量の使用率を減らすために実行されますが、CPU 使用率が増加するため、バックアップ速度が低下するという影響があります。

使用可能なオプションは、以下のとおりです。

- **圧縮なし**

圧縮は行われません。このオプションを使用すると、CPU 使用率は最も低くなります（最も高速で動作します）。ただし、バックアップ イメージのディスク容量の使用率は最大になります。

- **標準圧縮**

標準圧縮が行われます。このオプションを使用すると、CPU 使用率とディスク容量使用率のバランスを適度に調節します。これはデフォルトの設定です。

- **最大圧縮**

最大圧縮が行われます。このオプションを使用すると、CPU 使用率が最も高くなります（最も低速で動作します）。ただし、ディスク容量の使用率は、最小になります。

注:

- バックアップ イメージに圧縮できないデータ (JPG イメージ、ZIP ファイルなど) が含まれている場合、それらのデータを処理するために、追加のストレージスペースを割り当てる必要が生じることがあります。そのため、圧縮オプションを選択していて、バックアップに圧縮可能でないデータがある場合、実際にはディスク容量の使用率が增大する場合があります。
- 圧縮レベルを[圧縮なし]から[標準圧縮]または「最大圧縮」のいずれかに変更するか、[標準圧縮]または「最大圧縮」のいずれかから[圧縮なし]に変更した場合、圧縮レベルの変更後に実行される最初のバックアップは自動的にフル バックアップになります。フル バックアップを実行した後、それ以降のすべてのバックアップ (フル、増分、検証) はスケジュールどおりに実行されます。
- デスティネーションの空き容量が足りない場合、バックアップの圧縮設定を高くすることを検討してください。

6. **推定バックアップ サイズ**を計算します。

デスティネーション ボリュームの推定使用率を表示します。

推定バックアップ計算の使い方の詳細については、「将来のバックアップ スペース要件の推定」を参照してください。

■ **推定値**

推定値を使用すると、復旧ポイントの数に基づいて総バックアップ サイズの概算値を計算できます。

- **圧縮後の削減容量**

この値は、圧縮後に節約されたディスク容量を示します。

たとえば、ボリュームのデータ サイズが 1000 MB で、バックアップ後の圧縮データ サイズが 800 MB である場合、圧縮後の削減容量の推定値は 200 MB (20%)です。

- **変更率**

この値は、増分バックアップの一般的なデータ サイズを示します。

たとえば、増分バックアップのデータ サイズが 100 MB で、フル バックアップのデータ サイズが 1000 MB である場合、推定変更率は 10% です。

■ **円グラフ**

推定値が定義されている場合、CA ARCserve D2D はバックアップ先の設定と復旧ポイントに基づいて必要な推定バックアップ サイズを計算して表示します。また、円グラフには、使用スペースおよび空き容量のサイズも表示されます。

■ **推定バックアップ サイズ**

ソース サイズの合計、圧縮したフル バックアップのサイズ、圧縮した増分バックアップのサイズ、および推定バックアップ サイズの合計の推定値が表示されます。

7. [設定の保存]をクリックします。

保護設定が保存されます。

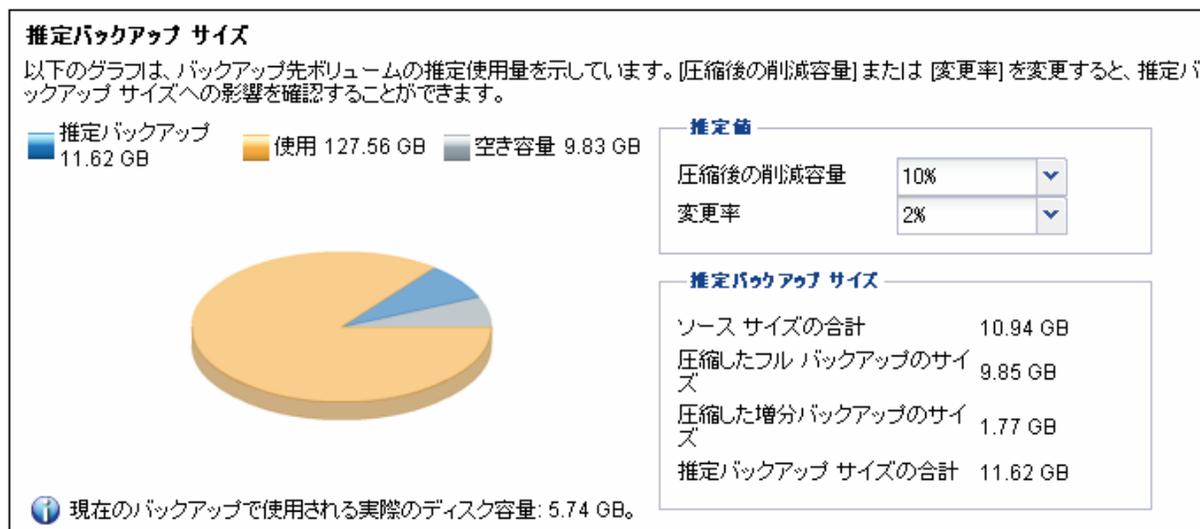


ビデオ

[バックアップ先の設定](#)

将来のバックアップ スペース要件の推定

CA ARCserve D2D には、バックアップに必要な空き容量の推定値を計算するための便利なツールが用意されています。このツールのコンセプトは、将来のデータ変更の予測と過去のバックアップが占めているスペースに基づいています。



このツールの使用方法

1. バックアップ ソースを選択します。これは、マシン全体か、またはマシン内の選択したボリュームのいずれかです。

選択されたバックアップ ソースの実サイズが[ソース サイズの合計]フィールドに表示されます。

2. 将来のバックアップの予想変更率を見積もります。

この推定は、合計バックアップ サイズが以後の各増分バックアップでどのくらい変化したかに関する過去のパフォーマンスに基づいて行います。

3. 圧縮後の削減容量をパーセンテージで見積もります。

この推定は、異なる圧縮設定を適用した過去のバックアップのパフォーマンスに基づいて行います。

この値を変更すると、それに応じたバックアップ サイズへの影響を確認できます。

注: 必要な場合、異なる圧縮設定(圧縮なし、標準圧縮、および最大圧縮)でフルバックアップを何度か実行して過去のパフォーマンス値を定義しておく、各設定によって実現される容量削減率をより正確に計算できます。

- [圧縮したフル バックアップのサイズ]フィールドには、以下に基づく計算値が表示されます。
 - バックアップ ソースのサイズ
 - 指定した圧縮率
 - [圧縮した増分バックアップのサイズ]フィールドには、以下に基づく計算値が表示されます。
 - 推定変更率
 - 保存される復旧ポイントの数
 - 指定した圧縮率
 - [推定バックアップ サイズの合計]フィールドには、将来のバックアップで必要な予想スペースが表示されます。この値は、以下に基づきます。
 - 1 回のフル バックアップに必要なスペースの量 および
 - 指定した数の復旧ポイントを保存するために必要な増分バックアップの容量
4. この[推定バックアップ サイズの合計]値に基づいて、バックアップ先にバックアップを保存するための十分なスペースがあるかどうかを調べることができます。
- バックアップ先に十分な空き容量が存在しない場合は、以下の修正処置を検討してください。
- 保存される復旧ポイントの数を減らす
 - バックアップ先の利用可能な空き容量を増やす
 - より大容量のバックアップ先に変更する
 - バックアップ ソースのサイズを減らす(バックアップから不要なボリュームを除外する)
 - バックアップの圧縮率を大きくする

バックアップ スケジュールの指定

CA ARCserve D2D では、バックアップのスケジュールを指定できます。

バックアップ スケジュールの指定

1. CA ARCserve D2D ホーム ページ(またはシステム トレイ アイコン)から、[バックアップ設定]を選択し、[スケジュール]タブをクリックします。

スケジュール オプションを表示するダイアログ ボックスが表示されます。

スケジュール

開始日時の設定
フルバックアップ、増分バックアップ、検証バックアップのスケジュール開始日と開始時刻を指定してください。
開始日 10/03/23 開始時刻 6 : 24 午前

増分バックアップ
CA ARCserve D2Dは、最後に正常に完了したバックアップ後に変更されたデータのみを増分バックアップします。
 繰り返して実行する 一定間隔 1 日
 実行しない

フル バックアップ
CA ARCserve D2Dは、マシンからすべてのデータをバックアップします。
 繰り返して実行する 一定間隔 1 日
 実行しない

検証バックアップ
CA ARCserve D2Dは最後に正常に完了したバックアップ データとソース データを比較し、信頼性チェックを実行します。次に差分のみを増分バックアップ (再同期)します。最終的なバックアップ サイズは増分バックアップよりも小さいか同程度ですが、すべてのデータを比較するため増分バックアップよりも時間がかかる場合があります。
 繰り返して実行する 一定間隔 1 日
 実行しない

設定の保存 キャンセル ヘルプ

2. バックアップ スケジュール オプションを指定します。

開始日時の設定

バックアップ スケジュールの開始日および開始時刻を指定します。

増分バックアップ

増分バックアップのバックアップ スケジュールを指定します。

CA ARCserve D2D は、スケジュールされたとおりに、最後に正常に完了したバックアップ以降に変更されたブロックのみを、増分方式でバックアップします。増分バックアップのメリットは、バックアップを高速で実行できること、また作成されるバックアップ イメージのサイズが小さいということです。これは、バックアップを実行する場合に最も適した方法です。そのため、デフォルトではこのバックアップを使用します。

利用可能なオプションは「繰り返し実行する」と「実行しない」です。[繰り返し実行する]オプションを選択した場合、バックアップの実行間隔(分単位、時間単位、または日単位)を指定する必要があります。増分バックアップの最小設定は 15 分ごとです。

デフォルトでは、増分バックアップのスケジュールは 1 日ごとに繰り返すよう設定されています。

フル バックアップ

フル バックアップのバックアップ スケジュールを指定します。

CA ARCserve D2D は、スケジュールされたとおりに、ソース マシンから、使用されているすべてのブロックのフル バックアップを実行します。利用可能なオプションは「繰り返し実行する」と「実行しない」です。[繰り返し実行する]オプションを選択した場合、バックアップの実行間隔(分単位、時間単位、または日単位)を指定する必要があります。フル バックアップの最小設定は 15 分ごとです。

デフォルトでは、フル バックアップのスケジュールは[実行しない](スケジュールされている繰り返しはない)です。

検証バックアップ

検証バックアップのバックアップ スケジュールを指定します。

CA ARCserve D2D は、スケジュールされたとおりに、保護されたデータが有効で完全であることを検証します。保存されたバックアップ イメージの信頼性チェックを元のバックアップ ソースに対して実行し、必要に応じてイメージを再同期します。検証タイプのバックアップは、個別のブロックの最新バックアップを参照し、そのコンテンツおよび情報をソースと比較します。この比較によって、最も最近バックアップされたブロックが、ソースの対応する情報を表しているかどうかを検証します。ブロックのバックアップ イメージがソースと一致しない場合(多くは、最後のバックアップ以降にシステムに変更が加えられていることが原因)、CA ARCserve D2D によって、一致していないブロックのバックアップが更新(再同期)されます。また、検証バックアップは、フル バックアップほどの容量を使用せずに、フル バックアップの信頼性を確認するためにも使用できます。

検証バックアップのメリットは、変更されたブロック(前回のバックアップと一致しないブロック)のみをバックアップするため、フル バックアップと比較するとバックアップ サイズが小さくなることです。検証バックアップのデメリットは、CA ARCserve D2D がソース ディスク のすべてのブロックを前回バックアップしたブロックと比較する必要があるため、バックアップに時間がかかることです。

利用可能なオプションは「繰り返し実行する」と「実行しない」です。[繰り返し実行する]オプションを選択した場合、バックアップの実行間隔(分単位、時間単位、または日単位)を指定する必要があります。検証バックアップの最小設定は 15 分ごとです。

デフォルトでは、検証バックアップのスケジュールは[実行しない](スケジュールされている繰り返しはない)です。

3. [設定の保存]をクリックします。

バックアップ スケジュール設定が保存されます。

注: ある時点で同時に実行するようスケジュールされたバックアップの種類が複数ある場合、実行されるバックアップの種類は、以下の優先度に基づきます。

- 優先度 1 - フル バックアップ
- 優先度 2 - 検証バックアップ
- 優先度 3 - 増分バックアップ

たとえば、3 種類のバックアップすべてを同時に実行するようスケジュールされている場合、CA ARCserve D2D ではフル バックアップを実行します。フル バックアップがスケジュールされておらず、検証バックアップと増分バックアップが同時に実行するようスケジュールされている場合、CA ARCserve D2D は検証バックアップを実行します。他の種類のバックアップとの競合がなければ、スケジュールされた増分バックアップのみが実行されます。



ビデオ

[バックアップ スケジュールの設定](#)

バックアップ設定の指定

CA ARCserve D2D では、バックアップの設定を指定できます。

バックアップ設定の指定

1. CA ARCserve D2D ホーム ページ(またはシステム トレイ アイコン)から、[バックアップ設定]を選択し、[設定]タブをクリックします。

設定オプションを表示するダイアログ ボックスが表示されます。



2. バックアップ設定オプションを指定します。

ログの切り捨て

選択したアプリケーションの蓄積されたトランザクション ログ ファイルを、次に正常にバックアップが完了した後に切り捨てるよう指定します。

CA ARCserve D2D バックアップは、スナップショット イメージと、そのイメージ用に作成されたトランザクション ログ ファイルで構成されます。ある時点でこれらの古い(コミット済み)トランザクション ログ ファイルは必要ではなくなるため、新しいログ ファイルのスペースを作るためにパージする必要があります。これらのログ ファイルをパージするプロセスを、ログの切り捨てと呼びます。このオプションを選択すると、コミット済みのトランザクション ログ ファイルの切り捨てが有効になり、ディスク容量を節約できます。

利用可能なオプションは、「SQL Server」および「Exchange Server」です。これらのアプリケーションのどちらか、または両方を選択でき、どちらも選択しないことも可能です。これらのアプリケーションのいずれかを選択した場合、自動的にログ切り捨てのスケジュール([毎日]、[毎週]、[毎月])を指定できます。

注: バックアップが正常に完了しないと、トランザクション ログ ファイルの切り捨ては実行されません。

- **[毎日]** - 毎日のバックアップが正常に完了した直後に、コミット済みのトランザクション ログがパージされます。
- **[毎週]** - 7 日後のバックアップが正常に完了した直後に、コミット済みのトランザクション ログがパージされます。
- **[毎月]** - 30 日後のバックアップが正常に完了した直後に、コミット済みのトランザクション ログがパージされます。

パージの実行がスケジュールされた時刻にバックアップ ジョブが実行中である場合、パージ処理は次のスケジュール ジョブに移動します。

例:

毎日午後 5 時に増分バックアップが自動的に実行されるようにスケジュールされていて、午後 4 時 55 分に手動でフル バックアップを開始した場合を考えてみます。バックアップは午後 5 時 10 分に正常に完了すると仮定します。

この場合、アドホックなフル バックアップが進行中なので、午後 5 時にスケジュールされていた増分バックアップはスキップされます。コミット済みのトランザクション ログは、次回、バックアップ ジョブが正常に完了した後にパージされます。この例では、翌日の午後 5 時にスケジュールされた増分バックアップが正常に完了した後に実行されます。

管理者アカウント

バックアップを実行するためのアクセス権がある[ユーザ名]および[パスワード]を指定します。CA ARCserve D2D によって、名前とパスワードが有効で、ユーザが管理者グループに属していることが確認されます。

注:

- ドメイン アカウントを指定する場合、ユーザ名の形式は、完全修飾ドメイン ユーザ名「<ドメイン名>\<ユーザ名>」の形式で指定する必要があります。
- CA ARCserve D2D サーバの管理者アカウントの情報を変更する場合 (ユーザ名/パスワード)、このダイアログ ボックスでも管理者アカウント情報を再設定する必要があります。

3. [設定の保存]をクリックします。

バックアップ設定が保存されます。



ビデオ

[バックアップ設定の指定](#)

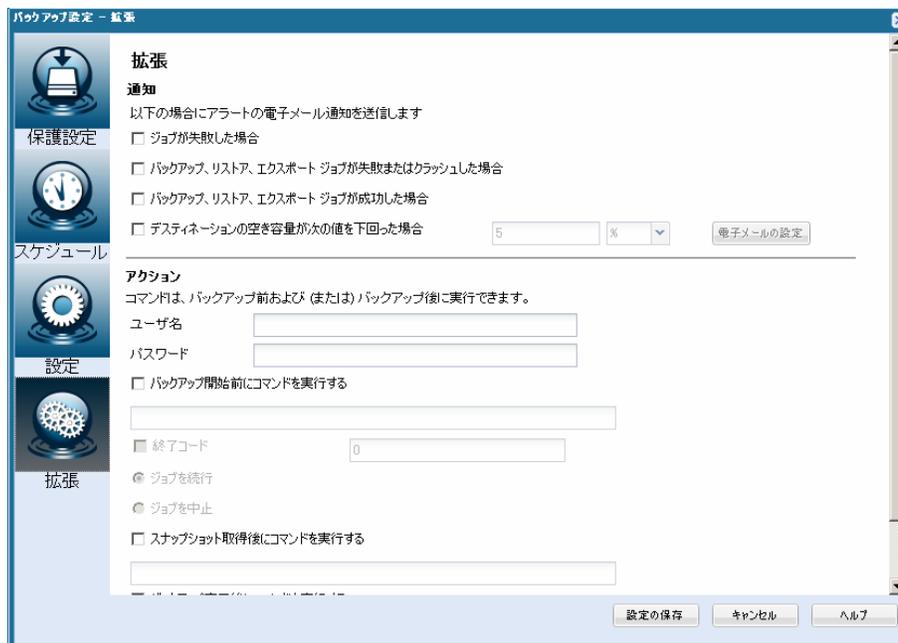
バックアップ拡張設定の指定

CA ARCserve D2D では、バックアップの拡張設定を指定できます。

バックアップ拡張設定の指定

1. CA ARCserve D2D ホーム ページ(または CA ARCserve D2D モニタ)から、[バックアップ設定]を選択し、[拡張]タブをクリックします。

拡張設定オプションを表示するダイアログ ボックスが表示されます。



2. バックアップ拡張設定オプションを指定します。

通知

選択したイベントが完了したときに、自動的に電子メール アラート通知を送信するよう指定します。以下のイベント通知を送信するオプションが利用可能です。

- **ジョブが失敗した場合**

失敗したすべてのジョブに対して電子メール アラート通知を送信します。失敗したジョブとは、スケジュールが設定されているが、スケジュール時刻に実行されなかったジョブのことです。これは、他のジョブが実行中の場合、または先に開始したジョブがまだ完了していない場合に発生します。たとえば、バックアップ ジョブのスケジュール時刻にエクスポートまたは復旧ジョブが実行中の場合、バックアップ ジョブは失敗します。

- **バックアップ、リストア、エクスポート ジョブが失敗またはクラッシュした場合**

バックアップ、リストア、エクスポートのいずれかのジョブ試行が失敗すると、電子メール アラート通知を送信します。このカテゴリには、失敗、未完了、キャンセル、スケジュール ジョブの未実行、およびクラッシュのすべてが含まれます。

- **バックアップ、リストア、エクスポート ジョブが成功した場合**

バックアップ、リストア、エクスポートのいずれかのジョブ試行が成功すると、電子メール アラート通知を送信します。

- **デスティネーションの空き容量が次の値を下回った場合**

バックアップ先の未使用容量が指定した値を下回った場合、電子メール アラート通知を送信します。このオプションでは、アラート通知を送信するしきい値として、全容量の割合または特定の値(単位 - MB)のどちらかで指定するかを選択することができます。

電子メール通知を送信するよう選択したら、[電子メールの設定]をクリックし、関連するダイアログ ボックスを表示します。詳細については、[「電子メール設定の指定」](#)(62 ページ)を参照してください。

アクション

バックアップの開始前、スナップショット イメージのキャプチャ後、またはバックアップの完了時、あるいはそれらを組み合わせたタイミングで、アクション用のスクリプト コマンドを実行するよう指定します。また、特定の終了コードに基づいてスクリプト コマンドをトリガしたり、その終了コードが返されたときに処理するアクション(ジョブを続行またはジョブを中止)を選択できます。

- 「ジョブを続行」アクションでは、指定した終了コードが返された場合、CA ARCserve D2D がジョブを続行するよう指定します。
- 「ジョブを中止」アクションでは、指定した終了コードが返された場合、CA ARCserve D2D がジョブをキャンセルするよう指定します。

3. [設定の保存]をクリックします。

バックアップの拡張設定が保存されます。



[\[拡張\]バックアップ設定の指定](#)

電子メール設定の指定

[電子メールの設定]ダイアログ ボックスでは、メール サーバ、件名、電子メールの送信者、電子メールの受信者、プロキシ設定の有効化と定義などの電子メール設定を指定できます。これらの設定はすべての電子メール アラート通知に適用されます。また、設定はいつでも変更できます。

電子メールの設定

電子メールの設定

サービス

メール サーバ ポート

認証が必要

アカウント名

パスワード

件名

送信者

受信者

SSL を使用 STARTTLS の送信 HTML 形式を使用

プロキシ設定を有効にする

プロキシ サーバ ポート

OK キャンセル ヘルプ

サービス

アラート通知の送信に使用する電子メール プロバイダ サービス。利用可能なオプションは、Google メール、Yahoo メール、Live メールおよびその他です。

- [その他]を選択する場合、使用するメール サーバおよび対応するポート番号を特定する必要があります。これはデフォルトの設定です。
- [Google メール]、[Yahoo メール]、[Live メール]を選択する場合、メールサーバとポート番号は自動的に入力されます。

メール サーバ

CA ARCserve D2D で電子メール アラートの送信に使用できる SMTP メールサーバのホスト名。

ポート

メール サーバの出力ポート番号。

認証が必要

インターネット経由で電子メールを送信する際、このメール サーバが認証を必要とするかどうかを指定します。このオプションを選択する場合、対応するユーザ アカウント名とパスワードを指定する必要があります。

件名

CA ARCserve D2D が送信する電子メール アラート通知の件名。デフォルトは、CA ARCserve D2D アラートです。

送信者

CA ARCserve D2D で電子メール アラート通知の送信に使用する電子メール アドレス。

受信者

送信する電子メール アラート通知の受信者の電子メール アドレス。

注：複数の電子メール アドレスを入力するには、各アドレスをセミコロンで区切る必要があります。

SSL の使用

インターネット経由でデータを安全に転送するために、電子メール サーバが SSL (Secure Sockets Layer) 接続を必要とすることを指定します。

STARTTLS の送信

サーバ間で安全な SMTP 接続を開始するために、発行された STARTTLS (Start TLS extension) コマンドを電子メール サーバで必要とすることを指定します。

HTML 形式を使用

電子メール アラート通知が HTML 形式で送信されます。このオプションを選択しない場合、アラートはテキスト形式で送信されます。デフォルトでは、この機能はオンになっています。

プロキシ設定を有効にする

電子メール アラート通知を送信する際に、プロキシ サーバに接続するかどうかを指定します。このオプションを選択する場合、対応するプロキシ サーバ名とポート番号を指定する必要があります。

第 4 章: CA ARCserve D2D の使用法

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[バックアップの考慮事項](#) (65 ページ)

[今すぐバックアップを実行](#) (69 ページ)

[Microsoft Hyper-V 環境での CA ARCserve D2D](#) (72 ページ)

[リストアの考慮事項](#) (74 ページ)

[リストア方式](#) (75 ページ)

[アプリケーションのリストア](#) (89 ページ)

[復旧ポイントのエクスポート](#) (100 ページ)

[CA ARCserve D2D バックアップからの VHD ファイルの作成](#) (103 ページ)

[ログの表示](#) (106 ページ)

[CA ARCserve D2D のリモート展開](#) (107 ページ)

[サーバ選択リストの管理](#) (110 ページ)

[ブートキットの作成](#) (112 ページ)

[ベア メタル復旧の実行](#) (115 ページ)

[CA ARCserve D2D ライセンスの追加](#) (129 ページ)

[サーバの通信プロトコルの変更](#) (131 ページ)

バックアップの考慮事項

CA ARCserve D2D バックアップを実行する前に、以下を検討する必要があります。

■ バックアップ先の空きディスク容量

バックアップ先に十分な空き容量が存在しない場合は、以下の修正処置を検討してください。

- 保存する復旧ポイントの数を減らす
- バックアップ先の利用可能な空き容量を増やす
- より大容量のバックアップ先に変更する
- バックアップ ソースのサイズを減らす (バックアップから不要なボリュームを除外する)
- バックアップの圧縮率を大きくする

■ 適切なライセンスの取得

バックアップ (特に SQL Server および Exchange Server) の実行に CA ARCserve D2D を使用する場合、適切なライセンスを取得していることを必ず確認してください。

■ バックアップ ディスク サイズ

ボリュームが 2TB 以上のディスクに存在し、圧縮しないバックアップ フォーマットを使用する場合、このボリュームはバックアップからスキップされます。

■ バックアップ先の変更が保存済み復旧ポイントに与える影響

変更されたバックアップ先に対して増分バックアップを継続し、指定した保存済み復旧ポイント数に達した場合、CA ARCserve D2D では、最も古いバックアップセッションの最初のバックアップ先へのマージを開始します。これは、指定された復旧ポイント数を保持するためです。このマージ処理が繰り返されると、最初のバックアップ先に保存された復旧ポイント数が減少し、同時に、変更されたバックアップ先の復旧ポイント数が増加します。最終的には、最初のバックアップ先の復旧ポイントがなくなり、すべてのセッションは変更されたバックアップ先にマージされます。

■ バックアップ先の変更が継続的なバックアップに及ぼす影響

あるバックアップ先へのフル バックアップ (および複数の増分バックアップ) を設定および実行した後にバックアップ先を変更しても、バックアップの再設定を行って、引き続き新しいバックアップ先への増分バックアップを問題なく実行できます。

後から再度バックアップ先を変更する場合も、バックアップ設定を再設定すると、新しいバックアップ先への増分バックアップを引き続き問題なく実行できます。

例:

- ユーザが所有するマシンのバックアップ先がローカル/リモート ボリュームのフォルダ A に設定されています。フル バックアップ 1 回と増分バックアップを何度か実行した後にバックアップ先がいっぱいになったため、別のバックアップ先 (フォルダ B) に変更するとします。フォルダ B をバックアップ先にするようにバックアップ設定を再設定できます。CA ARCserve D2D は引き続き、新しいバックアップ先に増分バックアップを実行します。その結果、元のフォルダ A にはフル バックアップと複数の増分バックアップが格納されます。また、新しいフォルダ B には複数の増分バックアップが格納されます。
- フォルダ B への複数の増分バックアップを実行した後、他の新しいバックアップ先 (フォルダ C) を再設定する場合、元のフル バックアップの場所 (フォルダ A) へのリンクが保持されているため、CA ARCserve D2D はバックアップ先フォルダ C への増分バックアップを引き続き実行します。

あるバックアップ先へのフル バックアップ (および複数の増分バックアップ) を設定および実行した後、バックアップ先を別の場所に変更する場合、元のバックアップ先から新しいバックアップ先にコンテンツをコピーまたは移動することができます。次に、バックアップ設定を再設定すると、増分バックアップを新しいバックアップ先に引き続き問題なく実行することができます。

ただし、最初の場所にフル バックアップ、2 番目の場所に増分バックアップがあり、2 番目の場所から 3 番目の場所にコンテンツを移動した後に引き続き増分バックアップを実行しようとする、最初の場所へのリンクが失われるためバックアップは失敗します。

例:

- ユーザが所有するマシンのバックアップ先がローカル/リモート ボリュームのフォルダ A に設定されています。フル バックアップ 1 回と増分バックアップを何度か実行した後にバックアップ先がいっぱいになったため、別のバックアップ先(フォルダ B)に変更するとします。フォルダ A のコンテンツをフォルダ B に移動し、新しいフォルダ B をバックアップ先とするようにバックアップ設定を再設定することができます。CA ARCserve D2D は引き続き、増分バックアップを新しいバックアップ先である フォルダ B に対して実行します。その結果、フル バックアップおよびすべての増分バックアップは、新しいバックアップ先であるフォルダ B に存在します。
- ただし、最初のバックアップ先がフォルダ A (1 つのフル バックアップと複数の増分バックアップを含む) であり、CA ARCserve D2D バックアップ設定を使用してバックアップ先をフォルダ B に変更した後に増分バックアップを引き続き実行すると、フォルダ B には増分バックアップのみが含まれます。次に、フォルダ B からフォルダ C の中の他の新しいバックアップ先にコンテンツを移動する場合(フォルダ B から増分バックアップのみを移動し、フル バックアップは含まない)、フォルダ C に増分バックアップを実行すると増分バックアップは失敗します。これは、元のフル バックアップ(フォルダ A)へのリンクが失われたためです。

■ **Microsoft SQL Server のバックアップの制限**

Microsoft SQL Server VSS Writer の制限のため、特定のステータスを持つ Microsoft SQL Server データベースの中には、自動的にスキップされて CA ARCserve D2D によってバックアップされないものがあります。このようなデータベースには以下が含まれます。

- ステータスが「リストア中」のデータベース このステータスは、データベースがログ配布のセカンダリ データベース、ミラー データベース、または追加的にリストアされるバックアップ済みデータを待機中のデータベースであることを示します。
- ステータスが「オフライン」のデータベース このステータスは、このデータベースの通常使用が不可であることを示します。
- データベースはあるボリューム内に設定され、ログは別のボリュームに設定されている場合、バックアップ用として 1 つのボリュームしか選択しないと、Microsoft SQL アプリケーションのバックアップは、そのデータベースについてはスキップされます。

■ **Microsoft Exchange Server のバックアップの制限**

- データベースはあるボリューム内に設定され、ログは別のボリュームに設定されている場合、バックアップ用として 1 つのボリュームしか選択しないと、Microsoft Exchange アプリケーションのバックアップは、そのデータベースについてはスキップされます。

今すぐバックアップを実行

通常、バックアップは自動的に実行され、スケジュール設定によって制御されます。ただし、スケジュールされていない時間にバックアップ(フル、増分、検証)をただちに実行する必要が生じる場合があります。

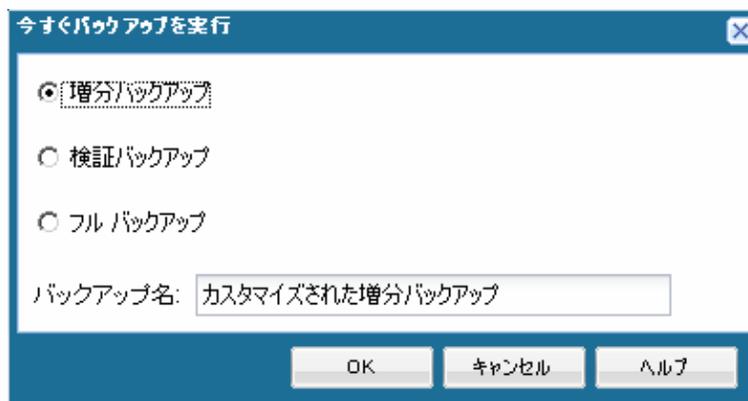
アドホック バックアップとは、事前に準備したり計画に組み込んだりするものではなく、必要となった場合に作成するバックアップです。たとえば、フル、増分、検証バックアップを繰り返し実行するスケジュールが設定されている状況でマシンに大幅な変更を加える場合、次にスケジュールされたバックアップを待つかわりに、すぐにバックアップを実行する必要があります。

また、アドホック バックアップでは、カスタマイズされた(スケジュールされていない)復旧ポイントを追加できるため、必要な場合にはその時点までロール バックすることができます。たとえば、パッチまたはサービス パックをインストールした後、マシンのパフォーマンスに悪影響を及ぼすことが判明した場合、そのパッチやサービス パックが含まれていないアドホックのバックアップ セッションまでロールバックすることができます。

今すぐバックアップを実行

1. CA ARCserve D2D ホーム ページ(またはシステム トレイ モニタ)から、[今すぐバックアップ]をクリックします。

[今すぐバックアップを実行]ダイアログ ボックスが表示されます。



2. 実行するバックアップの方式を選択します。

利用可能なオプションは「フル」、「増分」、および「検証」です。

フル バックアップ

マシン全体または選択したボリュームのフル バックアップをただちに開始します。

増分バックアップ

マシンの増分バックアップをただちに開始します。増分バックアップは、前回のバックアップ以降に変更されたブロックのみをバックアップします。

増分バックアップのメリットは、バックアップを高速で実行できること、また作成されるバックアップ イメージのサイズが小さいということです。これは、バックアップを実行する場合に最も適した方法です。

検証バックアップ

マシンの検証バックアップをただちに開始します。検証バックアップは、個別のブロックの最新バックアップを参照し、そのコンテンツおよび情報をソースと比較します。この比較によって、最も最近バックアップされたブロックが、ソースの対応する情報を表しているかどうかを検証します。ブロックのバックアップイメージがソースと一致しない場合、CA ARCserve D2D によって、一致していないブロックのバックアップが更新(再同期)されます。

検証バックアップのメリットは、変更されたブロック(前回のバックアップと一致しないブロック)のみをバックアップするため、フル バックアップと比較するとバックアップ サイズが小さくなることです。検証バックアップのデメリットは、CA ARCserve D2D がソース ディスク のすべてのブロックを前回バックアップしたブロックと比較する必要があるため、バックアップに時間がかかることです。

注: バックアップ ソースに新しいボリュームを追加する場合、どのバックアップ方式を選択した場合でも、新しく追加されたボリュームにはフル バックアップが実行されます。

3. 必要に応じて、バックアップ名を指定し、[OK]をクリックします。

注: バックアップ名を指定しない場合、デフォルトでは、「カスタマイズされたフル/増分/検証バックアップ」という名前が設定されます。

確認用ポップアップ画面が表示され、選択した種類のバックアップがただちに開始されます。



注: CA ARCserve D2D では、一度に 1 つのジョブのみを実行できます。手動で今すぐバックアップ ジョブを開始する際、すでに別のジョブが実行されている場合は、別のジョブが実行されているため、後でもう一度実行するよう求めるアラートメッセージが表示されます。

注: カスタム(アドホック)バックアップ ジョブが失敗してもメークアップ ジョブは作成されません。メークアップ ジョブが作成されるのは、スケジュールされたジョブが失敗したときのみです。



[今すぐバックアップを実行する](#)

Microsoft Hyper-V 環境での CA ARCserve D2D

Microsoft Hyper-V 環境では、CA ARCserve D2D はホスト レベルの保護および仮想マシン (VM) レベルの保護の両方を提供します。以下のシナリオでは、CA ARCserve D2D を使用して発生する可能性のある状況、および保護ソリューションについて説明します。

注: 各シナリオに適切なライセンスを適用していることを確認してください。

■ シナリオ 1 - Hyper-V ホスト サーバを保護する

1. Hyper-V ホスト サーバに CA ARCserve D2D をインストールします。
2. システムおよびブート ボリュームをバックアップすることを確認します (ボリュームフィルタを選択している場合)。
3. Hyper-V ホスト サーバに障害が発生した場合、Hyper-V ホスト サーバを復旧するには CA ARCserve D2D の通常のベア メタル復旧手順に従います。
4. 選択したファイルをリストアする場合、CA ARCserve D2D の通常のリストア手順を使用します。

■ シナリオ 2 - Hyper-V ホスト サーバおよびそのサーバ上にホストされている仮想マシンを保護する

1. Hyper-V ホスト サーバに CA ARCserve D2D をインストールします。
2. ホスト サーバと VM の両方を完全に保護するためにマシン全体をバックアップすることを確認します。
3. バックアップ ジョブをサブミットします。
4. CA ARCserve D2D バックアップから VM をリストアする場合、2 つの可能なソリューションがあります。

a. VM を元の場所にリストアする

- CA ARCserve D2D のリストア ウィンドウから、VM ファイル (「.vhd」、 「.avhd」、環境設定ファイルなど) を選択します。
- デスティネーションとして「元の場所にリストアする」を選択し、競合を解決するために「既存ファイルを上書きする」オプションを選択します。
- リストア ジョブをサブミットします。

注: リストア ジョブをサブミットする前に VM の電源をオフにすることをお勧めします。古いファイルがアクティブになっていると、リストア プロセスを完了するために Hyper-V ホスト サーバを再起動するまで CA ARCserve D2D によるファイルの上書きが実行されないためです。

- リストア ジョブが完了したら、Hyper-V マネージャを開いて VM を起動します。

- Hyper-V マネージャに VM がまだ登録されていない場合、新しい VM を作成し、それをリストアを実行したデスティネーションと同じパスに設定する必要があります。

b. VM を同じ Hyper-V ホスト サーバ上の別の場所にリストアする

- CA ARCserve D2D のリストア ウィンドウから、VM ファイル (「.vhd」、 「.avhd」、環境設定ファイルなど) を選択します。
- デスティネーションとして「別の場所にリストアする」を選択し、デスティネーション パスを指定します。
- リストア ジョブをサブミットします。
- リストア ジョブが完了したら、Hyper-V マネージャを開いて新しい VM を作成します。VM 作成中に、リストアを実行したデスティネーションと同じパスに VM の環境設定および VHD ファイルのパスを設定します。
- VM が作成されたら、VM を起動します。

注: Hyper-V 仮想マシンのリストアに関する詳細については、Microsoft の Hyper-V のドキュメントを参照してください。

■ シナリオ 3 - Hyper-V 仮想マシンを保護する

CA ARCserve D2D を使用して Hyper-V 仮想マシン (VM) を保護する場合、2 つの可能なソリューションがあります。

a. Hyper-V ホスト サーバに CA ARCserve D2D をインストールする

- CA ARCserve D2D のバックアップ設定を使用し、VM ファイル (「.vhd」、 「.avhd」、環境設定ファイルなど) があるボリュームを選択します。
- バックアップ ジョブをサブミットします。
- CA ARCserve D2D のバックアップから Hyper-V 仮想マシンをリストアするには、シナリオ 2 で提供されるリストア ソリューションのいずれかに従います。

b. Windows 仮想マシン内に CA ARCserve D2D をインストールする

物理マシンの場合と同様に、通常のバックアップおよびリストア手順に従って VM を保護します。

注: シナリオ 2 および 3a では、VM 内で iSCSI LUN を直接接続/マウントしていた場合、CA ARCserve D2D Hyper-V ホスト レベル バックアップを使用した LUN 内部のデータのバックアップは行われません。この制限を回避するには、シナリオ 3b のソリューション「Windows 仮想マシン内に CA ARCserve D2D をインストールする」と同じ方法を使用してください。

リストアの考慮事項

CA ARCserve D2D リストアを実行する前に、以下を考慮してください。

■ リモート デスティネーションへリストアする場合の考慮事項

ドライブ文字 (A - Z) がすべて使用済みである場合、リモート パスへのリストアは成功しません。これは、CA ARCserve D2D ではリモート デスティネーション パスをマウントするドライブ文字を 1 つ使用する必要があるためです。

■ Hyper-V サーバでのリストアの考慮事項

Hyper-V サーバ上では(適切な VM ライセンスを取得済みの場合でも)、VM の VHD ファイルを手動でリストアし、Hyper-V マネージャにそれらを再登録する必要があります。

注: VHD が登録された後、それらは Hyper-V マネージャに直接登録されません。既存の VM にそれらを接続するか、新しい VM を作成して、それらを接続します。

■ FILESTREAM データを持つ Microsoft SQL Server 2008 データベースのリストアの考慮事項

データベースおよび関連する FILESTREAM BLOB データは、いずれも自動的に CA ARCserve D2D によってバックアップされます。しかし、FILESTREAM BLOB データは、データベースと共に自動的にリストアされません。これは、FILESTREAM 機能が最新の SQL Server Writer によってまだサポートされていないからです。FILESTREAM BLOB データを持つ 1 つのデータベースがリストアされる場合、データベースをリストアするだけでは不十分であり、FILESTREAM BLOB データのフォルダもリストアすることが必要になっています。

注: FILESTREAM は Microsoft SQL Server 2008 で導入された機能で、これにより Binary Large Object (BLOB) データ (MP3、Word、Excel、PDF など) をデータベース ファイルではなく NTFS ファイル システムに格納することができます。

リストア方式

リストア ジョブを正しく実行するには、必要なデータを迅速に識別し、適切なバックアップ メディアからそのデータを取り出すことが重要なポイントとなります。CA ARCserve D2D では、バックアップしたデータを識別して特定し、リストアする 2 つの方法を用意しています。

データのリストア

1. CA ARCserve D2D ホーム ページ(またはシステム トレイ モニタ)から、[リストア] を選択します。

リストア方式を選択するダイアログ ボックスが表示されます。



2. 実行するリストア方式を選択します。

使用可能なオプションは「復旧ポイントの参照」および「リストアするファイル/フォルダの検索」です。

注：アプリケーションをリストアする場合は、[復旧ポイントの参照]を使用する必要があります。

復旧ポイントの参照

カレンダー表示から、利用可能な復旧ポイント(正常に完了したバックアップ)を参照できます。有効な復旧ポイントが含まれているカレンダーの日付は、緑色で強調表示されます。復旧する日付を選択すると、その日付に関連付けられた復旧ポイントがすべて表示されます。それから、リストアするバックアップ コンテンツ(アプリケーションを含む)を参照して選択できます。詳細については、「[復旧ポイントによるリストア](#) (78 ページ)」を参照してください。

リストアするファイル/フォルダの検索

リストア対象として特定の場所にあるファイル名のパターンやファイル バージョンを検索できます。詳細については、「[ファイル/フォルダの検索によるリストア](#) (83 ページ)」を参照してください。

リストア ボックス

どのリストア方式を選択した場合でも、リストアする特定のボリューム、フォルダ、またはファイルに移動すると、リストア ウィンドウに表示される各オブジェクトの左側に、ボックスと呼ばれる緑色または灰色のボックスが表示されます。これらのボックスは、オブジェクトがリストア対象として選択されているかどうかを視覚的に示しています。

緑色のボックス

オブジェクトのリストア範囲を直接コントロールできます。ボックスをクリックすると、リストア対象からオブジェクトを除外したり、リストア対象をオブジェクトの全体または一部にするかを指定できます。ボックスをクリックし、ボックス内の色を付けたり消したりすることで、リストアの範囲を指定します。

灰色のボックス

このボックスは、実在しないオブジェクトまたはリストアできないオブジェクトに関連付けられています。通常、このような項目はプレースホルダとして存在し、この下に他のオブジェクトがグループ化されて表示されます。灰色のボックスの下にある緑色のボックスをクリックすると、リストアの対象として選択したファイルの割合に応じて、自動的に灰色のボックスが部分的にまたは全体的に塗りつぶされます。

ボックスの設定とそれに対応するリストア レベルを、以下の表に示します。

ボックス	環境設定	説明
	全体が塗りつぶされている	フル リストア
	部分的に塗りつぶされている	部分的にリストア
	塗りつぶされていない	リストアしない

注：灰色のボックスの設定は、緑色のボックスの設定と同じパターンに従っており、リストア対象として選択したファイルの割合が反映されます。

ディレクトリ ツリーで上位階層にあるボックスの塗りつぶしの割合は、下位階層にあるオブジェクトのボックスの塗りつぶしの割合によって決まります。

- 下位階層のボックスが完全に塗りつぶされた場合、上位階層のボックスも完全に塗りつぶされた状態になります。
- 下位階層のボックスに完全に塗りつぶされたものと部分的に塗りつぶされたものが混じっている場合、上位階層のボックスは部分的に塗りつぶされた状態になります。

上位階層のボックスをクリックして完全に塗りつぶすと、すべての下位階層のボックスも自動的に完全に塗りつぶされます。

復旧ポイントによるリストア

CA ARCserve D2D によってバックアップが正常に実行されるたびに、バックアップの Point-in-Time スナップショット イメージも作成されます。この復旧ポイントの集合体によって、リストアする必要があるバックアップ イメージを正確に特定して、指定できます。

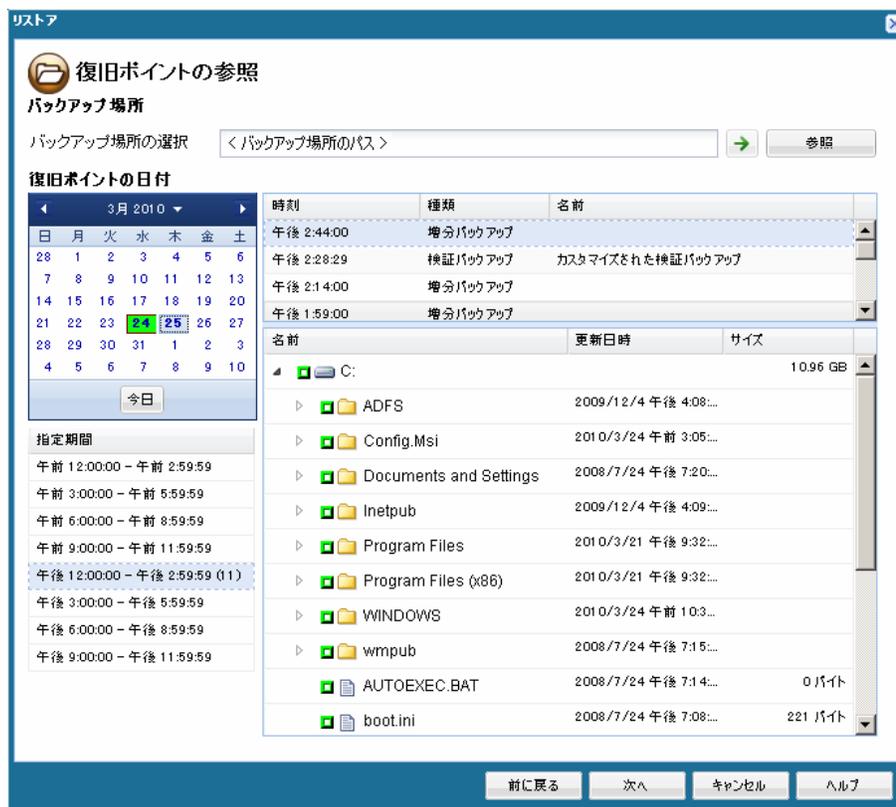
復旧ポイントからのリストア

1. CA ARCserve D2D ホーム ページ(またはシステム トレイ モニタ)から、[リストア] を選択します。

リストア方式を選択するダイアログ ボックスが表示されます。

2. [復旧ポイントの参照] オプションをクリックします。

[復旧ポイントの参照] ダイアログ ボックスが表示されます。



3. バックアップ ソースを指定します。バックアップ イメージが保存されている場所を指定するか、参照して指定します。必要に応じて、その場所にアクセスするための [ユーザ名] および [パスワード] 認証情報を入力します。緑色の矢印で表示される検証アイコンをクリックすると、ソースの場所に正常にアクセスできるかどうかを検証します。

カレンダー表示では、表示期間にバックアップ ソースの復旧ポイントを含むすべての日付が(緑色で)強調表示されます。

4. リストアする情報を指定します。
 - a. カレンダーで、リストアするバックアップ イメージの日付を選択します。

その日付に対応する復旧ポイントが、バックアップの時刻、実行されたバックアップの種類、およびバックアップの名前と共に表示されます。
 - b. リストアする復旧ポイントを選択します。

その復旧ポイントに対応するバックアップ コンテンツ(すべてのアプリケーションを含む)が表示されます。
 - c. リストアするコンテンツを選択します。
 - ボリューム レベルのリストアの場合、ボリューム全体をリストアするか、ボリューム内のファイル/フォルダを選択してリストアするかを指定できます。
 - アプリケーション レベルのリストアの場合、アプリケーション全体をリストアするか、アプリケーション内のコンポーネント、データベース、インスタンスなどを選択してリストアするかを指定できます。
5. リストアするバックアップ情報を指定したら、[次へ]をクリックします。

[リストア オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。

リストア

リストア オプション

デスティネーション
リストア先を選択します。

元の場所にリストアする

別の場所にリストアする

競合の解決
CA ARCserve D2D での競合ファイルの解決方法を指定します。

既存ファイルを上書きする
 アクティブ ファイルを置換する

ファイル名を変更する

既存ファイルをスキップする

ディレクトリ構造
リストア中にルート ディレクトリを作成するかどうかを指定します。

ルート ディレクトリを作成する

前に戻る 次へ キャンセル ヘルプ

6. リストア先を選択します。

使用可能なオプションは、「元の場所にリストアする」または「別の場所にリストアする」です。

元の場所にリストアする

バックアップ イメージがキャプチャされた元の場所にリストアします。

注： CA ARCserve D2D のログ フォルダを元の場所にリストアする場合、ログフォルダにあるファイルはスキップされます。

別の場所にリストアする

場所を指定するか、バックアップ イメージをリストアする場所を参照します。緑色の矢印アイコン ボタンをクリックすると、指定した場所への接続を検証できます。

必要に応じて、その場所にアクセスするための[ユーザ名]および[パスワード]認証情報を入力します。

7. リストア プロセス中に発生した競合を解決する際に CA ARCserve D2D によって実行する処理を選択します。

使用可能なオプションは、「既存ファイルを上書き」または「アクティブ ファイルを置換」です。

既存ファイルを上書きする

リストア先で検出された既存ファイルを上書き(置き換え)します。すべてのオブジェクトが、マシン上に現在存在しているかどうかにかかわらず、バックアップファイルからリストアされます。

アクティブ ファイルを置換する

再起動の際にアクティブ ファイルを置換します。リストア試行時に、既存ファイルが使用中またはアクセス中であることが CA ARCserve D2D によって検出された場合、ファイルはすぐには置換されません。問題の発生を避けるために、次回マシンが再起動されるまで、アクティブ ファイルの置換は延期されます (リストアはすぐに実行されますが、アクティブ ファイルの置換は次の再起動中に完了します)。

注： このオプションが選択されていない場合、アクティブ ファイルはリストアからスキップされます。

ファイル名を変更する

ファイル名がすでに存在する場合、新規ファイルを作成します。このオプションを選択すると、ファイル名は変えず、拡張子を変更してソース ファイルをデスティネーションにコピーします。その後、データは新規ファイルにリストアされます。

既存ファイルをスキップする

リストア先で検出された既存ファイルを上書き(置き換え)せず、スキップします。現在マシン上に存在しないオブジェクトのみがバックアップ ファイルからリストアされます。

デフォルトでは、この機能はオンになっています。

8. リストア プロセス中に CA ARCserve D2D によってディレクトリ構造に実行する処理や実行しない処理を選択します。

ルート ディレクトリを作成する

これを選択すると、キャプチャされたバックアップ イメージ内にルート ディレクトリ構造が存在する場合、CA ARCserve D2D によって、リストア先のパス上に同じルート ディレクトリ構造が再作成されます。

[ルート ディレクトリを作成する]オプションが選択されない場合(チェック ボックスをオフにした場合)、リストアされるファイル/フォルダはリストア先のフォルダに直接リストアされます。

たとえば、バックアップ中にファイル「C:¥Folder1¥SubFolder2¥A.txt」および「C:¥Folder1¥SubFolder2¥B.txt」がキャプチャされ、リストア時にリストア先を「D:¥Restore」として指定したとします。

- ファイル「A.txt」および「B.txt」を個々にリストアするよう選択した場合、リストアされるファイルのリストア先は「D:¥Restore¥A.txt」および「D:¥Restore¥B.txt」になります(指定されたファイル レベルより上のルート ディレクトリは再作成されません)。
- 「SubFolder2」レベルからリストアするよう選択した場合、リストアされるファイルのリストア先は「D:¥Restore¥SubFolder2¥A.txt」および「D:¥Restore¥SubFolder2¥B.txt」になります(指定されたファイル レベルより上のルート ディレクトリは再作成されません)。

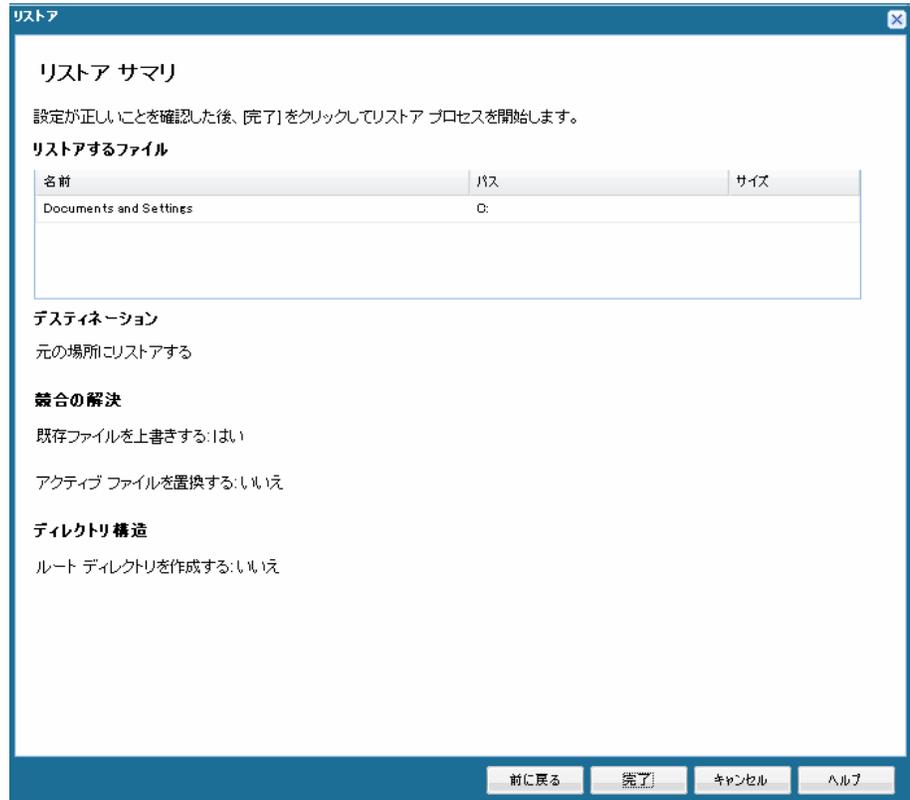
[ルート ディレクトリを作成する]オプションが選択された場合(チェック ボックスをオンにした場合)、ファイル/フォルダのルート ディレクトリ パス全体(ボリューム名を含む)が、リストア先のフォルダに再作成されます。リストア対象のファイル/フォルダが、同一ボリューム名からリストアされる場合は、リストア先のルート ディレクトリ パスにそのボリューム名は含まれません。ただし、リストア対象のファイル/フォルダが、異なるボリューム名からリストアされる場合は、リストア先のルート ディレクトリ パスにボリューム名が含まれます。

たとえば、バックアップ中にファイル「C:\Folder1\SubFolder2\A.txt」、
「C:\Folder1\SubFolder2\B.txt」、および「E:\Folder3\SubFolder4\C.txt」が
キャプチャされ、リストア時にリストア先を「D:\Restore」として指定したとします。

- 「A.txt」ファイルのみをリストアするよう選択した場合、リストアされるファイルのリストア先は「D:\Restore\Folder1\SubFolder2\A.txt」になります(ルート ディレクトリ構造が、ボリューム名なしで再作成されます)。
- 「A.txt」と「C.txt」の両方のファイルをリストアするよう選択した場合、リストアされるファイルのリストア先は「D:\Restore\C\Folder1\SubFolder2\A.txt」および「D:\Restore\E\Folder3\SubFolder4\C.txt」になります(ルート ディレクトリ構造が、ボリューム名付きで再作成されます)。

9. リストア オプションを選択したら、[次へ]ボタンをクリックします。

[リストア サマリ]ダイアログ ボックスが表示されます。



10. 表示された情報に目を通し、リストア オプションおよび設定がすべて正しいことを確認します。
 - サマリ情報が正しくない場合は、[前に戻る]をクリックし、該当するダイアログボックスに戻って、正しくない設定を変更します。
 - サマリ情報が正しい場合は、[完了]ボタンをクリックし、リストア プロセスを開始します。



ビデオ

[復旧ポイントからのリストア](#)

ファイル/フォルダの検索によるリストア

CA ARCserve D2D によってバックアップが正常に実行されるたびに、バックアップされたすべてのファイル/フォルダがバックアップのスナップショット イメージに含まれます。このリストア方式によって、リストアするファイル/フォルダを正確に指定できます。

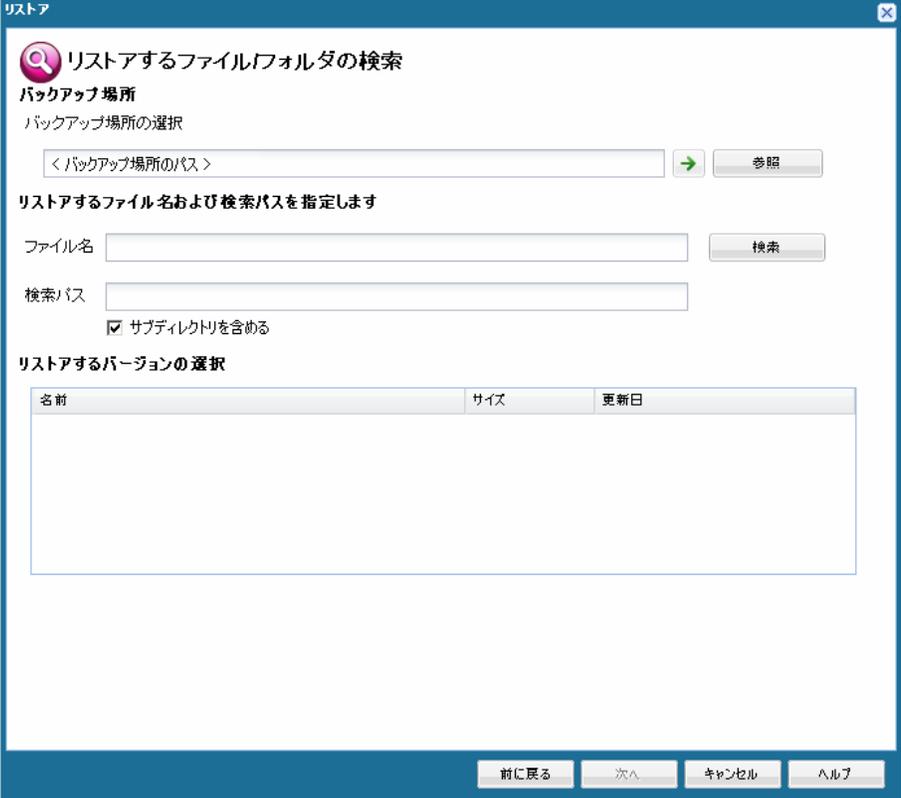
ファイル/フォルダの検索によるリストア

1. CA ARCserve D2D ホーム ページ(またはシステム トレイ モニタ)から、[リストア]を選択します。

リストア方式を選択するダイアログ ボックスが表示されます。

2. [リストアするファイル/フォルダの検索]オプションをクリックします。

[リストアするファイル/フォルダの検索]ダイアログ ボックスが表示されます。



3. バックアップ ソースを指定します。バックアップ イメージが保存されている場所を指定するか、参照して指定します。必要に応じて、その場所にアクセスするための [ユーザ名] および [パスワード] 認証情報を入力します。緑色の矢印で表示される検証アイコンをクリックすると、ソースの場所に正常にアクセスできるかどうかを検証します。
4. リストアするファイル名またはフォルダ名を指定します。

注: [ファイル名] フィールドは、完全一致検索およびワイルドカード検索をサポートしています。完全なファイル名がわからない場合、ワイルドカード文字「*」や「?」を [ファイル名] フィールドに入力して、検索結果を簡単にすることができます。

ファイル名やフォルダ名向けにサポートされているワイルドカード文字は以下のとおりです。

- 「*」 -- アスタリスクは、ファイル名またはフォルダ名の 0 個以上の文字を表します。
- 「?」 -- 疑問符は、ファイル名またはディレクトリ名の 1 個の文字を表します。

たとえば、「*.txt」と入力すると、.txt ファイル拡張子が付いたすべてのファイルが検索結果に表示されます。

- 必要に応じて、パスを入力し、検索にさらにフィルタをかけたり、サブディレクトリを含めるかどうかを選択したりできます。
- [検索]ボタンをクリックして、検索を開始します。

検索結果が表示されます。検索によって、同一ファイルが複数存在する(復旧ポイントが複数ある)ことが検出された場合は、すべての存在が日付順に並べ替えられて(最も最近のものがリストの最初に)表示されます。

- リストアするバックアップ情報を指定したら、[次へ]をクリックします。

[リストア オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。

リストア

リストア オプション

デスティネーション
リストア先を選択します。

元の場所にリストアする

別の場所にリストアする

競合の解決
CA ARCserve D2D での競合ファイルの解決方法を指定します。

既存ファイルを上書きする
 アクティブ ファイルを置換する

ファイル名を変更する

既存ファイルをスキップする

ディレクトリ構造
リストア中にルート ディレクトリを作成するかどうかを指定します。

ルート ディレクトリを作成する

前に戻る 次へ キャンセル ヘルプ

8. リストア先を選択します。

使用可能なオプションは、「元の場所にリストアする」または「別の場所にリストアする」です。

元の場所にリストアする

バックアップ イメージがキャプチャされた元の場所にリストアします。

注： CA ARCserve D2D のログ フォルダを元の場所にリストアする場合、ログフォルダにあるファイルはスキップされます。

別の場所にリストアする

場所を指定するか、バックアップ イメージをリストアする場所を参照します。緑色の矢印アイコン ボタンをクリックすると、指定した場所への接続を検証できます。

必要に応じて、その場所にアクセスするための[ユーザ名]および[パスワード]認証情報を入力します。

9. リストア プロセス中に発生した競合を解決する際に CA ARCserve D2D によって実行する処理を選択します。

使用可能なオプションは、「既存ファイルを上書き」または「アクティブ ファイルを置換」です。

既存ファイルを上書きする

リストア先で検出された既存ファイルを上書き(置き換え)します。すべてのオブジェクトが、マシン上に現在存在しているかどうかにかかわらず、バックアップファイルからリストアされます。

アクティブ ファイルを置換する

再起動の際にアクティブ ファイルを置換します。リストア試行時に、既存ファイルが使用中またはアクセス中であることが CA ARCserve D2D によって検出された場合、ファイルはすぐには置換されません。問題の発生を避けるために、次回マシンが再起動されるまで、アクティブ ファイルの置換は延期されます(リストアはすぐに実行されますが、アクティブ ファイルの置換は次の再起動中に完了します)。

注：このオプションが選択されていない場合、アクティブ ファイルはリストアからスキップされます。

ファイル名を変更する

ファイル名がすでに存在する場合、新規ファイルを作成します。このオプションを選択すると、ファイル名は変えず、拡張子を変更してソース ファイルをデスティネーションにコピーします。その後、データは新規ファイルにリストアされます。

既存ファイルをスキップする

リストア先で検出された既存ファイルを上書き(置き換え)せず、スキップします。現在マシン上に存在しないオブジェクトのみがバックアップ ファイルからリストアされます。

デフォルトでは、この機能はオンになっています。

10. リストア プロセス中に CA ARCserve D2D によってディレクトリ構造に実行する処理や実行しない処理を選択します。

ルート ディレクトリを作成する

これを選択すると、キャプチャされたバックアップ イメージ内にルート ディレクトリ構造が存在する場合、CA ARCserve D2D によって、リストア先のパス上に同じルート ディレクトリ構造が再作成されます。

[ルート ディレクトリを作成する]オプションが選択されない場合(チェック ボックスをオフにした場合)、リストアされるファイル/フォルダはリストア先のフォルダに直接リストアされます。

たとえば、バックアップ中にファイル「C:¥Folder1¥SubFolder2¥A.txt」および「C:¥Folder1¥SubFolder2¥B.txt」がキャプチャされ、リストア時にリストア先を「D:¥Restore」として指定したとします。

- ファイル「A.txt」および「B.txt」を個々にリストアするよう選択した場合、リストアされるファイルのリストア先は「D:¥Restore¥A.txt」および「D:¥Restore¥B.txt」になります(指定されたファイル レベルより上のルート ディレクトリは再作成されません)。
- 「SubFolder2」レベルからリストアするよう選択した場合、リストアされるファイルのリストア先は「D:¥Restore¥SubFolder2¥A.txt」および「D:¥Restore¥SubFolder2¥B.txt」になります(指定されたファイル レベルより上のルート ディレクトリは再作成されません)。

[ルート ディレクトリを作成する]オプションが選択された場合(チェック ボックスをオンにした場合)、ファイル/フォルダのルート ディレクトリ パス全体(ボリューム名を含む)が、リストア先のフォルダに再作成されます。リストア対象のファイル/フォルダが、同一ボリューム名からリストアされる場合は、リストア先のルート ディレクトリ パスにそのボリューム名は含まれません。ただし、リストア対象のファイル/フォルダが、異なるボリューム名からリストアされる場合は、リストア先のルート ディレクトリ パスにボリューム名が含まれます。

たとえば、バックアップ中にファイル「C:¥Folder1¥SubFolder2¥A.txt」、
「C:¥Folder1¥SubFolder2¥B.txt」、および「E:¥Folder3¥SubFolder4¥C.txt」が
キャプチャされ、リストア時にリストア先を「D:¥Restore」として指定したとします。

- 「A.txt」ファイルのみをリストアするよう選択した場合、リストアされるファイルのリストア先は「D:¥Restore¥ Folder1¥SubFolder2¥A.txt」になります(ルート ディレクトリ構造が、ボリューム名なしで再作成されます)。
- 「A.txt」と「C.txt」の両方のファイルをリストアするよう選択した場合、リストアされるファイルのリストア先は「D:¥Restore¥C¥Folder1¥SubFolder2¥A.txt」および「D:¥Restore¥E¥Folder3¥SubFolder4¥C.txt」になります(ルート ディレクトリ構造が、ボリューム名付きで再作成されます)。

11. リストア オプションを選択したら、[次へ]ボタンをクリックします。

[リストア サマリ]ダイアログ ボックスが表示されます。



12. 表示された情報に目を通し、リストア オプションおよび設定がすべて正しいことを確認します。
 - サマリ情報が正しくない場合は、[前に戻る]をクリックし、該当するダイアログボックスに戻って、正しくない設定を変更します。
 - サマリ情報が正しい場合は、[完了]ボタンをクリックし、リストア プロセスを開始します。



[ファイル/フォルダの検索によるリストア](#)

アプリケーションのリストア

CA ARCserve D2D では、データの保護や回復を行うだけでなく、そのデータを使用するアプリケーションのバックアップや実行をサポートします。すべてのアプリケーションの回復は、復旧ポイントによるリストア方式を使用して実行されます。アプリケーションの回復の実行中、CA ARCserve D2D は Windows ボリューム シャドウ コピー サービス (VSS) を利用して、VSS に対応したアプリケーションのデータ整合性を保ちます。CA ARCserve D2D を使用すると、完全な惨事復旧を実行せずに、以下のアプリケーションを回復できます。

- [Microsoft Exchange Server](#) (90 ページ)
- [Microsoft SQL Server](#) (96 ページ)

アプリケーションのリストア - MS Exchange Server

CA ARCserve D2D では、データの保護や回復を行うだけでなく、そのデータを使用する Microsoft Exchange Server アプリケーションのバックアップや実行をサポートします。Microsoft Exchange Server を復旧するには、「復旧ポイントによるリストア」方式を使用する必要があります。

CA ARCserve D2D では、Microsoft Exchange Server の以下のバージョンがサポートされています。

- **Exchange 2003** - シングル サーバ環境。
- **Exchange 2007** - シングル サーバ環境、ローカル連続レプリケーション(LCR)、クラスタ連続レプリケーション(CCR) 環境。

Exchange 2007 CCR 環境の場合、CA ARCserve D2D は、Microsoft クラスタのアクティブ ノードおよびパッシブ ノードの両方にインストールする必要があります。バックアップはアクティブ ノードおよびパッシブ ノードから実行できますが、リストアはアクティブ ノードに対してのみ実行できます。

- **Exchange 2010** - シングル サーバ環境およびデータベース可用性グループ(DAG) 環境。

Exchange 2010 DAG 環境の場合、CA ARCserve D2D は DAG グループ内のすべてのメンバ サーバにインストールする必要があります。バックアップは、アクティブおよびパッシブの両方のデータベース コピーに対して、すべてのメンバサーバから実行できます。しかし、リストアはアクティブなデータベース コピーに対してのみ実行できます。

注: Microsoft Exchange Server 2003 クラスタ環境および Microsoft Exchange Server 2007 シングル コピー クラスタ(SCC) 環境は、CA ARCserve D2D ではサポートされていません。

Microsoft Exchange Server は以下のレベルでリストアできます。

Microsoft Exchange ライタ レベル

すべての Microsoft Exchange Server データをリストアする場合は、Microsoft Exchange Writer レベルでリストアを実行できます。

ストレージ グループ レベル

特定のストレージ グループをリストアする場合は、Microsoft Exchange ストレージグループ レベルでリストアを実行できます

(Microsoft Exchange Server 2010 には適用されません。)

メールボックス ストア レベル (Exchange 2003)

特定のメールボックス ストアをリストアする場合、メールボックス ストア レベルでリストアを実行できます。

メールボックス データベース レベル(Exchange 2007/2010)

特定のメールボックス データベースをリストアする場合、メールボックス データベース レベルでリストアを実行できます。

Microsoft Exchange Server アプリケーションのリストア

注: Microsoft Exchange Server データベース リストアを実行する場合 (元の場所または回復用ストレージ グループ/回復用データベースのいずれかに対して)、アカウントが以下の管理者権限を持っていることも確認する必要があります。

- Exchange 2003 - Exchange 管理者 (完全) の役割
- Exchange 2007/2010 - Exchange 組織管理者、または Exchange Server 管理者の役割

1. CA ARCserve D2D ホーム ページ (またはシステム トレイ モニタ) から、[リストア] を選択します。

リストア方式を選択するダイアログ ボックスが表示されます。

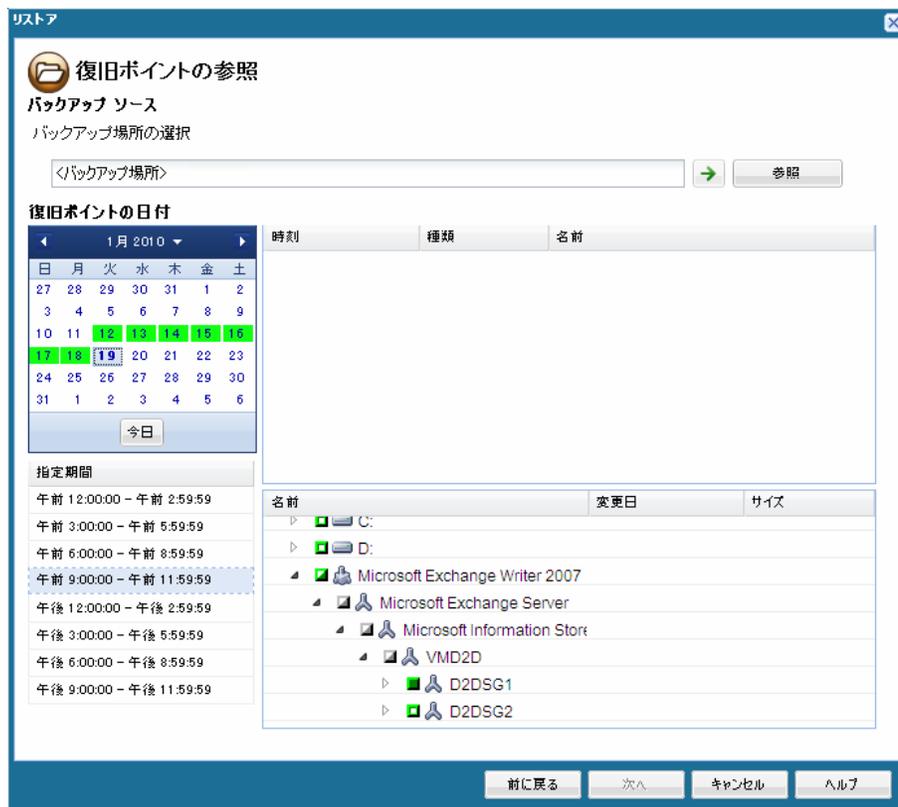
2. [復旧ポイントの参照] オプションをクリックします。

[復旧ポイントの参照] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. 復旧ポイント(日付と時間)を選択した後、リストアする Microsoft Exchange データベースを選択します。

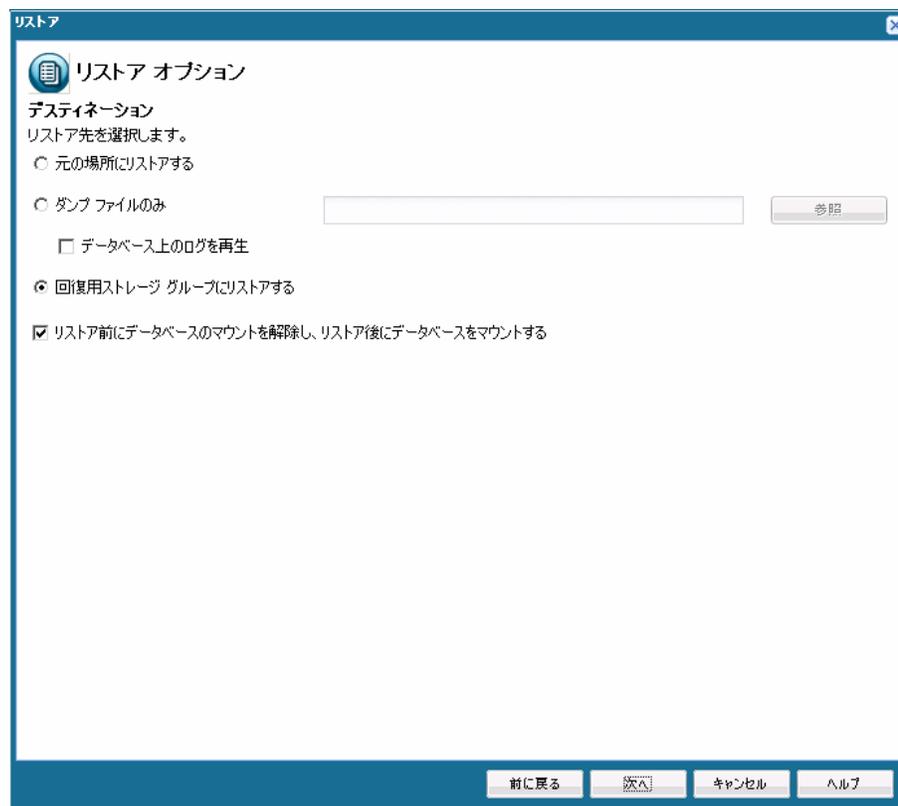
対応するボックスが緑色に塗りつぶされます。これは、データベースがリストア対象として選択されたことを示しています。

注: リストア後にトランザクション ログ ファイルが適用されないようには、リストアが実行される前に手動で削除する必要があります。トランザクション ログ ファイルの手動での削除の詳細については、Microsoft Exchange Server のドキュメントを参照してください。



4. [次へ]をクリックします。

[リストア オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。



5. リストア先を選択します。

利用可能なオプションは、[元の場所にリストアする]、[ダンプ ファイルのみ]、[回復用ストレージ グループにリストアする]、[回復用メールボックス データベースにリストアする]です。

元の場所にリストアする

バックアップ イメージがキャプチャされた元の場所にリストアします。

注: CA ARCserve D2D のログ フォルダを元の場所にリストアする場合、ログ フォルダにあるファイルはスキップされます。

ダンプ ファイルのみ

ダンプ ファイルのみをリストアします。

ダンプ ファイルは、アプリケーションがクラッシュした場合に作成されます。このファイルには、問題の原因をトラブルシューティングするために使用できる追加情報 (タイム スタンプ付き) が含まれます。

注: 回復用メールボックス データベースが存在する場合、「ダンプ ファイルのみ」オプションを使用したリストアは失敗します。

データベース上のログを再生

データベース ファイルをデスティネーション フォルダにダンプする際に、すべての Exchange トランザクション ログ ファイルの再生および適用を行い、それらをデータベースにコミットするように指定できます。次回データベースを起動すると、データベースが利用可能になる前に、データベースにまだ書き込まれていないログ ファイルが適用されます。

注：このオプションは Microsoft Exchange Server 2003 では適用されません。

回復用ストレージ グループにリストアする(Exchange 2007)

回復用ストレージ データベースにリストアする(Exchange 2010)

回復用ストレージ グループ (RSG) または回復用データベースにデータベースをリストアします。

RSG は、回復用に使用できるストレージ グループです。回復用ストレージ グループでは、バックアップから Exchange メールボックス データベースをリストアし、そこからデータを抽出して回復することができます。その際、エンドユーザがアクセスしている実稼働データベースに影響を及ぼすことはありません。

- 1 つのストレージ グループ、または同じストレージ グループのデータベース (パブリック フォルダ データベース以外) がリストアに選択された場合、デフォルトのリストア デスティネーションは、[回復用ストレージ グループにリストアする] (または [回復用データベースにリストアする]) です。
- 複数のストレージ グループ、または複数のストレージ グループのデータベースがリストアに選択された場合、Exchange は元の場所にリストアするか、または [ダンプ ファイルのみ] オプションでリストアする必要があります。デフォルトのリストア デスティネーションは [元の場所にリストアする] です。

Exchange 2007 データベースを回復用ストレージ グループにリストアするには、回復用ストレージ グループ、および同じ名前のメールボックス データベースを作成しておく必要があります。

たとえば、第 1 ストレージ グループから MailboxDatabase1 を回復用ストレージ グループにリストアする場合、回復用ストレージ グループを作成し、データベース「MailboxDatabase1」をその回復用ストレージ グループに追加する必要があります。

注：このオプションは Microsoft Exchange Server 2003 では適用されません。

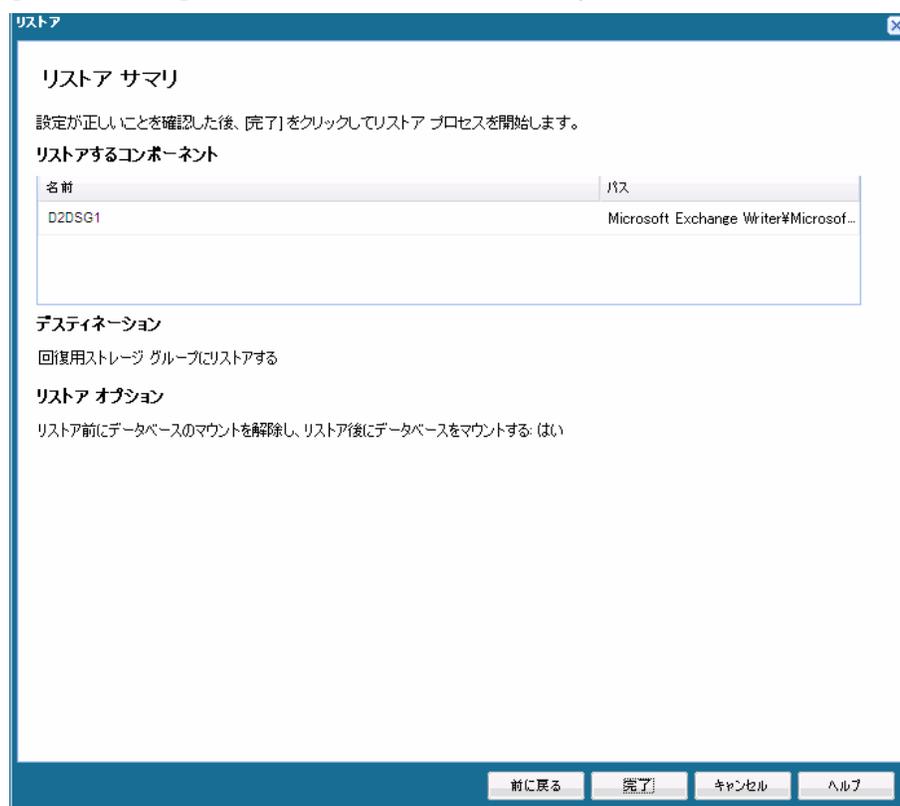
リストア前にデータベースのマウントを解除し、リストア後にデータベースをマウントする

オンに設定した場合、回復処理によってリストアの実行前に自動的に Exchange データベースがマウント解除され、リストアが完了した後マウントされます。

オフに設定した場合、回復処理で回復前に自動的にデータベースをマウント解除し、回復後にデータベースをマウントすることはしません。必要な場合には、これらのタスクを手動で実行できます。

6. [次へ]をクリックします。

[リストア サマリ]ダイアログ ボックスが表示されます。



7. 表示された情報に目を通し、リストア オプションおよび設定がすべて正しいことを確認します。
 - サマリ情報が正しくない場合は、[前に戻る]をクリックし、該当するダイアログ ボックスに戻って、正しくない設定を変更します。
 - サマリ情報が正しい場合は、[完了]ボタンをクリックし、リストア プロセスを開始します。

アプリケーションのリストア - MS SQL Server

CA ARCserve D2D では、データの保護や回復を行うだけでなく、そのデータを使用する Microsoft SQL Server アプリケーションのバックアップや実行をサポートします。Microsoft SQL Server を回復するには、「復旧ポイントによるリストア」方式を使用する必要があります。

Microsoft SQL Server アプリケーションのリストア

1. CA ARCserve D2D ホーム ページ(またはシステム トレイ モニタ)から、[リストア] を選択します。

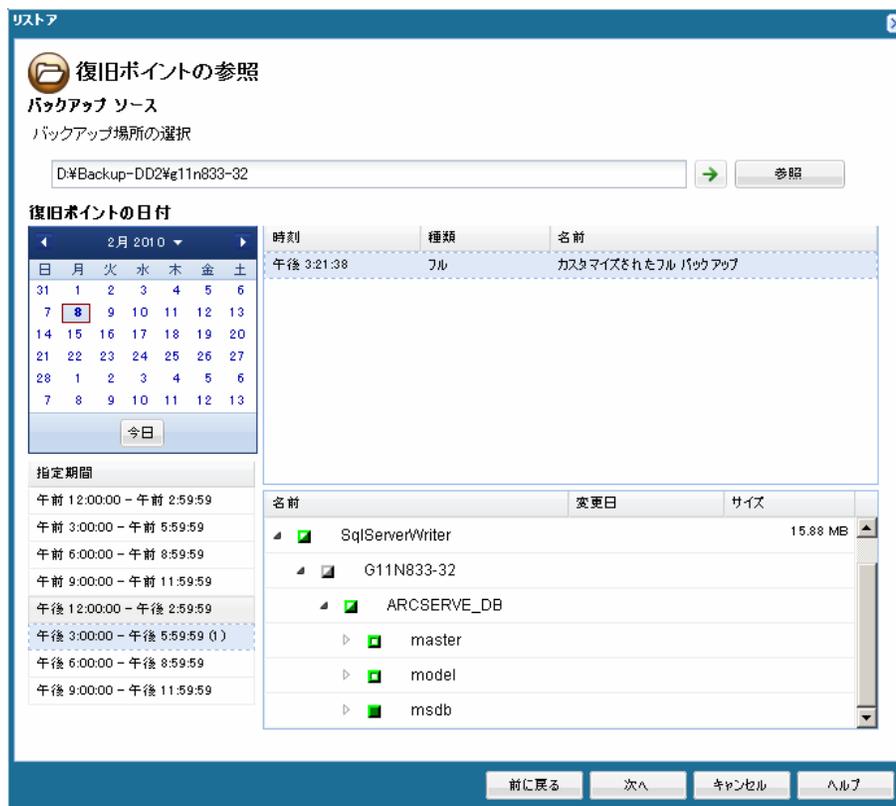
リストア方式を選択するダイアログ ボックスが表示されます。

2. [復旧ポイントの参照]オプションをクリックします。

[復旧ポイントの参照]ダイアログ ボックスが表示されます。

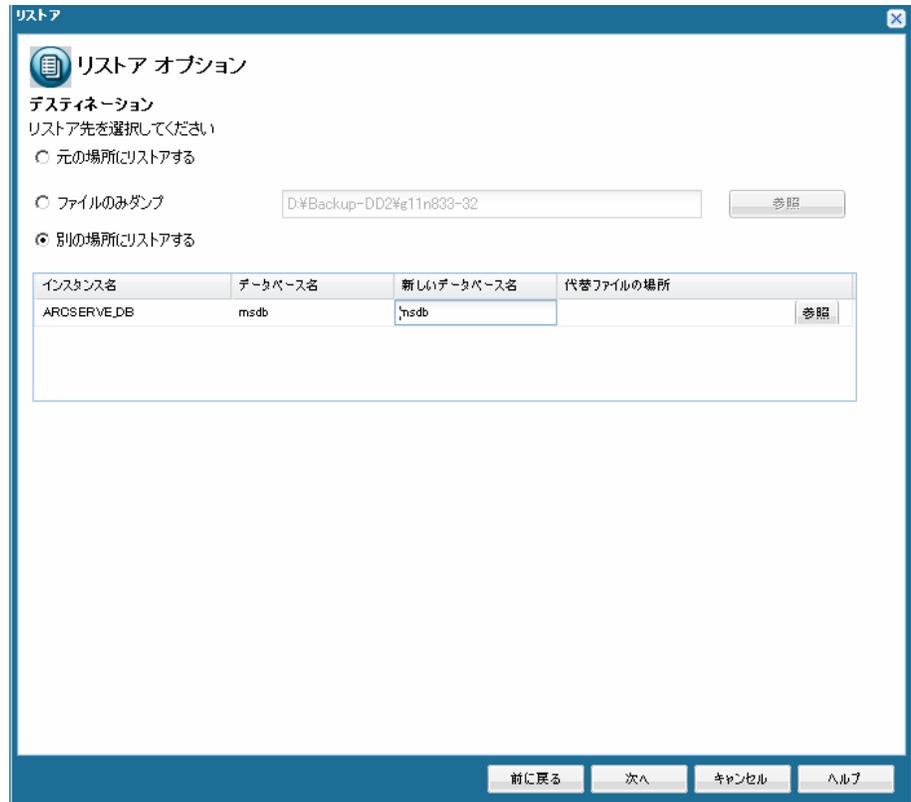
3. 復旧ポイント(日付と時間)を選択した後、リストアする Microsoft SQL Server データベースを選択します。

対応するボックスが緑色に塗りつぶされます。これは、データベースがリストア対象として選択されたことを示しています。リストア対象として、1 つまたは複数のデータベースを選択できます。



4. [次へ]をクリックします。

[リストア オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。



5. リストア先を選択します。

利用可能なオプションは、[元の場所へリストアする]、[ダンプ ファイルのみ]、[別の場所へリストアする]です。

元の場所へリストアする

バックアップ イメージがキャプチャされた元の場所へリストアします。

注: CA ARCserve D2D のログ フォルダを元の場所へリストアする場合、ログ フォルダにあるファイルはスキップされます。

ダンプ ファイルのみ

ダンプ ファイルのみをリストアします。

ダンプ ファイルは、アプリケーションがクラッシュした場合に作成されます。このファイルには、問題の原因をトラブルシューティングするために使用できる追加情報 (タイム スタンプ付き) が含まれます。

このオプションを選択すると、ダンプ ファイルのリストア先となるフォルダを指定するか、参照して選択できます。

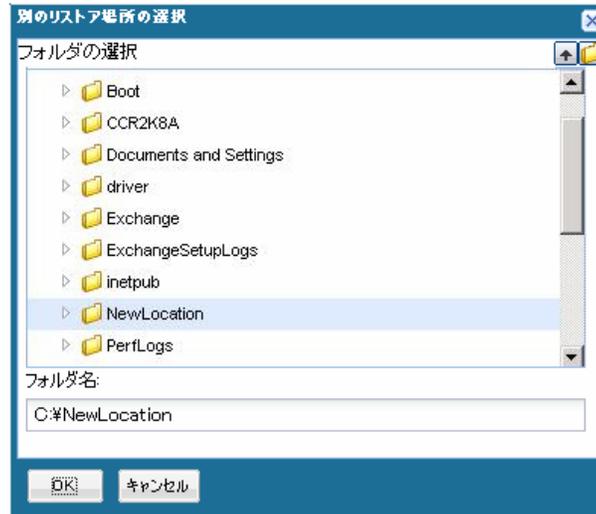


別の場所にリストアする

元の場所以外の別の場所にリストアします。

インスタンス名	データベース名	新しいデータベース名	代替ファイルの場所
MSSQLSERVER	LogShippingDatabase	LogShippingDatabase	C:\NewDBLocation 参照
MSSQLSERVER	MirrorDatabase001	NewDatabaseName	

バックアップはネットワーク上の場所にコピーできるので、複数の SQL サーバ インスタンスでバックアップを使用できます。複数のデータベースのリストアは、インスタンス レベルで(同時に)実行できます。このリストからデータベース インスタンスを選択し、新しいデータベース名およびデータベースのリストア先となる別の場所を指定できます。また、データベースのリストア先となる別の場所を参照することもできます。



6. [次へ]をクリックします。
[リストア サマリ]ダイアログ ボックスが表示されます。
7. 表示された情報に目を通し、リストア オプションおよび設定がすべて正しいことを確認します。
 - サマリ情報が正しくない場合は、[前に戻る]をクリックし、該当するダイアログ ボックスに戻って、正しくない設定を変更します。
 - サマリ情報が正しい場合は、[完了]ボタンをクリックし、リストア プロセスを開始します。

復旧ポイントのエクスポート

CA ARCserve D2D によってバックアップが正常に実行されるたびに、バックアップの Point-in-Time スナップショット イメージも作成されます。この復旧ポイントの集合体によって、コピーする必要があるバックアップ イメージを正確に特定して、指定できます。致命的な惨事に備えて復旧ポイント情報をコピー/エクスポートしてオフサイトに安全に格納したり、複数の場所に復旧ポイントを保存する必要があることがあります。あるいは、バックアップ先がいっぱいになったが、すべての復旧ポイントを残しておきたいために、バックアップを統合する必要があることもあります。コピー/エクスポートする復旧ポイントを選択すると、指定した時点で作成されたバックアップ ブロックだけでなく、最新のフル バックアップ イメージを再作成するのに必要な以前のバックアップ ブロックすべてがキャプチャされます。

注: このタスクは、CA ARCserve D2D UI からのみ利用できます。システム 트레이 モニタからは利用できません。

復旧ポイントのエクスポート

1. CA ARCserve D2D ホーム ページから、[復旧ポイントのエクスポート]を選択します。

[復旧ポイントのエクスポート]ダイアログ ボックスが表示されます。



2. バックアップ ソースを指定します。バックアップ イメージが保存されている場所を指定するか、参照して指定します。緑色の矢印アイコン ボタンをクリックすると、指定した場所への接続を検証できます。必要に応じて、その場所にアクセスするための[ユーザ名]および[パスワード]認証情報を入力します。

カレンダー表示では、表示期間にバックアップ ソースの復旧ポイントを含むすべての日付が(緑色で)強調表示されます。

3. エクスポートする復旧ポイントを指定します。
 - a. カレンダーで、エクスポートするバックアップ イメージの日付を選択します。

その日付に対応する復旧ポイントが、バックアップの時刻、実行されたバックアップの種類、およびバックアップの名前と共に表示されます。
 - b. エクスポートする復旧ポイントを選択します。

その復旧ポイントに対応するバックアップ コンテンツ(すべてのアプリケーションを含む)が表示されます。
4. エクスポート オプションを指定します。

- a. デスティネーションを選択します。

選択した復旧ポイントのコピーを保存する場所を指定するか、参照して指定します。緑色の矢印アイコン ボタンをクリックすると、指定した場所への接続を検証できます。必要に応じて、[ユーザ名]および[パスワード]を入力します。

- b. 仮想ハードディスク(VHD)ファイル用に実行する圧縮のレベルを選択します。

注: 指定されたバックアップ圧縮レベルとコピー圧縮レベルに関係はありません。たとえば、バックアップ先で圧縮レベルが[標準]に設定されている場合でも、コピー ジョブのサブミット時に、圧縮を[なし]または[最大]に変更することができます。

圧縮は、通常、ディスク容量の使用率を減らすために実行されますが、CPU 使用率が増加するため、バックアップ速度が低下するという影響があります。

使用可能なオプションは、以下のとおりです。

- **圧縮なし** - 圧縮は行われません。このオプションを使用すると、CPU 使用率は最も低くなります(最も高速で動作します)。ただし、バックアップイメージのディスク容量の使用率は最大になります。
- **標準圧縮** - 標準圧縮が行われます。このオプションを使用すると、CPU 使用率とディスク容量使用率のバランスを適度に調節します。これはデフォルトの設定です。
- **最大圧縮** - 最大圧縮が行われます。このオプションを使用すると、CPU 使用率が最も高くなります(最も低速で動作します)。ただし、ディスク容量の使用率は、最小になります。

注: バックアップ イメージに圧縮可能でないデータ(JPG イメージ、ZIP ファイルなど)が含まれている場合、それらのデータを処理するために、追加のストレージ スペースを割り当てる必要が生じる場合があります。そのため、圧縮オプションを選択していて、バックアップに圧縮可能でないデータがある場合、実際にはディスク容量の使用率が增大する場合があります。

注: 圧縮レベルを「圧縮なし」から「標準圧縮」または「最大圧縮」にした場合、あるいは、「標準圧縮」または「最大圧縮」から「圧縮なし」に変更した場合、圧縮レベルの変更後に実行される最初のバックアップは自動的に「フル バックアップ」となります。フル バックアップを実行した後、それ以降のすべてのバックアップ(フル、増分、検証)はスケジュールどおりに実行されます。

5. [コピーの作成]をクリックします。

確認のポップアップ画面が表示され、選択した種類の復旧ポイントのコピー処理ががすぐに開始されます。

復旧ポイント イメージが、バックアップ ソースからエキスポート先にコピーされます。



ビデオ

[復旧ポイントのエキスポート](#)

CA ARCserve D2D バックアップからの VHD ファイルの作成

CA ARCserve D2D によってバックアップが正常に実行されるたびに、バックアップの Point-in-Time スナップショット イメージも作成されます。CA ARCserve D2D バックアップから仮想ハード ディスク (VHD) ファイルを作成するには、少なくとも 1 つの CA ARCserve D2D 復旧ポイントが使用可能な状態である必要があります。

注: このタスクは、CA ARCserve D2D UI からのみ利用できます。システム トレイ モニタからは利用できません。

VHD ファイルの作成

1. CA ARCserve D2D ホーム ページから、[復旧ポイントのエクスポート]を選択します。

[復旧ポイントのエクスポート]ダイアログ ボックスが表示されます。



2. バックアップ ソースを指定します。バックアップ イメージが保存されている場所を指定するか、参照して指定します。必要に応じて、その場所にアクセスするための [ユーザ名] および [パスワード] 認証情報を入力します。

カレンダー表示では、表示期間にバックアップ ソースの復旧ポイントを含むすべての日付が(緑色で)強調表示されます。

3. エクスポートする復旧ポイントを指定します。
 - a. カレンダーで、エクスポートするバックアップ イメージの日付を選択します。

その日付に対応する復旧ポイントが、バックアップの時刻、実行されたバックアップの種類、およびバックアップの名前と共に表示されます。
 - b. エクスポートする復旧ポイントを選択します。

その復旧ポイントに対応するバックアップ コンテンツ(すべてのアプリケーションを含む)が表示されます。
4. エクスポート オプションを指定します。
 - a. デスティネーションを選択します。選択した復旧ポイントのコピーを保存する場所を指定するか、参照して指定します。必要に応じて、[ユーザ名] および [パスワード] を入力します。

注: VHD 全体を保持するのに十分な空き領域がある場所が選択されていることを確認してください。

- b. 圧縮レベルを[圧縮なし]に設定します。

検証は行われません。ファイルは純粋な VHD 形式です。このオプションを使用すると、CPU 使用率は最も低くなります(最も高速)。ただし、VHD ファイルに対するバックアップ イメージのディスク容量使用率は最大になります。

5. [コピーの作成]をクリックします。

確認のダイアログ ボックスが表示されます。



6. [OK]をクリックします。

選択した復旧ポイント タイプのコピー プロセスがすぐに開始されます。復旧ポイント イメージが、バックアップ ソースからエクスポート先にコピーされます。

7. コピーとエクスポートの処理が完了したら、エクスポート先に移動し、その中で、CA ARCserve D2D マシンのホスト名に対応するフォルダにアクセスします。
8. ホスト名のフォルダを開き、以下の下位フォルダに移動します。

VStore¥S0000000001

たとえば、ユーザのマシン名が「Department_A」で、復旧ポイント(バックアップ)を「E:¥export_vhd¥」にエクスポートした場合、次の場所に移動します。

E:¥export_vhd¥Department_A¥VStore¥S0000000001

9. 「S0000000001」フォルダを開き、.D2D 拡張子を持つすべてのファイルを確認します。
10. 各ファイルの拡張子を D2D から VHD に変更します。

これらのファイルは、それぞれソース マシン上の実際の物理ディスクに対応しています。ファイルの名前を変更したら、それらのファイルを標準 VHD ファイルとして使用できます。

ログの表示

アクティビティ ログには、CA ARCserve D2D によって実行されたすべての処理の包括的な情報が記録されます。このログは、実行されたすべてのジョブの監査記録になります(最も最近のアクティビティがリストの最初に表示されます)。発生した問題をトラブルシューティングする際に役立ちます。

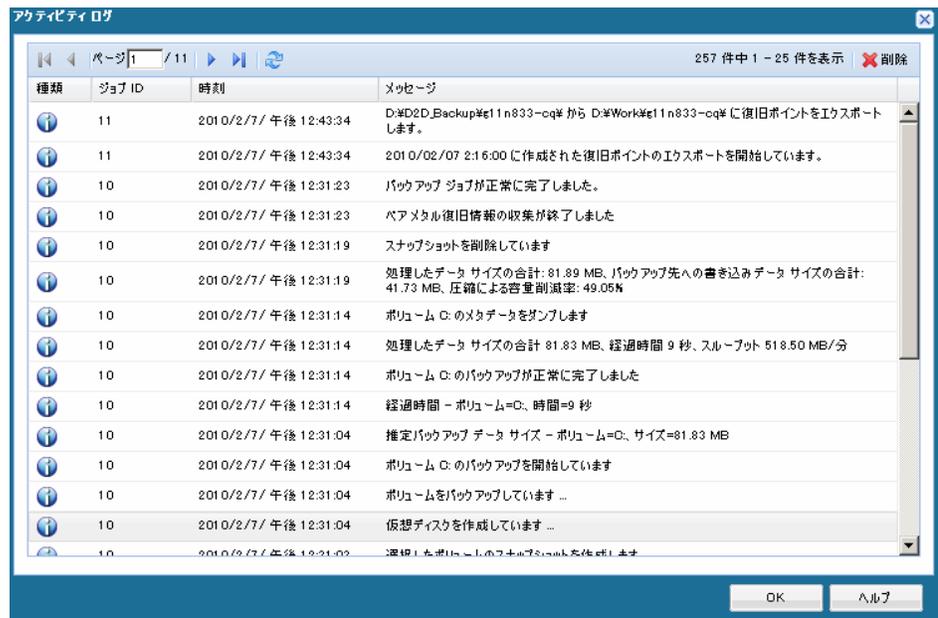
注: このタスクは、CA ARCserve D2D UI からのみ利用できます。システム トレイ モニタからは利用できません。

ログの表示

1. CA ARCserve D2D ホーム ページから、[ログの表示]を選択します。

CA ARCserve D2D アクティビティ ログが開いて、以下の情報が表示されます。

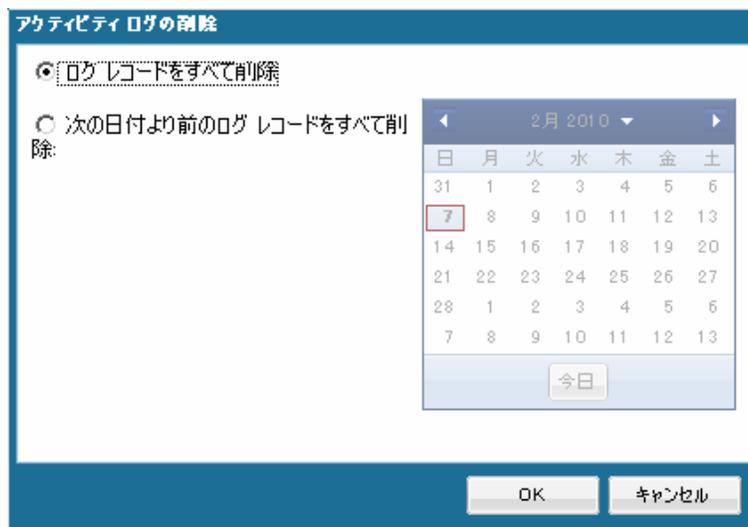
- メッセージの種類(エラー、警告、情報)
- ジョブ ID
- メッセージが記録された時刻
- 実行されたアクティビティまたは発生した問題を示すメッセージ



2. 必要に応じて、[削除]ボタンをクリックし、ログ エントリの一部または全部をページできます。

[アクティビティ ログの削除]ダイアログ ボックスが表示されます。

[ログ レコードをすべて削除]または[次の日付より前のログ レコードをすべて削除]を指定します。[次の日付より前のログ レコードをすべて削除]オプションを選択する場合は、カレンダーから、基準日として使用する日付を指定できます。



CA ARCserve D2D のリモート展開

CA ARCserve D2D をサーバにインストールした後、CA ARCserve D2DUI を使用して、CA ARCserve D2D を選択した他のサーバにリモートで展開できます。CA ARCserve D2D をリモートで展開すると、ローカルに展開した場合に取得できるすべてのファイルとフォルダを、リモート システムを参照せずに取得できます。

注: このタスクは、CA ARCserve D2D モニタからではなく、CA ARCserve D2D UI からのみ実行できます。

CA ARCserve D2D のリモート展開

1. CA ARCserve D2D ホーム ページから、[展開]を選択します。
[展開]ダイアログ ボックスが表示されます。



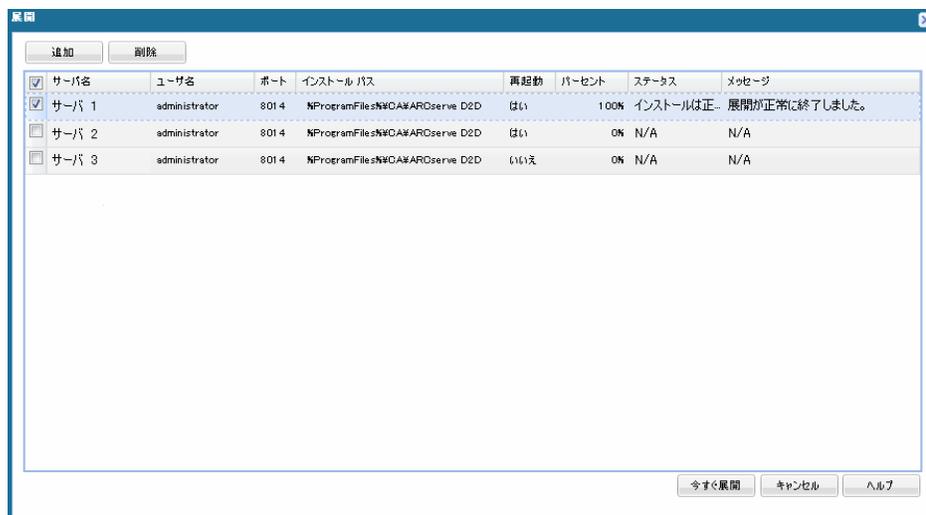
2. [追加]をクリックします。
[追加]ダイアログ ボックスが表示されます。

3. 以下の情報を入力します。
 - a. CA ARCserve D2D を展開するサーバ名。
 - b. 選択したサーバにアクセスするための有効なユーザ名およびパスワード。
ユーザ名は、<マシン名>/<ユーザ名> の形式で指定する必要があります。
 - c. ポート番号。このポート番号は、Web ベースの UI に接続する際に使用されます。
デフォルトでは、ポート番号は 8014 です。
 - d. リモート サーバ上の CA ARCserve D2D のインストールパス。
デフォルトでは、この場所は %Program Files%\CA\ARCserve D2D です。
 - e. 必要な再起動を、展開プロセスが完了したときに自動的に実行するか、後で手動で再起動するかを指定します。

CA ARCserve D2D のリモート展開を有効にするには、システムの再起動(今すぐまたは後で)が必要になります。
 - f. セットアップによってリモート レジストリ サービスを自動的に開始するかどうかを指定します。
4. [OK]をクリックして、[追加]ダイアログ ボックスを閉じます。

[OK]をクリックすると、展開ツールはリモート マシンに問題なくアクセスできるかどうかを確認します。エラーが報告されなければ、そのサーバはリモート展開リストに自動的に追加されます。エラーが報告された場合、該当するエラーが通知されます。そのサーバはリモート展開リストに追加されません。

[展開]ダイアログ ボックスに、追加されたサーバの関連情報がすべてリスト表示されます。



5. リモート展開用のサーバを選択し、[今すぐ展開]をクリックして、リモート展開プロセスを開始します。

リモート展開が成功したかどうかを示すステータス メッセージが表示されます。リモート展開が成功したら、そのリモート サーバから CA ARCserve D2D にアクセスできます。ただし、正しくライセンスされたサーバ上でしかバックアップを実行できません。

また、リモートで展開したサーバの名前が、CA ARCserve D2D ホーム ページの [サーバ]ドロップダウン リストに追加されます。このドロップダウン リストを使用して、これらのサーバのステータスをすばやく簡単に管理および表示できます。



ビデオ

[CA ARCserve D2D のリモート展開](#)

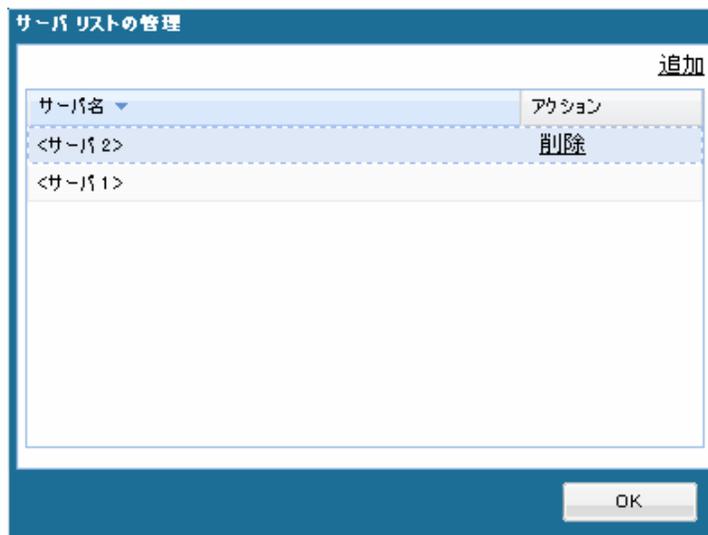
サーバ選択リストの管理

CA ARCserve D2D ホーム ページでは、サーバ選択リストから管理するサーバを選択できます。[サーバ]ドロップダウン リストを使用して、これらのサーバのステータスをすばやく簡単に管理および表示できます。CA ARCserve D2D が正常にリモート サーバに展開されると、そのサーバは[サーバ選択リスト]に自動的に追加されます。サーバ選択リストに対してサーバを手動で追加または削除することもできます。

サーバ選択リストの管理

1. CA ARCserve D2D ホーム ページから、[管理]リンクをクリックします。

[サーバ リストの管理]ダイアログ ボックスが開きます。



- このリストからサーバを削除するには、サーバを選択して[削除]をクリックします。
確認の警告メッセージが表示され、このサーバをリストから削除して良いかどうかを確認されます。
[はい]をクリックして続行すると、サーバがリストから削除されます。
- このリストにサーバを追加するには、[追加]をクリックします。
[サーバ リストにホストを追加]ダイアログ ボックスが開きます。
サーバ名、ユーザ名、パスワード、ポートの情報を入力します。新規サーバの通信プロトコルとして **HTTPS** を使用する場合は、チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このプロトコルは **HTTP** に設定されます。

[OK]をクリックして続行すると、新しいサーバがリストに追加されます。



サーバリストにホストを追加

サーバ名:

ユーザ名:

パスワード:

ポート: 8014

https:

OK キャンセル

ブートキットの作成

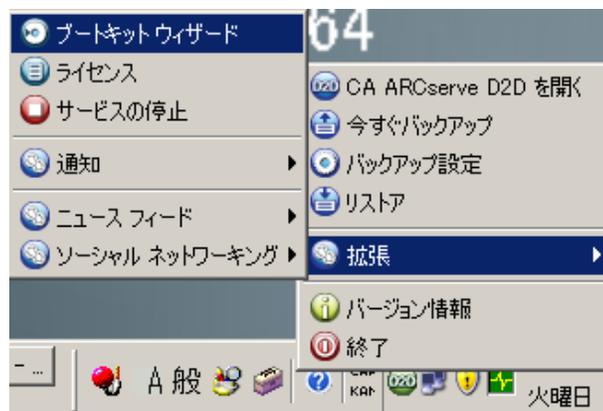
Windows 7 または Windows 2008/2008 R2 の場合、ベア メタル復旧 (BMR) の実行にはブートキットを使用する必要があります。このブートキットは、USB メモリと、Windows 7 または Windows 2008/2008 R2 のインストール メディアから構成されます。(USB メモリは、インストール メディアの代わりに Windows PE イメージと共に使用することもできます。)

注: 作成された USB メモリを使用してマシンを起動することはできません。実際の BMR を実行するには、Windows 7 または Windows Server 2008/2008 R2 のインストール メディア (CD/DVD) と併せて使用する必要があります。

ブート キットを作成する方法

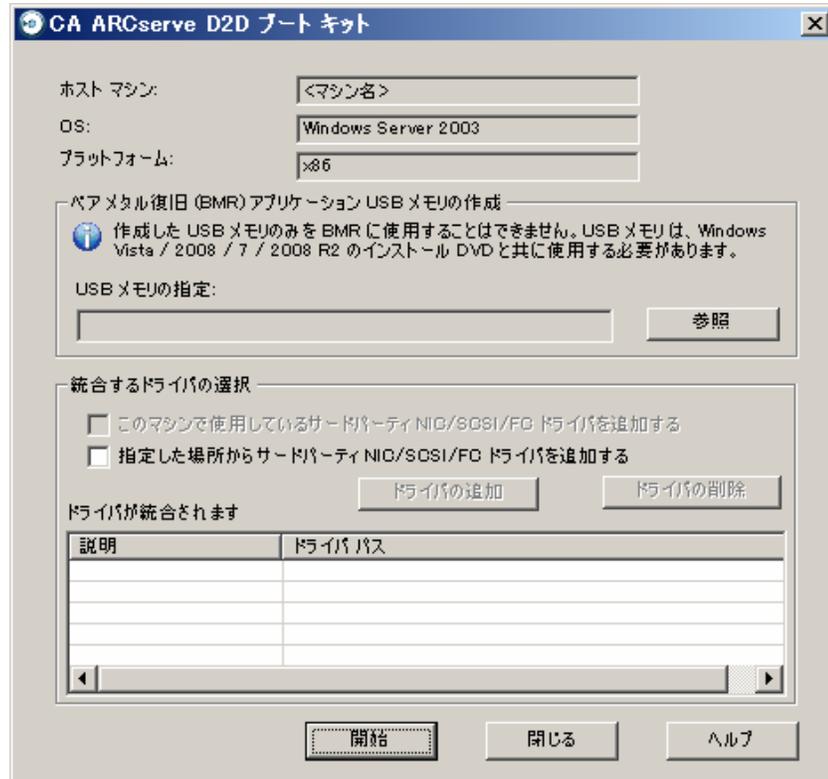
1. CA ARCserve D2D モニタから、[拡張] オプションをクリックし、[ブート キット ウィザード] を選択します。

CA ARCserve D2D ブート キット ウィザードが起動し、[ようこそ] 画面が表示されます。



2. [OK]をクリックして、[よろこそ]メッセージを閉じます。

[CA ARCserve D2D ブートキット]ダイアログ ボックスが表示されます。



3. 接続された USB メモリを指定するか、その場所を参照します。

利用可能な USB メモリがない場合、または USB メモリにブート イメージを作成しない場合は、ブートキットのデータを一時的に他の場所に保存し、後で USB メモリにコピーすることができます。

4. 必要に応じて、ドライブを統合するオプションを選択します。

- 指定した場所からサードパーティ NIC/SCSI/FC ドライバを追加する

必要な NIC (ネットワーク)、SCSI (Small Computer System Interface)、FC (ファイバ チャネル)の各ドライバがブートキット作成プロセスに含まれます。また、表示されたリストからドライバの追加または削除を実行できます。

注: [指定した場所からサードパーティ NIC/SCSI/FC ドライバを追加する]オプションを選択しない場合、USB メモリには特定のマシンのデータは含まれません。

- このマシンで使用しているサードパーティ NIC/SCSI/FC ドライバを追加する
サーバにサードパーティ ドライバがインストールされている場合、このドライバのコピーがバックアップ中に作成されます。 サードパーティ ドライバがインストールされていない場合、このチェック ボックスは選択可能ではありません。

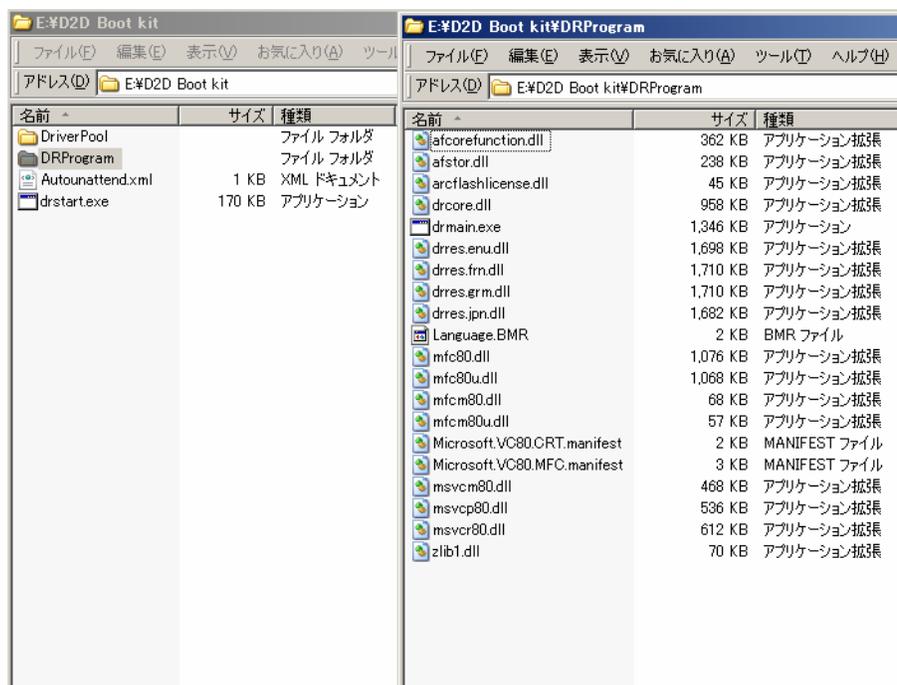
選択されたドライバは、回復処理中にロードされます。

5. [開始]をクリックします。

ブートキットを作成する進捗状況が表示されます。また、USB メモリが正常に作成された場合、確認メッセージが表示されます。

6. ブートキットの作成が正常に完了した後、CA ARCserve D2D ブートキット ファイルは USB メモリにあります。

注：作成された USB メモリは、その他の同種のマシンに使用できます。(32 ビットプラットフォームから作成された USB メモリは、32 ビット サーバをリストアする場合のみ使用できます。また、64 ビットプラットフォームから作成された USB メモリは、64 ビット サーバをリストアする場合のみ使用できます)。



ベア メタル復旧の実行

ベア メタル復旧 (BMR) とは、オペレーティング システムとソフトウェア アプリケーションの再インストール、およびその後のデータや設定のリストアといった、「ベア メタル」からコンピュータ システムをリストアするプロセスです。BMR プロセスでは、ハードウェアが異なる場合でも、わずかな作業でフル マシンをリストアすることができます。BMR を実行できるのは、ブロック レベル のバックアップ プロセス中に、CA ARCserve D2D がデータだけではなく、オペレーティング システム、インストールされたアプリケーション、環境設定、必要なドライバなどの情報も取得しているためです。ベア メタルからコンピュータ システムを再構築するのに必要なすべての関連情報は、連続するブロックにバックアップされ、バックアップ場所に格納されます。

BMR を実行する前に、以下を準備する必要があります。

- 以下のいずれか 1 つ。
 - CA ARCserve D2D 製品と共にリリースされたカスタマイズ済み Windows PE イメージ。
 - ブートキット ウィザードから作成された BMR USB メモリと、Windows 7 または Windows 2008/2008 R2 のインストール メディア。(USB メモリは、インストール メディアの代わりに Windows PE イメージと共に使用することもできます。)

注: USB メモリを使用する場合、Windows PE イメージで使用できないドライバを追加できます。

- 利用可能なフル バックアップが少なくとも 1 つ。

ダイナミック ディスクのリストアは、ディスク レベルでのみ実行できます。ダイナミック ディスク上のローカル ボリュームにデータがバックアップされた場合、このダイナミック ディスクを BMR 実行中にリストアすることはできません。このシナリオで、BMR 実行中にリストアするには、別のドライブ上のボリュームまたはリモート共有にバックアップするか、または別の場所に復旧ポイントをエクスポートし、エクスポートされた復旧ポイントから BMR を実行する必要があります。

注: ダイナミック ディスクへ BMR を実行する場合、BMR 前のディスク操作(ボリュームの削除、クリーニングなど)を実行することはできません。実行した場合、ディスクの存在が認識されない可能性があります。

ブートキット イメージを作成する際にどの方法を選択しても、BMR プロセスは基本的に同じです。

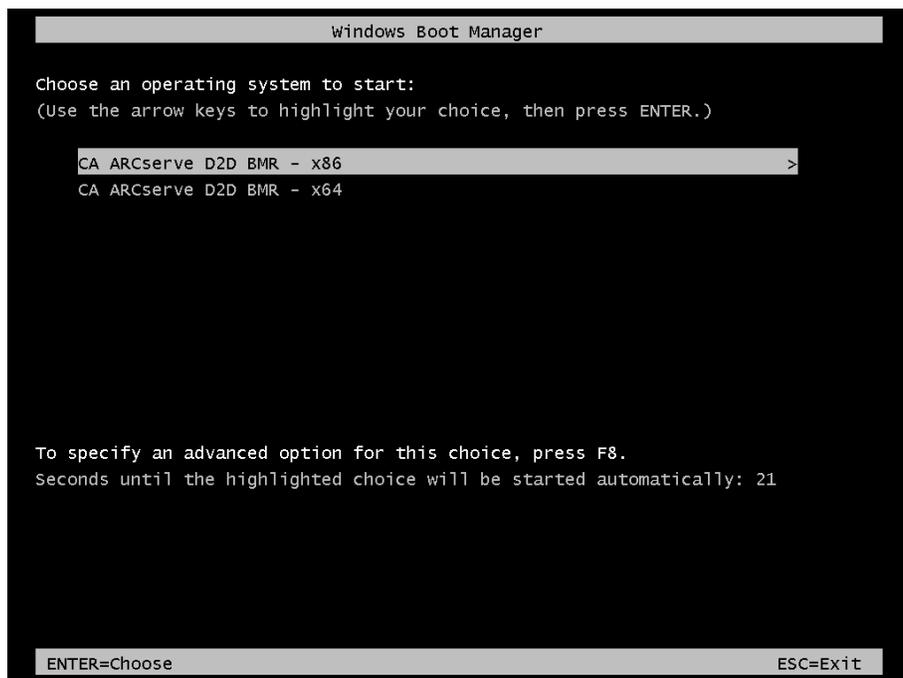
ベア メタル復旧を実行する方法

1. 保存したブートキット イメージ メディアを挿入し、コンピュータを起動します。
 - 保存した Windows PE イメージを使用している場合は、ブートキット イメージ CD/DVD を挿入します。
 - USB メモリを使用している場合は、Windows Server インストール CD/DVD を挿入し、保存したブートキット イメージが含まれる USB メモリを接続します。

BIOS セットアップ ユーティリティ画面が表示されます。

2. BIOS セットアップ ユーティリティ画面から、ブート プロセスを起動する CD-ROM ドライブのオプションを選択します。

注: BMR の実行に Windows PE イメージを使用している場合は、アーキテクチャ (x86/x64)を選択し、Enter キーを押して続行する必要があります。



3. CA ARCserve D2D の言語選択画面が表示されます。言語を選択し、[次へ]をクリックして続行します。

注：BMR USB メモリ、および Windows 7 または Windows Server 2008/2008 R2 インストール メディア (CD/DVD) を使用して BMR を実行する場合、Multilingual User Interface (MUI) がサポートされていない場合は、この言語選択画面は表示されません。



4. ベア メタル復旧プロセスが開始され、BMR ウィザード画面が開きます。



5. BMR ウィザード画面から、バックアップ イメージの復旧ポイントが含まれるマシン (またはボリューム) を選択します。

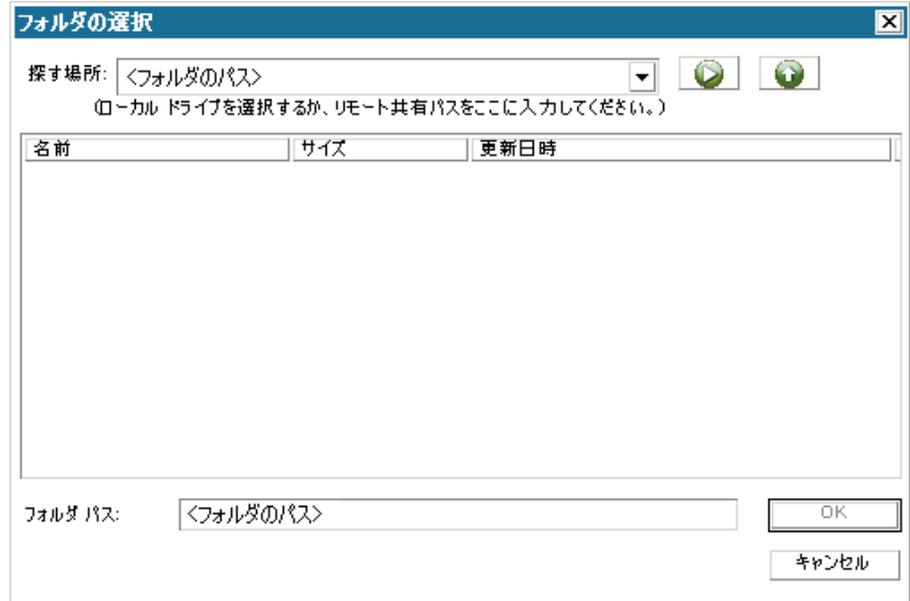
CA ARCserve D2D を使用すると、任意のローカル ドライブまたはネットワーク共有から復旧を実行できます。

- ローカル バックアップから復旧を実行している場合、BMR ウィザードは、復旧ポイントが含まれるすべてのボリュームを自動的に検出して表示します。
- リモート共有から復旧を実行している場合、復旧ポイントが格納されているリモート ロケーションを参照する必要があります。復旧ポイント含むマシンが複数ある場合、すべてのマシンが表示されます。

また、リモート マシンのアクセス情報(ユーザ名およびパスワード)が必要な場合があります。

注: リモートの復旧ポイント参照する場合、ネットワークが稼働中である必要があります。必要な場合には、ネットワーク設定情報の確認/更新を実行したり、存在しないドライバを[ユーティリティ]メニューからロードすることができます。

6. BMR モジュールがローカル デスティネーション ボリュームを検出できない場合、[フォルダの選択]ダイアログ ボックスが自動的に表示され、バックアップが存在するリモート共有を指定する必要があります。



- バックアップの復旧ポイントが保存されているフォルダを選択し、[OK]をクリックします。（緑色の矢印アイコンをクリックすると、選択した場所への接続を検証できます）。

BMR ウィザード画面には、マシン名(左上のペイン)と共に、関連するバックアップ情報(右上のペイン)、およびすべての対応する復旧ポイント(左下のペイン)が表示されます。



- リストアする復旧ポイントを選択します。

選択した復旧ポイントの関連情報が表示されます(右下のペイン)。表示される情報には、実行した(保存した)バックアップの種類、バックアップ先、バックアップされたボリュームなどが含まれます。

注: ご使用のマシンがドメイン コントローラの場合、CA ARCserve D2D は BMR 実行中に Active Directory (AD) データベース ファイルの Authoritative Restore 以外のリストアをサポートします。(MSCS クラスターのリストアはサポートされていません)。

9. リストア対象の復旧ポイントであることを確認した後、[次へ] をクリックします。

BMR ウィザード画面には、利用可能な復旧モードのオプションが表示されます。



CA ARCserve D2D ベア メタル復旧 (BMR)
- 復旧モードの選択

どちらの復旧モードを使用しますか？

拡張モード (A)

拡張モードではリストア処理をカスタマイズできます。このモードを使用すると、以下を実行できます：
ベーシック ボリュームまたはダイナミック ディスク上のデータ リストア先を選択する。
再起動する前に、デバイス ドライバをインストールする。

高速モード (E)

高速モードでは、マシンのデフォルト設定を使用し、ユーザの操作を最小限に抑えてシステムを自動的に復旧できます。



注: [次へ] をクリックすると、BMR ウィザードは、ソース マシン上に存在するパーティションと一致する、新しいパーティションをデスティネーション上に作成します。そのため、デスティネーション マシン上の既存のパーティションが破棄され、新しいパーティションが作成される場合があります。



10. 復旧モードを選択します。

利用可能なオプションは、[拡張モード]と[高速モード]です。

- 復旧処理中にユーザの介入を最小限に抑えるには、[高速モード]を選択します。
- 復旧処理をカスタマイズする場合は、[拡張モード]を選択します。
(これはデフォルトのバックアップ モードです。)

注: 残りの手順は、[拡張モード]を選択した場合のみ適用されます。BMR 処理における手順が順に示されます。

11. [次へ]をクリックします。

BMR ユーティリティによって復旧するマシンの検索が開始され、対応するディスクパーティション情報が表示されます。

上部ペインには、現在のマシン(ターゲット マシン)上のディスク設定が表示されます。下部ペインには、元のマシン(ソース マシン)上のディスクパーティション情報が表示されます。

重要: 下部ペインで、ソース ボリュームに赤い X アイコンが表示されている場合、このボリュームにはシステム情報が含まれており、ターゲット ボリュームに割り当てられていない(マップされていない)ことを示しています。ソース ディスクにあるこのシステム情報ボリュームは、**BMR** 実行中にターゲット ディスクに割り当て、リストアする必要があります。これらを実行しない場合、リポートできません。

注: 別のディスク/ボリュームにリストアする場合、新しいディスク/ボリュームの容量は同じサイズか、元のディスク/ボリュームより大きいサイズにする必要があります。また、ディスク サイズの変更はベーシック ディスクのみに対応しています。ダイナミック ディスクには対応していません。

ARCserve® D2D Bare Metal Recovery

GA ARCserve D2D ベア メタル復旧 (BMR)
- ディスク パーティションの調整

この画面では、ディスク/ボリュームの設定を調整できます。また、元のソース ディスク/ボリュームから現在のデスティネーション ディスク/ボリュームにリストアするデータを選択できます。ディスク/ボリュームを選択してマウス ボタンを右クリックすると、対応する操作オプションが表示されます。

注: 現在の環境にマウスが接続されていない場合、TAB キーまたは矢印キーを使用してディスク/ボリュームを選択し、次にメニュー キーを押すとメニューが表示されます。ディスク/ボリュームに加えた変更は、[オペレーション] メニューにある [コミット] を選択するか、[次へ] ボタンをクリックしてすべての変更をコミットするまで有効になりません。

現在のデスティネーション ディスク/ボリューム のレイアウト

ディスク 0	80.00 GB	(80.00 GB)
ディスク 1	40.00 GB	(40.00 GB)

元のソース ディスク/ボリュームのレイアウト

ディスク 0	80.00 GB	C:\ (32.00 GB)	(48.00 GB)
ディスク 1	40.00 GB	E:\ (40.00 GB)	

■ 未割り当て ■ プライマリ ■ 論理

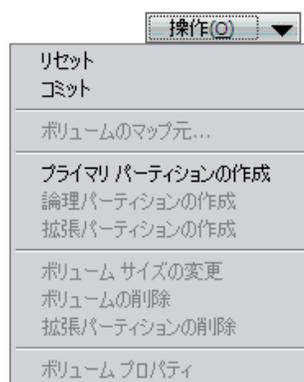
ユーティリティ(U) 戻る(B) 次へ(N) 中止(A)

12. 表示されている現在のディスク情報が正しくない場合、[ユーティリティ]メニューにアクセスし、必要なドライバを確認することができます。

13. 必要な場合には、ターゲット ボリューム ペインで[操作]ドロップダウン メニューをクリックすると、利用可能なオプションを表示できます。

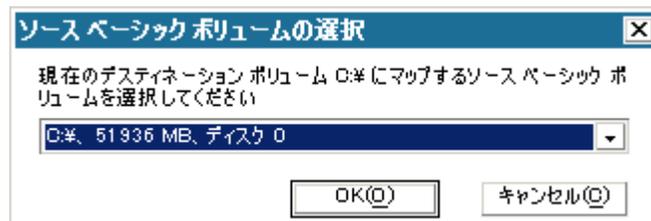
このメニューから、既存のパーティションをリセットしたり、ソース ボリューム上のディスク パーティションに対応する新しいパーティションを作成することができます。（「リセット」とは、環境設定ファイルおよび現在の OS からソースとターゲットのディスク レイアウト情報を再ロードし、ユーザによって変更されたすべてのディスク レイアウト情報を破棄することを意味します。）

注：別のディスクにマップする場合、マップされた各ターゲット ボリュームの容量は同じサイズか、対応するソース ボリュームより大きくする必要があります。



14. それぞれのターゲット ボリュームをクリックし、コンテキスト メニューから[ボリュームのマップ元]オプションを選択すると、このターゲット ボリュームにソース ボリュームを割り当てることができます。

[ソース ベーシック ボリュームの選択]ダイアログ ボックスが開きます。



15. [ソース ベーシック ボリュームの選択]ダイアログ ボックスから、ドロップダウン メニューをクリックして利用可能なソース ボリュームを選択し、選択したターゲット ボリュームに割り当てます。[OK]をクリックします。
- ターゲット ボリューム上に表示されるチェック マーク アイコンは、このターゲット ボリュームがマップされたことを示しています。
 - ソース ボリューム上の赤い X アイコンが緑色のアイコンに変化すると、このソース ボリュームがターゲット ボリュームに割り当てられたことを示します。

16. リストアするすべてのボリューム、およびシステム情報を含むすべてのボリュームがターゲット ボリュームに割り当てられていることを確認した後、[次へ] をクリックします。

[ディスク変更のサブミット]画面が開き、選択した操作のサマリが表示されます。作成中の個々の新しいボリュームについては、対応する情報が表示されます。



17. サマリ情報が正しいことを確認した後、[サブミット]をクリックします。(情報が正しくない場合は、[キャンセル]をクリックします)。

注: ハード ドライブへのすべての操作は、サブミットするまで適用されません。

ターゲット マシン上に新しいボリュームが作成され、対応するソース マシンにマップされます。

18. 変更が完了した後、[OK]をクリックします。

[リストア設定のサマリ]画面が開き、リストアするボリュームのサマリが表示されます。

注：リストア サマリ ウィンドウの下部にある「デスティネーション ボリューム」列に表示されるドライブ文字は、Windows プレインストール環境 (WinPE) から自動的に生成されます。これらのドライブ文字は、「ソース ボリューム」列に表示されるドライブ文字とは異なる場合があります。ただし、ドライブ文字が異なっている場合でも、データは適切なボリュームにリストアされます。



19. サマリ情報が正しいことを確認した後、[OK]をクリックします。

リストア処理が開始されます。BMR ウィザード画面には、各ボリュームのリストアステータスが表示されます。

- リストア中のボリューム サイズによっては、この操作に時間かかる場合があります。
- このプロセスを実行中、復旧ポイント用にバックアップしたすべてのものをブロック単位でリストアし、ターゲット マシン上にソース マシンのレプリカを作成します。
- デフォルトでは、[復旧後にシステムを自動的に再起動する]オプションが選択されています。必要に応じて、このオプションの選択を解除し、後から手動で再起動することができます。
- 必要な場合には、いつでも操作のキャンセルまたは中止を実行できます。



ARCserve® D2D Bare Metal Recovery

GA ARCserve D2D ベア メタル復旧 (BMR)
- リストア プロセスの開始

このページには、ディスク/ボリュームのリストア設定のサマリを表示します。

リストア設定のサマリ

リストア項目	ステータス	進捗状況	スループット
▶ ソース ボリューム C:¥ を現在のデスティネーシ...	リストア中	2.1%	1371 MB/分

復旧後、システムを自動的に再起動する(T)

経過時間: 00 : 00 : 08
推定残り時間: 00 : 06 : 14

[2.1%] [128MB/6118MB] ソース パーティション ボリューム C:¥ を現在のデスティネーション ディスク 0 にリストアしています

▲ ユーティリティ(U) 戻る(B) 次へ(N) 中止(A)

20. [ユーティリティ]メニューから、BMR アクティビティ ログにアクセスすることができます。また、保存オプションを使用して、アクティビティ ログを保存することができます。

デフォルトでは、アクティビティ ログは以下の場所に保存されます。

C:\windows\system32\drlog

注： Windows で生成されるエラーを回避するため、BMR アクティビティ ログ ウィンドウで[名前をつけて保存]オプションを使用して、アクティビティ ログをデスクトップ上に保存したり、デスクトップ上に新しいフォルダを作成することはしないでください。

21. 異なる種類のハードウェアにリストアする場合（以前、ハード ドライブを接続していた SCSI/FC アダプタが変更されている場合など）、元のシステムで互換性のあるドライバが検出されなければ、ドライバの挿入ページが表示され、これらのデバイス用のドライバを指定できます。

復旧されたシステムに挿入するドライバを参照して選択できます。そのため、異なるハードウェアのマシンを復旧する場合でも、BMR 実行後にマシンを元の状態に戻すことができます。

22. BMR プロセスが完了すると、確認の通知が表示されます。

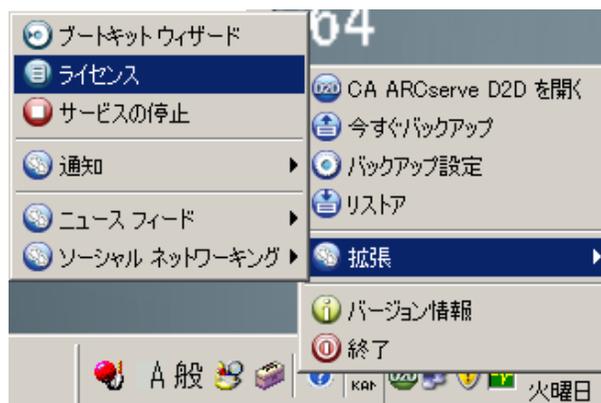
注：

- BMR が完了したら、ブート ボリュームのリストア先のディスクから起動するように BIOS が設定されていることを確認してください。
- 異なる種類のハードウェアにリストアした場合は、BMR が完了し、マシンが再起動した後で、ネットワーク アダプタを手動で設定する必要がある場合があります。
- BMR の完了後、実行される最初のバックアップは検証バックアップになります。

CA ARCserve D2D ライセンスの追加

CA ARCserve D2D の関連コンポーネントに対して認証された継続的なアクセスを行うには、製品のライセンスを登録する必要があります。また、リモート ロケーションに CA ARCserve D2D を展開する場合、CA ARCserve D2D によって提供される利点を利用するには、リモート サイトにもライセンスを登録する必要があります。ライセンスを登録しない場合、CA ARCserve D2D は使用開始から 31 日後に動作しなくなります。

CA ARCserve D2D のライセンスを追加するには、システム トレイ モニタの[拡張]オプションにアクセスする必要があります。



注：Windows コア オペレーティング システム (Windows Server 2008/R2 Core エディション) では、CALicense.exe ファイルを実行し、適切なライセンス キー情報を入力する必要があります。CALicense.exe ファイルは、次のディレクトリにあります：C:\Program Files\CA\SharedComponents\CA_LIC

CA ARCserve D2D のライセンスを追加する方法

注: この操作は、CA ARCserve D2D ソフトウェアが実行されているマシン上でローカルに実行する必要があります。

1. システム トレイ モニタにアクセスし、[拡張]オプションをクリックした後、[ライセンス]を選択します。

[ライセンス確認エントリ]ダイアログ ボックスが開き、有効な CA ライセンス製品がすべて表示されます。

注: 以前ライセンスを取得した CA 製品がない場合、このダイアログ ボックスのフィールドは空です。



2. 25 桁のライセンス キーを入力した後、[追加]をクリックします。次に、[OK]をクリックすると、キーが承認されます。

このライセンス キー情報は、CA ソフトウェアを実行している各マシンの ca.olf ファイルに保存されます。

サーバの通信プロトコルの変更

デフォルトでは、CA ARCserve D2D は、すべてのコンポーネント間の通信に Hypertext Transfer Protocol (HTTP)を使用します。コンポーネント間でやり取りされるパスワードのセキュリティが心配な場合は、使用するプロトコルを Hypertext Transfer Protocol Secure (HTTPS)に変更することもできます。また、それほどのレベルのセキュリティが必要でない場合は、使用するプロトコルを簡単に HTTP に戻すことができます。

注: HTTP から HTTPS、または HTTPS から HTTP にプロトコルを変更した場合は、ブラウザを再起動して CA ARCserve D2D アプリケーションに接続し直す必要があります。

プロトコルの変更

1. HTTP から HTTPS にプロトコルを変更するには、以下の場所から `changeToHttps.bat` ユーティリティ ツールを起動します。

C:\Program Files\CA\ARCserve D2D\BIN

プロトコルが正常に変更されると、以下の内容のメッセージが表示されます。

「プロトコルは HTTPS に変更されました。https://localhost:8014 を使用して CA ARCserve D2D システムにアクセスしてください。」

注: プロトコルが HTTPS に変更された場合、自己署名のセキュリティ証明書が原因の警告が Web ブラウザに表示されます。その場合、警告を無視して続行するか、または今後警告が表示されるのを回避するためにその証明書をブラウザに追加するかを選択します。

2. HTTPS から HTTP にプロトコルを変更するには、以下の場所から `changeToHttp.bat` ユーティリティ ツールを起動します。

C:\Program Files\CA\ARCserve D2D\BIN

プロトコルが正常に変更されると、以下の内容のメッセージが表示されます。

「プロトコルは HTTP に変更されました。http://localhost:8014 を使用して CA ARCserve D2D システムにアクセスしてください。」

名前	サイズ	種類	更新日時	属性
Catalog.dll	45 KB	アプリケーション拡張	2010/03/22 9:59	A
changeToHttp.bat	1 KB	Windows バッチ ファイ...	2010/03/22 9:02	A
changeToHttps.bat	1 KB	Windows バッチ ファイ...	2010/03/22 9:02	A
drcore.dll	1,384 KB	アプリケーション拡張	2010/03/22 9:59	A

第 5 章: CA ARCserve D2D のトラブルシューティング

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[トラブルシューティングの概要](#) (133 ページ)

[CA ARCserve D2D に関する問題](#) (133 ページ)

トラブルシューティングの概要

問題が検出されると、CA ARCserve D2D によって、その問題を特定したり解決するために役立つメッセージが生成されます。これらのメッセージは、CA ARCserve D2D アクティビティ ログに含まれています。アクティビティ ログにアクセスするには、ホームページ上で[ログの表示]オプションを選択します。また、間違ったアクションが試行された場合、CA ARCserve D2D は通常、問題の特定や迅速な解決に役立つポップアップ メッセージを表示します。

CA ARCserve D2D に関する問題

このセクションでは、CA ARCserve D2D の一般的な問題、その原因および解決策について説明します。

再起動後、CA ARCserve D2D にアクセスできない

CA ARCserve D2D UI にアクセスできない場合は、以下のトラブルシューティング手順を実行してください。

1. [プログラムの追加と削除]ダイアログ ボックスから、[Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックして[Windows コンポーネント ウィザード]にアクセスします。次に、[Internet Explorer セキュリティ強化の構成]コンポーネントを削除します。
2. ホストの URL を Internet Explorer の「信頼済みサイト」に追加します。
3. Internet Explorer のセキュリティ レベルを調節します。

BMR を実行した後、Hyper-V VM を再起動できない

IDE (Integrated Drive Electronics)コントローラに接続された複数のディスクで構成される Hyper-V マシンに対して BMR を実行した後、サーバが再起動しない場合、以下のトラブルシューティング手順を実行してください。

1. システム ボリュームが含まれるディスクがマスタ ディスクであることを確認します。

Hyper-V BIOS は、マスタ チャンネルに接続されているマスタ ディスク(ディスク 1) 上でシステム ボリュームを探します。マスタ ディスク上にシステム ボリュームがない場合、VM は再起動しません。

注: システム ボリュームが含まれるディスクが IDE コントローラに接続されていることを確認してください。Hyper-V は SCSI ディスクから起動できません。

2. 必要に応じて、Hyper-V の設定をシステム ボリュームが含まれるディスクを IDE マスタ チャンネルに接続するように変更した後、もう一度 VM を再起動します。

BMR を実行した後、VMware VM を再起動できない

BMR を Integrated Drive Electronics (IDE)コントローラまたは SCSI アダプタに接続された複数のディスクで構成される VMware マシンに対して実行した後にサーバが再起動しない場合、以下のトラブルシューティング手順を実行してください。

1. システム ボリュームが含まれるディスクがマスタ ディスクであることを確認します。

VMware BIOS は、マスタ チャンネルに接続されているマスタ ディスク(ディスク 0) 上でシステム ボリュームを探します。マスタ ディスク上にシステム ボリュームがない場合、VM は再起動しません。

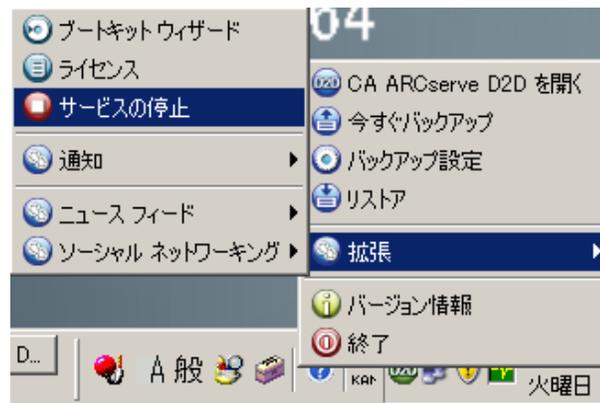
2. 必要に応じて、VMware の設定をシステム ボリュームが含まれるディスクを IDE マスタ チャンネルに接続するように変更した後、もう一度 VM を再起動します。
3. ディスクが SCSI ディスクの場合は、ブート ボリュームが含まれるディスクが SCSI アダプタに接続されている最初のディスクであることを確認します。最初のディスクではない場合、VMware BIOS からブート ディスクに割り当てます。
4. VMware BIOS によって起動中に検出されるのは 8 個のディスクのみであるため、ブート ボリュームが含まれるディスクが最初のディスクから 8 個目までのディスクに存在することを確認します。SCSI アダプタに接続したシステム ボリュームが含まれるディスクの前に 8 個以上のディスクが存在する場合、VM を再起動することはできません。

ポートの競合のため CA ARCserve D2D サービスを開始できない

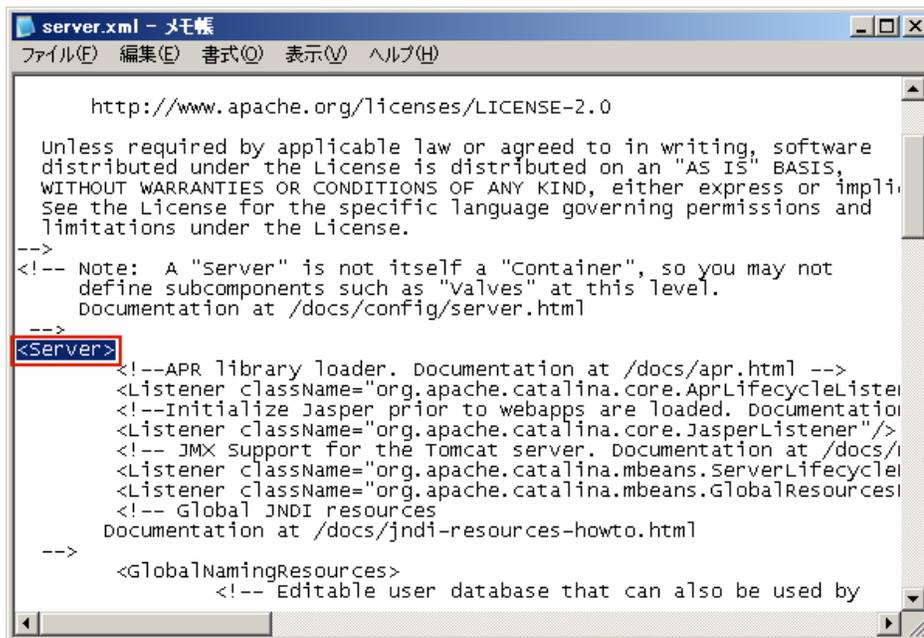
CA ARCserve D2D によって使用されているポートが、Tomcat で使用されているデフォルトのポートと競合する場合があります。この競合により、Tomcat の前に CA ARCserve D2D が開始された場合に、Tomcat が失敗します。この問題を解決するため、以下のように Tomcat のデフォルト ポートを変更することができます。

1. システム トレイ モニタにアクセスし、[拡張]オプションをクリックして[サービスの停止]を選択します。

CA ARCserve D2D Web サービスが停止されます。



- Tomcat の server.xml ファイルを開いて、Tomcat の動作を変更/設定します。
Tomcat の server.xml ファイルは、以下のフォルダ内にあります。
C:\Program Files\CA\ARCserve D2D\TOMCAT\conf
- server.xml ファイル内で <Server> タグを見つけます。



```
server.xml - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)

http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software
distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS,
WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
See the License for the specific language governing permissions and
limitations under the License.
-->
<!-- Note: A "Server" is not itself a "Container", so you may not
define subcomponents such as "Valves" at this level.
Documentation at /docs/config/server.html
-->
-->
<Server>
  <!-- APR library loader. Documentation at /docs/apr.html -->
  <Listener className="org.apache.catalina.core.AprLifecycleListener"/>
  <!-- Initialize Jasper prior to webapps are loaded. Documentation at /docs/jasper-howto.html -->
  <Listener className="org.apache.catalina.core.JasperListener"/>
  <!-- JMX support for the Tomcat server. Documentation at /docs/jmx-remote.html -->
  <Listener className="org.apache.catalina.mbeans.ServerLifecycleListener"/>
  <!-- Global JNDI resources
Documentation at /docs/jndi-resources-howto.html
-->
  <GlobalNamingResources>
    <!-- Editable user database that can also be used by
```

4. <Server> タグを以下のように編集します。

変更前:

```
<Server>
```

変更後:

```
<Server port="8015" shutdown="SHUTDOWN">
```



5. server.xml ファイルを保存して閉じます。

Tomcat をシャットダウンするコマンドが設定され、指定されたポート(8015)でサーバによって受信されるようになりました。

6. システムトレイ モニタにアクセスし、[拡張]オプションをクリックして[サービスの開始]を選択します。

CA ARCserve D2D Web サービスが開始されます。

Firefox で CA ARCserve D2D の UI を表示できない

Firefox を使用してローカルの CA ARCserve D2D サーバに接続(ブラウザと CA ARCserve D2D が同じマシン上に存在)する場合、プロキシの設定によっては CA ARCserve D2D の UI が表示されない場合があります。

このような状態が発生した場合には、ループバック アドレス 127.0.0.1 に接続するか、または localhost の代わりにホスト名を使用してください。

索引

B

BMR - 115

H

HTTP から HTTPS へ - 131

Hyper-V - 72

M

MS Exchange のリストア - 90

MS SQL Server のリストア - 96

R

RSS フィード - 42

V

VHD ファイル - 103

VHD ファイルの作成 - 103

VM - 72

あ

インストール

考慮事項 - 19

サイレント - 29

実行 - 27

オペレーティング システムへの影響 - 20

か

拡張設定 - 59

MS Exchange - 90

MS SQL Server - 96

機能 - 8

検証バックアップ - 15

ご使用になる前に - 31

コミュニティへのアクセス - 39

さ

サーバ選択リスト - 110

サイレント インストールのレスポンス ファイル - 29

サポートへのアクセス - 39

スケジュール - 53

すべてのフィード - 42

た

デスティネーションの設定 - 44

電子メールの設定 - 62

動作

継続的な増分バックアップ - 14

検証バックアップ - 15

ファイル レベル リストア - 16

ブロック レベル バックアップ - 13

ベア メタル復旧 - 17

トラブルシューティング - 133, 134

は

バックアップ

今すぐ実行 - 69

検証 - 15

ブロック レベル - 増分 - 13

バックアップ設定

拡張 - 59

スケジュール - 53

設定 - 56

デスティネーション - 44

バックアップの考慮事項 - 65

ファイル レベルのリストア - 16

ブートキット

作成 - 112

復旧ポイントのエクスポート - 100

復旧ポイントのリストア - 78

ブロック レベルの増分バックアップ - 13

プロトコル - 131

ベア メタル復旧

実行 - 115

動作 - 17

ブートキット - 112

や

ユーザ インターフェース(UI)

概要 - 32

サーバ選択リスト - 34

システム トレイ モニタ - 41

ジョブ モニタ パネル - 34

データ保護のサマリ - 36

バックアップ ステータス - 35

バックアップ履歴 - 37

ら

リストア

考慮事項 - 74

ファイル/フォルダの検索 - 83

復旧ポイント - 78

方式 - 75, 78, 83

リストアするファイル/フォルダの検索 - 83

リモート展開 - 107

レスポンス ファイル - 29

ログ - 106

ログの表示 - 106